

特49

特49-268



1200800229735

268

加世田図幅地質説明書

国立国会図書館



始



Zone 1. Col. III.

KASEDA.

加世田圖幅地質說明書

265
359

特49
268



加世田
圖幅地質說明書

地質調查所



地質調查所 寄贈本

加世田圖幅地質說明書目次

第一章 地形

一 區域

二 地勢

河流

海岸及島嶼

第二章 地質

地質概說

甲 水成岩類

一 中生大統

(一) 中生層

二 新生大統

(二) 第三紀層

自一丁至一〇丁

一丁

二丁

八丁

九丁

自一〇丁至四二丁

一〇丁

一三丁

一三丁

一三丁

二〇丁

二〇丁

		(三) 第四紀層		二三丁
		冲積層		二三丁
乙		火成岩類		二四丁
		(四) 花崗岩		二四丁
		(五) 石英斑岩		二五丁
		(六) 斑糲岩、蛇紋岩及玢岩		二六丁
		(七) 石英粗面岩		二七丁
		(八) 粒狀安山岩		二八丁
		(九) 石英安山岩		二八丁
		(十) 角閃安山岩		二九丁
		(十一) 輝石安山岩		三〇丁
		(十二) 火山灰及灰石		四一丁
第三章 應用地質		自四二丁至		六八丁
一 金銀山				四三丁

		(一) 萬瀬川以北		四四丁
		一 助代銀山及其附近		四五丁
		二 堀切鑛山及其附近		四八丁
		三 浦之名鑛山及其附近		五二丁
		四 樋渡鑛山及其附近		五四丁
		五 田代金山及其附近		五六丁
(二) 枕崎附近				五七丁
一 鹿籠金山區域				五七丁
		(一) 鹿籠金山		六〇丁
		(二) 山之神金山		七一丁
		(三) 池之平金山		七二丁
		(四) 上諏訪及諏訪金山		七二丁
		(五) 千代金山		七三丁
		(六) 組合金山		七三丁

(七)	虛空藏金山	七三丁
二	泊及坊區域	七五丁
三	赤谷鑛山、赤石鑛山及其附近	七八丁
(三)	津貫附近	八一丁
(四)	野間附近	八二丁
(五)	錫禮銀山	八三丁
(六)	平山金山	八四丁
(七)	小田代鑛山	八四丁
(八)	揖宿郡中部	八五丁
一	大谷金山區域	八五丁
(一)	大谷金山	八九丁
(二)	日影金山	一〇一丁
(三)	立神金山	一〇七丁
(四)	小金金山	一〇七丁

(五)	河內山金山	一一一丁
(六)	池田金山	一一四丁
(七)	鬼門金山	一一六丁
(八)	仁田平金山	一一七丁
(九)	廢山	一二一丁
二	辨財天銀山區域	一二四丁
(一)	辨財天銀山	一二六丁
(二)	穎娃銀山	一三八丁
(九)	湯ノ谷銀山	一四四丁
(十)	佐多鑛山	一四六丁
二	銅鑛	一四八丁
三	錫鑛	一五〇丁
(一)	谿山錫山	一五一丁
(二)	西山坑及鎌塚坑	一五四丁

加世田圖幅地質說明書

農商務技師 井上禧之助



第一章 區域地形

加世田圖幅北緯三十一度三十分ニ至リ東經百三十三度ヨリ同百三十一度ニ互リ、全國圖幅區分中縱行(II)橫行(I)ノ位置ヲ占メ、北ハ鹿兒島圖幅、東ハ志布志圖幅ニ隣接シ、南及西ハ茫茫タル外洋トス、其包括セル地域ハ大隅、薩摩ニ跨リ中央ニ鹿兒島灣ヲ夾メリ、其東半島ハ大隅ニシテ肝屬郡ノ大部ト噲嗽郡ノ一小部トヲ包有シ、西半島ハ薩摩ニ屬シ揖宿、川邊兩郡ノ全部、鹿兒島、日置兩郡ノ南部ヲ包有ス、圖幅ノ面積五千二百七十九、二平方基米ノ内、陸地ノ面積大隅半島千五十九平方基米、薩摩半島九百八十九、九平方基米、島嶼ノ面積一、三平方基米、合

四	鐵	一五五丁
五	石 墨	一五六丁
六	建築石材	一五七丁
七	砥 材	一五九丁
八	粘 土	一五九丁
九	火山灰	一六三丁
十	鑛 泉	一六四丁

計二千四十一、二平方基米ニシテ之ヲ海面ノ面積三千二百三十八平方基米ニ比スレハ約二ト三ノ割合ナリトス

二 地 勢

加世田圖幅地ハ中央ニ鹿兒島灣アリテ自ラ二部ニ區分セラレ、東ナルハ大隅半島ニシテ西ナルハ薩摩半島トス
大隅半島ハ九州ノ南端ニ偏在シ甚シク高峻ノ山岳ナク、北西部ノ高隈山群ヲ除ケハ能ク千米以上ニ達スルモノナシト雖モ地未タ開ケス交通亦不便ニシテ人跡ノ稀ナル所多ク、殊ニ南部花崗岩地ニ於ケル山脈ヲ然リトス

半島ノ北西ニ當リ鹿兒島圖幅地ヨリ南走セル高隈山脈ハ畧南北ニ走リ御岳附近ヨリ一脈ノ分岐シテ西ニ向ヘルアリ、蓋シ高隈山脈ハ本圖幅地ニ於ケル最高ノ地域ニシテ千米内外ノ高峰相連レリ、即チ大寛柄岳(千二百三十六米)御岳(千百三十一米)ハ南北ニ連リ、御岳ノ西ニ平岳(千百米)横岳(千百二米)アリ

半島ノ南半ニハ南東ノ海岸ニ近ク之ニ平行シテ約北東ヨリ南西ニ連レル海岸山脈アリ、即チ志布志圖幅ニ近キ甫與志嶽(九百六十七米)ニ起リ南西ニ向ヒテ荒西山(八百三十三米)ヲ通シ、一タヒ花瀬川ニ絶タレテ更ニ南西ニ延ヒ木場嶽(八百米)トナリ、佐多岬ニ達シ遂ニ海ニ没ス、南東方海岸ニ近ク此海岸山脈ニ並行セル一連ノ山脈アリ、六郎館岳(七百五十四米)及稻尾嶽ヲ高シトス、西海岸ニハ小根占ノ南ナル辻嶽(七百六十六米)ヨリ南走セル山脈アリ、其西側ハ急傾又ハ絶壁ヲ以テ海岸ニ臨ムモ東部ハ火山灰ノ堆積セルアリテ僅ニ下リテ臺地トナレリ、海岸山脈ノ北西ニ花崗岩ヲ圍繞シテ最高五百米ニ滿タサル低卑ナル山脈アリ、數度河流ノ爲ニ切斷セラレ、モ約北東ヨリ南西ニ走リ中生代ノ岩石ヨリ成レリ
鹿屋ノ南方ニ畧東西ニ走レル山脈ハ輝石安山岩ヨリ成ル、山脈ハ甚タ高カラスシテ概ネ臺地狀ヲナシ五百米未滿ノ圓頂ノ山巔相連レリ
以上ノ諸山脈ハ火山灰及灰石ヨリ成レル臺地ヲ以テ相連リ、辻嶽山脈

以東ノ如キ七八百米ノ高キ尙此岩石ノ廣ク頒布セルヲ見ル、臺地ノ最モ廣キ所ハ肝屬郡ノ中部ヨリ噲啖郡ニ跨レル即チ半島ノ北東部ヨリ中部ニ互レル地域ナリトス、此地域特ニ北部、南部、西部ニハ所々ニ波浪狀ノ臺地上ニ中生層又ハ安山岩ヨリナレル山峰ノ島嶼ノ如ク存在スルモノアルモ其他ノ地域ハ四十米乃至百米ノ臺地ナリ、之ニ次クヲ大根占、小根占以東ノ多少波浪狀ヲ呈スル臺地トシ、高サ二三百米ニ達スルモノアリテ所々ニ中生層時ニ輝石安山岩露白ス、其他ニハ垂水ノ海岸並ニ南部馬籠附近ニ臺地ヲナセルモノ著シ、平地ハ半島ノ中部ヲ西流スル肝屬川沿岸ニ於ケルモノヲ大ナリトシ、其他河岸及海岸ニ小平地アリ

薩摩半島 鹿兒島圖幅地ヨリ南走セル山脈ハ本圖幅地ニ入リテ兩分セラル、其東ナルハ概ネ揖宿、川邊兩郡ノ境界ヲ劃シ、西ナルハ川邊郡ニ入レリ、東方ニ於ケル山脈ハ殆ント海岸ニ平行シ鹿兒島郡ヨリ南走シテ揖宿、川邊兩郡ノ境界ヲ劃シ南端ハ灰石ヲ以テ被覆セララル、山脈ハ概

シテ低卑ニシテ高サ六百米ニ達スルモノナキモ鹿兒島灣ト大洋ニ流下スル河水ノ分水界ヲナシ、其著シク東方鹿兒島灣ニ近ク偏在スルヲ以テ東側ハ西側ニ比シテ傾斜甚タ急峻ナリ、山脈中烏帽子岳(五百二十一米)荒嶽(四百九十二米)等ヲ高シトス

本山脈ヨリ分岐シテ殆ント中生層ノ走向ト同シク北々東ヨリ南々北ニ走レル數條ノ山脈アリ、延長甚タ大ナラスシテ萬瀬川ニ切斷セラレ或ハ火山灰又灰石ニ被覆セラレテ其跡ヲ失ス、以上諸山脈中ニ於テ熊ヶ嶽(五百八十九米)母岳(五百十七米)中岳(四百二十四米)等ヲ著シトス

西方即チ日置郡ヨリ川邊郡ニ互レル山脈ハ殆ント西海岸ニ並行シテ北々東ヨリ南々西ニ走ルモ萬瀬川及其支流ニ切斷セラレ且ツ高峯ヲナサス、日置郡ニ聳ユル最高ノ金峯山(六百三十六米)ハ北ハ高倉山(四百四十五米)ニ接シ南方ニハ(中岳)二百八十七米ニ連リテ萬瀬川ノ涵域ニ沒シ更ニ南方ニ五百二十米ノ長屋山ヲ起セリ、此山脈ノ東方ニ並走セル山脈ハ北方ニ三百八十六米ノ日笠岳ヨリ三百五米ノ田上岳ニ至リ

テ南方萬瀬川ニ斷タレ更ニ藏多山ニ連レリ、此等山脈ノ南部ハ火成岩ノ噴出ノ爲メ特ニ著シカラスシテ南方坊、泊ノ海岸ニ没セリ
 枕崎ノ西ヨリ北西ニ連レル山脈ハ野間半島ノ脊梁ヲ形成セルモノニシテ主ニ火成岩ヨリ成リ、其分水界ハ著シク南西ノ海岸ニ偏シ隨テ其山側ノ傾斜甚タ急ナリ、而シテ輝石安山岩ヨリ成レル山嶺高ク聳立ス、即チ枕崎ノ北西ニ圍見岳屹立シ、久志ノ北ニ陣尾アリ、北西端ニ近キ野間岳(五百九十一米)ハ一頭地ヲ抜キテ高ク、其圓頂ハ遠ク之ヲ望見スルヲ得ヘシ
 枕崎ノ北東ニ聳ユル國見岳(三百九十五米)ノ火山群ハ北々東及南々西ニ連リ、其北々東ニ接シテ下山岳(四百十五米)アリ
 揖宿郡ノ南部ハ所謂霧島火山脈ニ當リ、完全ナル圓錐形ヲナシ高ク聳ユル開聞岳ハ殆ント半島ノ南端ニアリテ此地方航海者ノ目標タリ、其高サ九百二十四米ニシテ本半島ニ於ケル最高峰ナリ、其北ニ接シテ矢筈岳(三百五十八米)孤立セル大野岳(四百六十五米)アリ、更ニ北方ニ吉見

山、牧神山(五百四十七米)尾巡山(五百七十七米)唐牧山、種子尾山(四百九十七米)等相接シ、低卑ナル山嶺ニヨリ北方ノ海岸山脈ニ連レリ、鷲尾岳(四百一十一米)ハ鰻池火口壁ノ一部ヲナシ其北ニ清見岳アリ、高江山(二百三十二米)ハ港川ヲ隔テ、之ト相對セリ、池田湖ハ恰モ其中部ニアリテ東、南、北、東ハ急斜若クハ絶壁ヲナシ西部ニハ脇浦ノ北ヨリ鬼門平ニ連リ殆ント南北ニ絶壁ヲナセルアリ
 以上ノ諸山脈並ニ火山群ハ火山灰若クハ灰石ニ被覆セラレ、概シテ波浪狀ヲナセル臺地ヲ以テ相接スルモ中生層及火成岩ノ島嶼ノ如ク臺地中ニ孤立散在スルモノ少カラス
 臺地ノ最モ廣キ所ハ萬瀬川ノ南部ヨリ揖宿郡ニ亘レル地域ニシテ特ニ南部ハ灰石ヨリ成リテ南方海岸ニ向ヒ緩斜セリ、此外海岸若クハ河流ニ沿ヒ臺地亦廣ク半島全面積ノ過半ヲ占ム
 平地ハ西海岸ニ稍廣ク萬瀬川ノ南北ニハ砂丘相連レリ、此外ニハ萬瀬川ニ沿ヘル川邊附近ヲ大ナリトス

河流

本圖幅地ハ九州ノ南端ニアル半島ナルヲ以テ舟楫ヲ通スヘキ大ナル
河流アルコトナシ、大隅半島ノ北部ニハ分水嶺ハ西方ニ偏スルヲ以テ
鹿兒島灣ニ朝スル河流ニハ特ニ大ナルモノナク、只高隈山脈ヨリ發源
シテ垂水ノ南ヲ流下スル本城川及同山脈ニ發源シテ南流セル高須川
稍大ナルノミ、肝屬川ハ肝屬郡ノ北部及中部ノ流水ヲ集メ東流シテ志
布志圖幅ニ入レリ、之ヲ本半島ニ於ケル最大ナル河流トス
半島ノ南部ニハ分水界ヲナセル海岸山脈南東海岸ニ近ク、隨テ鹿兒島
灣ニ入ル河流ハ外洋ニ注入スルモノニ比シテ大ナリ、然レトモ其地域
狭小ナルヲ以テ著シキ河流ヲナスニ至ラス、雄川、神ノ川ヲ稍大ナリト
ス
薩摩半島ニ於テハ分水嶺ハ甚シク東海岸ニ接近ス、而シテ其以西ノ水
ハ萬瀬川トナリテ外洋ニ注入シ隨テ萬瀬川ヲ除ケハ他ハ皆細流ナリ
トス、萬瀬川ハ日置、川邊兩郡ノ諸水ヲ集メ、其諸支流ハ恰モ中生層ノ走

向ト同シク南北乃至北々東ノ方位ニアル縱谷ヲ流下シ、幹流ハ殆ント
之ト直角ニ西北西ノ流路ヲ取リテ横谷ヲナセリ、此外ニハ枕崎ノ西ニ
於テ海ニ朝スル花渡川ヲ稍大ナリトス

海岸及嶋嶼

海岸ハ屈曲ニ乏シク良港ト稱スヘキモノナシ、鹿兒島灣ニ面スル海岸
ハ殆ント一直線ニ南北ニ連リ大隅半島ノ南東岸亦然リ、而シテ大隅半
島ノ北半ヲ除ケハ何レモ海岸ニ於ケル山脈ト平行シ急斜若クハ絶壁
ヲ以テ海ニ迫リ茲ニ地質構造線ヲ想ハシム、薩摩半島ノ南海岸ハ概シ
テ灰石ヲ以テ終リ低卑ナル斷崖ヲナス
川邊郡南西岸ニハ岬角西ニ突出シ、之ニ接シテ島嶼岩礁基散シ坊、泊、久
志等ノ投錨地アリ、野間半島ノ北東岸ニハ岬角、島嶼ハ北方ニ連リ小浦
ノ投錨地アリ、大浦ノ灣入ハ水淺シ、蓋シ南東岸ニハ山脈海ニ迫リテ急
斜若クハ絶壁ヲナシ海ハ直ニ海岸ヨリ深シ
枕崎ハ南岸ニアリテ著名ノ漁村ナルモ港ト稱スルニ足ラス、獨リ山川

灣ハ本圖幅ニ於ケル唯一ノ良港ニシテ西、南、北ノ三面ハ火山岩ノ絶壁ヲ以テ圍マレ、東方ハ一帶ノ砂濱ニシテ能ク風浪ヲ防クニ足ルモ港内ノ狭小ナルト、土地偏在セルヲ以テ此地方ノ小港タルニ過キサレヘシ島嶼ニハ大ナルモノナシ、野間半島及其南部沿岸ニハ小嶋嶼、岩礁甚タ多ク、秋目ノ西約一里ニアル冲秋目島ヲ最モ大ナリトス、揖宿郡指宿ノ東約一里半ニアル知林島ハ大千潮ニ際シテ徒涉スルヲ得ヘシ、其他ノ島嶼ハ皆小ニシテ舉クルニ足ラス

第一章 地質

地質概説

加世田圖幅地ヲ構成セル岩石ハ之ヲ水成岩及火成岩ノ二類トシ、更ニ之ヲ細別スレハ左ノ如シ

- 甲 水成岩類
 - 一 中生大統
 - (一) 中生層
- A Sedimentary Rocks
 - I Mesozoic Group
 - I Mesozoic

二 新生大統

II Cainozoic Group

- (二) 第三紀層
 - 2 Tertiary
- (三) 第四紀層
 - 3 Quaternary
 - Alluvium
- 乙 火成岩類
 - B Igneous Rocks
 - 4 Granite
 - 5 Quartz-porphry
 - 6 Gabbro, Serpentine, and Porphyrite
 - 7 Liparite
 - 8 Propylite
 - 9 Dacite
 - 10 Hornblende Andesite
 - 11 Pyroxene Andesite
 - 12 Volcanic Ash and Mud Lava
- (四) 花崗岩
- (五) 石英斑岩
- (六) 斑糲岩、蛇紋岩及玢岩
- (七) 石英粗面岩
- (八) 粒狀安山岩
- (九) 石英安山岩
- (十) 角閃安山岩
- (十一) 輝石安山岩
- (十二) 火山灰及灰石

中生層ハ加世田圖幅地ノ基盤ヲナセル最古ノ地層ニシテ大隅半島ニ於テハ花崗岩ニ貫通セラレ、又ハ火山灰及灰石ニ被覆セラレ北部及南部ニ稍廣ク露出ス、薩摩半島ニ於テハ北部及中部ニ廣ク頒布シ火山灰及灰石ニ被覆セラレ、南西部ニハ石英斑岩、安山岩ノ噴出ノ爲メニ切斷セラレテ所々ニ小區域ニ露出セリ、第三紀層ハ薩摩半島ノ南東部及北東部ニ所々ニ小區域ニ散在シ、第四紀沖積層ハ河岸若クハ海岸ノ平地ヲ構成ス

花崗岩ハ大隅半島ノ南部ニ廣ク北東ヨリ南西ニ連リ本圖幅地ニ於テ最モ人跡稀ナル地域ヲ構成シ、此外北西部ニ小區域ニ露出ス、本岩石ハ中生層ヲ貫通シテ噴出シタルモノニシテ該層ノ岩石ヲ接觸變質セシム、石英斑岩ハ薩摩半島ノ南西部ニ中生層ヲ貫キ、石英粗面岩、粒狀安山岩、石英安山岩、角閃石安山岩ハ薩摩半島ノ南東部ニ小區域ニ露出シ又ハ孤立セル小丘ヲナセルモノアリ、輝石安山岩ハ薩摩半島ノ南東及南西部及大隅半島ノ中部ニ其區域廣シ、蓋シ安山岩ハ其種類多ク其噴出

ノ時代ニ前後アリシモノナルヘク、且ツ一噴火口ヨリ遠ク流出セルモノハ比較的少ク各別ニ噴出シタルモノ多カラシ、火山灰及灰石ハ其噴出ノ源本圖幅内ニアラサルモ其區域甚タ廣ク脇浦附近ニ於テハ開聞岳ノ火山礫ニ被覆セラレ、而シテ火山灰ト灰石トハ時ニ互層シテ判然タル區劃ヲナスコト能ハサルヲ以テ茲ニ之ヲ一括シタリ

甲 水成岩類

一 中生大統

(一) 中生層

中生層ハ花崗岩、石英斑岩、安山岩等ニ貫通セラレ、火山灰及灰石ニ被覆セラレ、テ各所ニ散在セルモ其頒布ノ區域ニ於テハ火山灰及灰石ニ亞キ、概シテ北部ニ於テハ火山灰及灰石ニ被覆セラレ、南部ニハ火成岩ニ貫通セラレ接觸作用ヲ受ケ岩石ハ爲メニ變質セルモノアリ、而シテ大隅半島ノ北部ニ發達セルモノハ薩摩半島ニ於ケルモノヨリ岩石稍古期ニ沈積セルカ如キ外觀ヲ有シ、高隈山四近ニ於テハ粘板岩ハ千枚岩

一四

狀ヲ呈スルモノ多ク恰モ古生層ニ屬スルカ如キ觀ヲ呈セリ
中生層ヲ構成セル岩石ハ砂岩、粘板岩ニシテ稀ニ紅紫色ノ輝綠凝灰岩
ノ薄層ヲ夾ミ、野間岬ニ扁豆狀ヲナセル一條ノ石灰岩ノ薄層ヲ介在ス、
地層ハ概シテ北々東ヨリ南々西ニ走リ東南東ニ傾斜スルヲ普通トス、
大隅半島 鹿兒島圖幅ノ地ヨリ連互シテ本圖幅最高ノ高隈山脈ヲ構
成セル中生層ハ主ニ粘板岩ヨリ成リ砂岩ノ薄層ト互層セリ、粘板岩ハ
通常黑色ニシテ板狀ニ剝理スルモ又帶綠色ニシテ一部ニハ千枚岩様
ニ變セルモノ多ク又「アヂノール」板岩ニ類スルモノアリ、山脈ノ南端郷
原ノ西ニ位スル鹿屋鑛山附近ニハ紅紫色ノ輝綠凝灰岩及粘板岩互層
シ、粘板岩ハ千枚岩様ヲ呈スルコト多シ、概言スレハ岩質ハ他ノ區域ニ
比シテ古期ニ成レルカ如ク所ニヨリ古生層ヲ見ルカ如キ觀アリ、本層
ハ東、西、南ニ於テ火山灰及灰石ニ被覆セラレ、北西隅ニハ二區ニ區分セ
ラレ、垂水ノ東方垂水ヨリ上高隈ニ通スル街道ニ於テ岩石ハ花崗岩ノ
爲ニ變質シテ多少堅緻トナリ雲母ヲ形成スルモノアリ、層向ハ必ス一

一五

ナル能ハスト雖モ北々東ナルヲ普通トシ西方六七十度内外ニ傾斜ス
ルモノ多ク又ハ直立ニ近キモノアリ、而シテ垂水ノ西方ニハ時ニ緩斜
シテ四十五度ナルコトアリ
半島ノ南部ニ露出スル中生層ハ花崗岩ノ噴出ノ爲ニ二分セラレ、其北
西ノ邊緣ニ沿ヘルモノハ火山灰及灰石ニ被覆セラレテ所々ニ切斷セ
ラル、岩層ハ砂岩、粘板岩ヨリ成リ、湯ノ谷附近ニ於テハ花崗岩ノ爲ニ變
質セラル、層向ハ一般ニ北東乃至北々東ナルモ大濱等ニハ東西ニ近ク
殆ント花崗岩ノ境界ニ並走スルカ如シ、傾斜ハ北西六七十度ヲ普通ト
スルモ高山村永野、田代村川原ノ東方ニハ南東六七十度ニ斜下ス、或ハ
背斜層及向斜層ヲ形成スルモノナラン、又高山村山神ニハ地層南方ニ
十度ニ傾斜シ、小根占村大根田ノ西方ニハ北々西五十度ニ傾斜スル等
地層ハ隨所小褶曲ヲナシ又斷層ノ存在ヲ示セリ
小根占附近ニ臺地ノ下部ニ露出セル中生層ハ東方及南方ニハ地層褶
曲スルモ概シテ北々東ヨリ南々西ニ走リ西北西ニ急斜シ、北方ニハ北

六七十度ニ傾斜シ、海岸ニハ約南六十度斜下シ、粘板岩ハ多少千枚岩様ニ剝離スルノ性アリ
 花崗岩ノ南部ニアルモノハ半島ノ南部ヲ形成シ砂岩、粘板岩ノ互層ヨリ成ル、粘板岩ハ黒灰色乃至漆黒色ナルモ亦綠色ナルモノアリ、砂岩ハ暗灰色又ハ灰色ナルヲ普通トスルモ又帶綠色ナルモノアリ、概シテ中粒ナルモ時ニハ蠻岩ニ近キモノアリ、地層ハ中部及南部ニハ一般ニ北々東ヨリ南々西ニ走リ概シテ西北西五十度内外ニ傾斜スルモ時ニ直立ニ近キモノアリ、而シテ竹之浦附近ニハ東南東五十度ニ傾斜ス、北方伊坐敷ニ近ク花崗岩ニ接スル附近ニハ層向ハ略東西ニ近ク南方四五十度ニ傾斜シ殆ント花崗岩ノ境界ト並走シ、嶋泊ノ南ニハ北々西六十度ニ傾斜ス、蓋シ其間向斜層アラン、地層ハ隨所褶曲ヲナセルモノ少カラスシテ東海岸間泊及大泊附近ニハ殊ニ著シク北若クハ西ニ急斜シ或ハ直立ス
 砂岩、粘板岩ハ花崗岩ノ噴出ノ爲メ變質シ堅緻トナリ又多量ノ雲母ヲ

形成スルモノアリ、小根占村大濱、佐多村邊塚ノ海岸及伊佐敷附近ニ於テ之ヲ檢スルヲ得ヘシ、而シテ邊塚ニ於テハ破片トナリテ花崗岩中ニ撈取セラレタルモノ少カラスシテ岩石ハ雲母片岩ニ移過ス
 火山灰及灰石ヨリ成レル臺地上ニ屹立シテ小丘ヲナセル中生層ハ其層向傾斜ノ明ナラサルモノ多ク一般ノ方向ヲ知り難キモ北部ナル持留附近ノ沿道ニハ西四十五度ニ傾斜ス
 薩摩半島ノ北半ハ中生層ヨリ成リ厚キ火山灰及灰石ニ被覆セラレ、南西部ニ於テハ長屋山、藏多山附近ヲ除ケハ所々ニ小區域ニ露出スルニ止マレリ
 鹿兒島圖幅地ヨリ揖宿、川邊兩郡ノ北部ニ連レル中生層ハ砂岩、粘板岩ノ互層ヨリ成リ、鹿兒島圖幅ニ接セル助代嶺山ノ北部ニハ石英等ノ礫ヨリ成レル蠻岩ノ薄層ヲ挟ミ知覽、鹿兒島街道ニハ紅紫色ノ輝綠凝灰岩ヲ檢セリ、而シテ北部ニ於テハ砂岩ハ概シテ粘板岩ヨリ厚層ヲナセルモノ、如ク通常灰色ニシテ中粒乃至細粒ナルモ時ニ蠻岩ニ近キモ

ノアリ、粘板岩ハ黑色乃至黒灰色ニシテ千枚岩状ヲ呈スルコト稀ニ其
外觀恰モ第三紀ノ頁岩ニ酷似スルモノアリ、殊ニ鹿兒島、知覽街道中ノ
茶屋附近ニ見ルモノ、如キ殆ント之ト區別スルコト能ハス、而シテ鑛
山附近ニ於テハ岩石ハ變質シテ甚シク硅質堅緻トナリ時ニ白色ニ變
スルモノアリ、層向ハ必ス一ナル能ハサルモ北々東ヨリ南々西ニ走リ
西北西ニ傾斜スルヲ普通トス、而シテ白川ノ南北ニハ地層東南東ニ傾
斜シテ其東西ニ向斜層、背斜層ヲ形成セルカ如シ、傾斜ノ角度ハ六七
度ナルモ北平ノ東方及西方湯之元ノ南部、浦之名ノ南東ニ見ルカ如ク
直立ニ近キモノモ亦少カラサルト共ニ中ノ茶屋、觀音河内、和田、牧、樋高
等ニ於ルカ如ク四五十度ノ斜角ヲ有スルモノアリ、地層ノ小褶曲、小斷
層亦甚タ多ク、鹿兒島、知覽並ニ鹿兒島、川邊街道等岩層ノ好ク露出セル
地域ニ於テ屢之ヲ檢スルヲ得ヘシ

又久志ノ南方及沖秋目島ノ北部ニハ粘板岩中ニ甚タ薄キ扁豆状ノ炭
層ヲ介在ス、地層ハ石英斑岩並ニ安山岩ノ噴出ノ爲メ變動ヲ受クルコ
ト甚シキモ尙北々東乃至南北ノ層向ヲ保チ西ニ傾斜スルモ鹿籠ノ北
東峰尾峠ニハ南々東七十度ニ傾斜シ久木野、坊ノ東方ニハ東ニ傾斜シ
向斜層若クハ背斜層ヲナセルモノナルヘシ、傾斜ノ角度ハ六七十度ナ
ルモノ多ク、時ニ直立ニ近キモノアリ、又四五十度ニ斜下スルモノアリ
久志、泊間ノ峠ヨリ坊ノ南西半島附近ニ至ル一帯ノ地ハ砂岩、粘板岩ヨ
リ成ルモ南部ニハ粘板岩ハ帶黄色ノ岩片ニ破碎シ頁岩トナリ厚層ヲ
ナシ砂岩ハ柔軟ナリ、累層ハ概シテ褶曲甚シク層向亦一定セサルモ尙
南北若クハ北々東ヲ指シ傾斜ハ多ク西ニシテ亦東ナルモノアリ、其角
度亦一定セスシテ二十五度内外ヨリ直立ニ近キモノアリ、此岩層ハ岩
質上恰モ第三紀層ヲ見ルカ如キ觀アリ、殊ニ泊村ノ北部ニ於テ然リト
ス、蓋シ或ハ第三紀層ニ屬スルモノナルヤヲ知ラスト雖モ層位上北部
久志ニ見ルモノト全ク區別スルコト能ハサルト共ニ岩石ハ漸次移過

スルヲ以テ茲ニ中生層トシテ之ヲ一括シタリ
 野間半島ニ露出スル中生層ハ所々ニ小區域ニ露出スルモ尙北々東ノ
 層向ヲ保テリ、傾斜ハ或ハ東或ハ西ニシテ向斜層若クハ背斜層ヲナセ
 ル所アルモ之ヲ知ルニ難ク、傾斜ノ角度ハ六七十度ナルコト多シ
 半島ノ西部野間池ノ對岸山神ノ北部ニ嘗テ石灰岩ヲ採取シテ石灰ヲ
 燒製セルコトアリ、現時ハ已ニ之ヲ採取シ盡シテ其露頭ヲ見ル能ハサ
 レトモ茲ニ堆積セル石灰岩ハ黝灰色ニシテ恰モ鳥ノ巢石灰岩ニ酷類
 シ、種屬明ナラサレトモ *Lithothamnium* 其他ノ珊瑚類ノ化石ヲ含有シ四國南部
 ノ白堊紀層ニ介在セル薄層ノ石灰岩ト比較スヘキモノナルヘク、隨テ
 此等ノ地層ノ關係ニ就キ地質學上ノ考說ニ一歩ヲ進ムルモノナラン

二 新生大統

(二) 第三紀層

第三紀層ハ川邊、揖宿兩郡ノ所々ニ小區域ニ露出セリ、川邊郡野間半島
 赤生木ノ西方ニ緩慢ナル起伏ヲナセル第三紀層ハ凝灰質頁岩、凝灰質

砂岩及凝灰岩ヨリ成リ、傾斜ノ角度ハ普通十五度ヲ越ユルコト稀ナリ、
 凝灰岩ニハ赤色、綠色、黃色及雜色ノ種類アリテ時ニ角蠻岩ニ變移スル
 モノアリ、海岸ニ近ク二箇所ニ小區域ニ露出セルモノハ柔軟ナル砂質
 凝灰岩、凝灰質砂岩及蠻岩ニシテ東微北二十五度乃至三十度ニ傾斜ス、
 久志、泊間ナル車岳ノ南縁ニアリテ中生層ヲ被覆セルモノハ厚層ヲナ
 サスシテ主ニ凝灰質頁岩ヨリ成リ凝灰質蠻岩及角蠻岩ト互層シ質概
 シテ柔軟ナリ、地層ハ概シテ北方若クハ北西ニ緩斜スルモ時ニ三十度
 内外ノ角度ヲナスコトアリ、鹿籠・金山ノ南ニアル第三紀層ハ主ニ綠、黃、
 赤色ノ柔軟ナル凝灰質頁岩ヨリ成リ凝灰質砂岩、凝灰岩ト互層シ北七
 八十度東ニ走リ南十度乃至二十度ニ傾斜ス、此外峰尾峠、秋目附近、後藤、
 沖秋目島等ニ極メテ小區域ニ凝灰岩、角蠻岩ノ露出セルモノアルモ之
 ヲ地質圖上ニ示サス
 揖宿郡池田湖附近ニアル第三紀層ハ金銀鑛床ヲ胚胎セル母岩トナリ、
 其一部ハ變質シテ堅緻トナレリ、大谷金山附近及穎娃銀山附近ニ於テ

ハ下部ニ帶綠色ノ凝灰角礫岩アリ、上部ニ灰白色若クハ褐色ノ凝灰岩アリ、而シテ兩岩ハ時ニ漸次移過スルコトアリ、凝灰岩ハ時ニ堅緻トナリ大谷及顯娃兩嶺山附近ニ見ルカ如ク外觀石英粗面岩ト區別シ難キモノアリ、又砂質ヲ帶ヒ凝灰質砂岩トナリ或ハ凝灰質頁岩ニ移過ス、顯娃、辨財天兩銀山間並ニ山川、顯娃街道ニハ綠色ノ凝灰岩並ニ帶綠色ノ凝灰質砂岩露出シ石材トシテ之ヲ採取ス、地層ハ概シテ緩ナル起伏ヲナシ傾斜ノ角度ハ十度ヲ越ユルコト稀ナリ
三巢山ノ北及南ナル小丘ハ時ニ斷崖ヲナシテ屹立シ主ニ褐色若クハ灰白色ニシテ柔軟ナル凝灰岩ヨリ成リ凝灰質砂岩ト互層シ、三巢山ノ北ニハ北西二十度内外ニ傾斜ス、岩石ハ分解シテ甚シク柔軟トナルモノアリ、或ハ變質シテ堅緻トナリ石英粗面岩ト區別スルコト能ハサル
山川ノ南ニ南北ニ連互セル小丘ハ主ニ褐色乃至綠色ノ柔軟ナル凝灰岩及凝灰質砂岩ヨリ成リ、角礫岩及薄キ礫岩ヲ夾ミ南部ニハ角礫岩厚

シ、地層ハ概シテ西方ニ緩斜セルカ如シ

(三) 第四紀層

沖積層

沖積層ハ砂礫、粘土等ノ柔軟ナル最新ノ堆積層ニシテ其區域甚タ廣カラス、大隅半島ノ中部ヲ横斷シテ東流セル肝屬川ノ沿岸ニ發達セル沖積層ハ本圖幅地ニ於テ最大ノ面積ヲ占メ、之ニ次クモノヲ同半島ノ垂水附近、薩摩半島ニ於ケル川邊附近及萬瀬川ノ南北ニアル地域トス、此他河流、海岸ニ沿ヒテ沖積層ノ小平地アリ
鹿兒島圖幅地ヨリ連續シテ薩摩半島ノ西海岸ニ發達セル一帯ノ砂丘ハ吹上濱ト稱シ、高サ十五米ヨリ四十米ニ達ス、其沿岸一帯ノ海岸ハ淺洲ヲナシ干潮ニハ遠ク海上ニ干瀉ヲ現出ス、此地方ハ往昔一大森林ヲナセシモ維新後樹木ヲ伐截セル爲メ殆ント全ク砂原ニ變セリ、近時樹木ヲ殖栽シ已ニ數尺ニ成長セルモノアルモ未タ充分ノ効果ヲ收ムルニ至ラスシテ砂ハ風力ノ爲ニ尙東方ニ其威ヲ振ヒ東部ノ田畠ヲ侵ス

ノ患ナシトセス、茲ニ最モ注意スヘキハ河流ノ常ニ砂丘ト田畠トノ境
 界ヲナセルコトナリトス、蓋シ砂ハ風ノ爲ニ東方陸地ニ進行スルモ河
 流ノ爲メニ遮斷セラレテ河中ニ入り之ヲ越エテ其對岸ニ達スルモノ
 甚タ稀ナリ、而シテ河中ノ砂ハ絶エス流水ニ運搬セラレテ海中ニ入り
 砂丘ノ漸進ヲ防止スルニ至レルナリ、若シ夫レ河流緩ニシテ砂ヲ運搬
 スルニ不充ナルニ至レハ之ヲ浚渫スルヲ要ス、而シテ砂丘ノ河流ニ
 面スル所ハ其傾斜甚タ急ナリ、此外掛宿郡脇浦附近ノ沙丘ハ其區域狹
 ク且ツ著シカラス

乙 火成岩類

(四) 花崗岩

花崗岩ハ大隅半島ノ南部ニ志布志圖幅地ヨリ連續シ北東ヨリ南西ニ
 互リ稍大ナル面積ヲ占ムルノ外北西部垂水ノ東方ニ小區域ニ露出ス、
 南部ニ於ケル花崗岩地方ハ本圖幅地ニ於テ交通最モ不便ニ人跡稀ナ
 ル所トス

岩石ハ粗粒ノ黑雲母花崗岩ヲ主トシ表面ハ概ネ分解シ新鮮ナル標本
 ヲ得ルニ難シ、其中生層ニ接スル部分ニ於テハ中生層ノ岩石ヲ接觸變
 質セシメ又ハ之ヲ撈取ス、小根占村大濱ノ南方海岸ニ稀ニ建築石材ト
 シテ採取セラル、モノハ中粒狀ニシテ白色ノ長石、石英ノ外ニ多量ノ
 黑雲母ヲ含有シ、圖幅ノ北西部ニ露出スルモノハ粗粒ノ白色長石、石英
 ニ黑色ノ黑雲母ヲ點在シ白色ニシテ分解シ易シ

(五) 石英斑岩

石英斑岩ハ中生層中ニ岩脈若クハ岩床ヲナセルモノ、外川邊郡ノ西
 部ニ中生層ヲ貫キテ所々ニ噴出シ、加世田附近ニハ孤立セル圓頂ノ山
 丘ヲ成セルモノ多シ
 岩石ニハ花崗岩ニ近キ花崗斑岩ヨリ單ニ石英ノ斑晶ノミヲ有スル石
 英斑岩ニ至ル種々ノ岩種アリテ兩者ノ間ニ判然タル區別ヲナスコト
 難シ、而シテ其同時ニ噴出シタルモノニアラサルコトハ同種ノ岩石ノ
 岩脈ヲナセルニヨリテ見ルモ明ナリ、色ハ淡灰、淡綠帶褐灰色等種々ア

リ、花崗斑岩ハ分解セルモノ多ク主ニ淡灰綠色ヲ呈シ多量ノ長石、石英
ヲ有シ角閃石時ニ黑雲母ヲ見ル、野間半島ニハ此種ノ岩石多シ、石英斑
岩ハ帶綠色乃至淡灰色緻密ニシテ主ニ石英若クハ石英、長石ノ斑晶ヲ
有シ又角閃石、黑雲母ヲ含有ス、半島ノ東部並ニ岩脈ヲナセルモノニ此
種ノ岩石多シトス

(六) 斑縞岩、蛇紋岩及玢岩

揖宿郡穎娃村飯山ノ北小溪谷ニ數多ノ斑縞岩礫アリ、蓋シ他ヨリ運搬
セラレタルモノニアラサルカ如キモ附近ノ地ハ雜草繁茂シ爲ニ其露
出ノ如何ヲ檢スルヲ得ス、隨テ之ヲ地質圖上ニ塗色セシ、岩石ハ灰色ニ
シテ主ニ斜長石、紫蘇輝石及角閃石ヨリ成レリ、蛇紋岩ハ深綠色ニシテ
高隈山脈ノ南端鹿屋銅山附近ノ中生層ヲ貫通ス、玢岩ハ川邊郡西鹿籠
村麓ノ西部及片浦、大富間ノ海岸ニ露出ス、岩石ハ灰綠色乃至黝灰色ニ
シテ主ニ斜長石、輝石及輝石ヨリ變質セル綠泥石樣礦物ノ斑晶ヲ有ス、
石基ハ微晶質乃至完晶質ニシテ主ニ長石、輝石並ニ輝石ヨリ變質セル

綠泥石樣礦物ヨリ成リ多量ノ磁鐵礦ヲ散在シ、西鹿籠ノ岩石ニハ輝石
多ク、片浦ノ岩石ニハ輝石ハ殆ント綠泥石樣礦物ニ變ス、大浦ノ東ニ石
英斑岩中ニ岩脈トナリテ露出スルモノハ暗黑色ノ地ニ斜長石、輝石ノ
斑晶ヲ有シ輝石ハ一部綠色ノ綠泥質物ニ變ス、其ニ輝綠玢岩若クハ輝
石玢岩ニ屬スルモノナルヘシ、而シテ以上兩岩石ハ其露出ノ區域皆狹
小ナルヲ以テ之ヲ地質圖上ニ塗色セシ

(七) 石英粗面岩

石英粗面岩ハ池田湖ノ南西ニ第三紀層ヲ貫キテ噴出シ辨財天及穎娃
兩銀山鑛床ノ母岩ヲナス、其ニ其區域甚タ小ナリ、岩石ハ黝灰色ヨリ淡
灰綠色乃至淡綠色ノ地ニ石英及長石ノ斑晶ヲ有シ又綠色礦物ヲ含有
ス、綠色礦物ハ纖維質ノ綠泥質物ニ化シ其原鑛物ヲ知ルニ難キモ主ニ
角閃石ヨリ變化セルモノナルヘク、長石ハ其量最モ多ク石英ハ結晶完
全ナラスシテ圓形ヲナセルモノ多シ、其第三紀層ニ接スル附近ニハ角
玢岩狀ヲナセルモノアリ

(八) 粒狀安山岩

粒狀安山岩ハ第三紀層ヲ貫キテ中濱ノ南西池田湖畔ニ露出シ、及池田湖ノ西方烏帽子岳並ニ池田金山事務所ノ北ニアル山岳ヲ構成スルモ其區域甚タ小ナリ、岩石ハ淡綠色若クハ深綠色ニシテ長石及黑色乃至暗綠色ノ鑛物ノ斑晶ヲ含有ス、長石ハ甚シク分解シテ時ニ陶土化セルモノアリ、有色鑛物ハ主ニ綠泥質物及磁鐵鑛ニ變シ分解シテ其性質明ナラサルモ蓋シ角閃石及輝石ヨリ變セルモノナルヘシ

(九) 石英安山岩

石英安山岩ハ顯娃ノ東及南ニ矢筈嶽山群並ニ顯娃、知覽街道上二個所ニ孤立セル小丘ヲ構成ス、矢筈岳ヲ構成スルモノハ灰白色乃至灰色ノ地ニ輝石、斜長石及石英ノ斑晶ヲ有ス、石基ハ潛晶質ナルモ玻璃ノ多量ヲ含有スルモノアリ、輝石ニハ紫蘇輝石多ク普通輝石少シ、矢筈嶽ノ西ニ當リ顯娃ノ南ニアル山嶽ハ淡灰色乃至淡褐灰色ノ角閃石石英安山岩ヨリ成ル、石基ハ潛晶質ニシテ斜長石、角閃石、石英ノ斑晶ノ外ニ時ニ

紫蘇輝石ヲ含有ス、揖宿郡顯娃ノ東ニ岩骨ヲ露ハシ屹立セル小丘ハ角閃石石英安山岩ヨリ成ル、岩石ハ淡綠灰色乃至淡綠色ニシテ深綠色乃至暗褐色ノ角閃石、斜長石並ニ石英ノ斑晶ヲ有シ輝石ハ之ヲ認メス顯娃ノ北西赤崎ノ西ニ孤立セル小丘ヲ構成セルモノハ淡灰色ニシテ主ニ玻璃ヨリ成レル石基ニ斑晶トシテ長石、石英ノ外、多量ノ角閃石、黒雲母ヲ含有シ輝石ヲ見ルコト稀ナリ、知覽ノ南方植塙ノ南西ニアル小丘ヲ構成セルモノハ灰色若クハ灰白色ニシテ角閃石及長石ノ斑晶ノ外輝石ヲ含有ス、石英ハ概シテ小ニシテ稜角アルモノ稀ナリ、其量亦多カラス、輝石ハ多クハ紫蘇輝石ニ屬ス、石基ハ暗灰色玻璃質ニシテ長石ノ針晶ヲ埋藏シ所ニヨリ「バーリチツク」構造ヲ示セリ

(十) 角閃石安山岩

川邊ノ南麓川ノ南ニ小丘ニ露出セル角閃石安山岩ハ灰色乃至帶褐灰色ニシテ斜長石ノ斑晶ノ外多量ノ角閃石ヲ含有シ、紫蘇輝石ハ角閃石ニ比シ甚タ少ナシ、石基ハ玻璃質ニシテ「バーリチツク」構造ヲナセル所

アリ、角閃石ハ深綠色及血褐色ノ兩種アリテ一部ハ熔融セラレ邊緣ハ
黒色トナリ又ハ全ク黒色ノ磁鐵鑛ニ變シ若クハ中部ニ角閃石ノ殘留
セルモノアリ

揖宿郡鬼門平ヲ構成セルモノハ多少變質シテ灰色若クハ帶褐灰色ノ
地ニ斜長石並ニ黒色鑛物ノ斑晶ヲ有ス、黒色鑛物ハ柱狀若クハ六角形
ヲ成シ黒色ノ邊緣ヲ有シ多クハ磁鐵鑛ニ移化ス、蓋シ其原鑛物ハ角閃
石ニ屬スルナルヘシ

(十一) 輝石安山岩

輝石安山岩ハ其分布廣ク大隅半島ニ於テハ中部ニ鹿兒嶋灣ニ近ク噴
出シ、薩摩半島ニ於テハ南東及南西部ニ高ク聳立ス、岩石ハ其種類多キ
モ橄欖石輝石ヲ含有スルモノト之ヲ含有セサルモノトニ區別シ、更ニ
輝石ノ多寡ニヨリ紫蘇輝石安山岩、普通輝石安山岩及兩輝石安山岩ニ
區別スルヲ得ヘシ

橄欖石ヲ含有スル輝石安山岩 荒平及神ノ川以南ニ小區域ニ露出ス

ルモノヲ除ケハ大隅半島ノ輝石安山岩ハ皆之ニ屬ス、此外揖宿郡大野
嶽ヲ構成シ及川邊郡勝目村田ノ頭ニ之ヲ檢セリ

大隅半島ニアル輝石安山岩ハ灰色乃至黝灰色若クハ帶褐灰色ヲ呈ス、
輝石ニハ紫蘇輝石、普通輝石アルモ前者ハ概シテ其量多ク且ツ晶形大
ニ、後者ハ晶形小ニシテ其量少シ、長石ハ「ラブラドル、ペトーナイト」ニ屬
スルモノ多シ、橄欖石ハ晶形明カナラサルモノ多ク且ツ大ナラス、石基
ハ微晶質乃至潛晶質ナルモ亦玻璃質ナルモノアリ

大始良、大根占兩村界ヲ劃スル山脈ハ輝石安山岩ヨリ成リ西部ハ火山
灰并ニ灰石ニヨリ被覆セラレ、神ノ川以北ハ海岸ニ沿ヒ露出ス、岩石ハ
灰白色乃至黝色ヲ呈ス、輝石ハ主ニ紫蘇輝石ニシテ少量ノ普通輝石ヲ
有ス、橄欖石ハ僅ニ晶形ヲ有スルモノト粒狀ヲナセルモノアリ、神ノ川
ニ近ク露出セルモノニ橄欖石ヲ含有セサルモノアリ、海岸ニハ完全ナ
ル板狀節理ヲナセルモノヲ見ル

高須以北ニ臺地上ニ隆起セル丘陵ハ輝石安山岩ヨリ成ルモ火山灰又

ハ灰石ノ爲ニ被覆セラレテ其頂上若クハ溪谷ニ露出スルノミ、岩石ハ南方ニ見ルモノト異ナラサルモ大始良村岡留ノ南溪谷ニ露出セルモノハ黝灰色ニシテ普通輝石ト紫蘇輝石ノ量殆ント相同シク、花崗村小園ノ東丘陵ニアル岩石ニハ紫蘇輝石多ク普通輝石稀ナリ

大野嶽ハ池田湖ノ北西ニ圓錐形ヲナシテ屹立シ其頂上ハ浸蝕セラレテ稍平坦ナリ、之ヲ構成セル岩石ハ暗灰色ニシテ斜長石ノ斑晶ノ外多量ノ橄欖石ヲ含有シ普通輝石ハ石基中ニ見ルモノ、外斑晶トシテ存在セルモノ少シ、石基ハ微晶質ニシテ長石ノ微針晶流狀構造ヲ示セリ

川邊郡勝目村田ノ頭小川路間ニ露出スル安山岩ハ橄欖石ヲ含有ス、紫蘇輝石、普通輝石ハ晶形小ニシテ其量少シ、角閃石アレトモ皆磁鐵鑛ニ變移ス

橄欖石ヲ含有セサル輝石安山岩 大隅半島ニハ唯荒平及神ノ川ノ南ニ小區域ニ露出スルノミナルモ薩摩半島ノ南西部ニハ其區域廣ク且ツ概シテ四近ノ地ヨリ高ク聳立シ、野間嶽ノ如キハ多少圓錐形ヲ呈セ

リ、南東部ニハ火山灰及灰石ノ臺地上ニ屹立シ、薩摩富士ノ稱アル開開嶽ハ完全ナル圓錐形ヲナシ此地方航海者ノ目標トナレリ

岩石ニハ種々アリテ甚シク空隙ニ富ミ粗鬆ニシテ浮石質又黑曜質ノモノヨリ堅緻ニシテ空隙ヲ有セサルモノアリ、石基ハ玻璃質、潛晶質乃至微晶質ニシテ斜長石、輝石ノ斑晶ヲ散在ス、輝石ニハ普通輝石及紫蘇輝石多ク、此外斜方輝石ヲ見ル、而シテ紫蘇輝石安山岩ハ最モ普通ニシテ普通輝石安山岩及兩輝石安山岩ハ其露出ノ區域狭小ナリ

大隅半島神ノ川附近ニ露ハル、モノハ黝灰色緻密ニシテ普通輝石、紫蘇輝石并ニ無色ノ斜方輝石ヲ含有ス、長石ニハ「ラブラドル」及「ラブラドル、ベトーナイト」ニ屬スルモノ多キカ如ク、石基ハ潛晶質ナリ、上之濱ノ北東及荒平ノ北方海岸ニ露出スルモノハ黝灰色ニシテ紫蘇輝石多ク、普通輝石少シ

薩摩半島ノ南東部ニ露ハル、モノハ灰色乃至黝灰色ニシテ潛晶質乃至微晶質ノ石基ニ斜長石及輝石ノ斑晶ヲ散在ス、輝石ニハ紫蘇輝石多

ク其晶形亦大ナリ、普通輝石ハ其量少ク晶形概シテ小ナリ、石基ニハ往々長石ノ針晶排列シテ流狀構造ヲナス、然レトモ又普通輝石ヲ多量ニ含有シ兩輝石安山岩ニ屬スルモノアリ

開聞嶽ハ薩摩富士ノ稱アリテ完全ナル圓錐形ヲ呈スル火山ナリ、其噴火ニ關シ舊記ニ散見スルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

懿德天皇御宇(紀元百八十餘年)薩摩國開聞山涌出(神代皇帝記)

景行天皇十年(紀元七百四十年)庚寅冬十月三日夜國土震動風雷鼓波而開聞山忽涌出(開聞社緣記)

貞觀十六年(紀元千五百三十四年)七月二日開聞神ノ山頂ニ火アリ灰砂ヲ降スコト雨ノ如ク聲百餘里ニ聞ユ(三代實錄)

貞觀年間ノ噴火ハ其勢稍猛烈ナリシカ如ク噴火ノ跡今ヤ以テ索ヌヘキナシ

開聞嶽ノ北半ニハ頂上ヨリ下方約三四百米ノ所ニ一ノ甚タ緩ナル階段アリ、遙ニ之レヲ望メハ恰モ寄生火山若クハ爆裂火山ノ如キ觀アル

モ此所ヲ境界トシテ下方山麓ニ至ルマテハ火山礫等ノ火山噴出物ヨリ成リ上方山頂ニ達スルマテハ本邦火山ニ見ル普通ノ輝石安山岩ヨリ成ル、想フニ高ク聳ユル圓錐山ハ舊火山ノ上ニ更ニ新ニ噴出シタル中央火山丘ナリ、其頂上ハ雜木ノ爲メ之ヲ見ルニ難キモ略圓形ヲナシ徑約二百五六十尺アリ、北方ニ最モ高ク中部ニ低ク其差二十米内外アルヘク、普通ニ見ル噴火口トハ稍異ナルモノアリテ昨年新ニ噴出シタル樽前山ノ圓頂丘ニ比スヘキモノナラン

山ノ北東ニ當リ頂上ヨリ下方約四五百米ノ所ニアル小嶽ハ蓋シ爆裂火山ナルヘシ

中央火山丘ヲナセル輝石安山岩ハ黝灰色粗鬆ニシテ小ナル空泡ニ富ミ、主ニ長石、輝石、磁鐵鑛ヨリ成レル微晶質ノ石基ニ斜長石及兩輝石ノ斑晶ヲ含有ス、輝石ニハ紫蘇輝石普通輝石ヨリ多ク時ニ黑色ノ邊緣ヲ有シ大部分磁鐵鑛ニ移化スルモノアリ

鰻ヶ池ハ山川ノ北西二三里ニアル完全ナル噴火孔ニシテ其水面ハ海

拔百二十餘米、池田湖ノ水面ヨリ高キコト約八十米ナリ、四圍繞ラスニ
絶壁ヲ以テシ只鰻温泉場附近ニ一小平地ヲ遺スノミ、池ハ周圍約一里
餘、稍南北ニ長ク長徑十二三町、短徑約十町トス、西方ニ聳ユル鷲尾嶽最
モ高ク池水面ヲ抜クコト二百八九十米、南東ニ於テ最モ低ク十米ヲ越
エスシテ漸次山川ニ斜下ス、北東方ニハ今尙盛ニ硫黄並ニ熱湯ヲ湧出
ス、鰻温泉即チ是ナリ

鰻ケ池ノ北西ニ接シ池底ノ噴火孔アリ、徑約五六町殆ント圓形ヲ成シ
西北西ノ一方開キ中部ハ耕地トナレリ、鰻ケ池ト共ニ「マール」式噴火孔
ナラン、岩石ハ鰻ケ池ト共ニ普通ノ輝石安山岩ニ屬シ黒灰色堅硬ニシ
テ玻璃質又ハ潛晶質ノ石基ニ主ニ斜長石及紫蘇輝石ノ斑晶ヲ含有シ
普通輝石少シ、硫質作用ノ爲メ漂白セラレ及柔軟トナレルモノハ揖宿
粘土ト稱シ薩摩燒ノ原料ニ用キラル

山川灣ハ西、南、北ノ三面ハ輝石安山岩ノ絶壁ヲ以テ圍繞セラレ、或ハ爆
裂火孔ナラン、岩石ハ所ニヨリ板狀節理ヲナシ灰色乃至黝灰色堅硬ニ

シテ潛晶質乃至微晶質ノ石基ニ長石ノ斑晶ノ外ニ紫蘇輝石ノ多量ヲ
含有シ帶綠色普通輝石ヲモ含有セルモ概シテ其量少ク晶形亦小ナリ、
竹山附近ノ岩石及揖宿郡種尾山群ヲ構成セル安山岩亦之ニ同シ
池田湖ノ南部ニ絶壁ヲナシ南方ハ火山灰ノ爲ニ被覆セラレ、安山岩
ハ灰色ニシテ普通輝石ノ量紫蘇輝石ヨリ多ク、石基ハ微晶質ニシテ長
石ノ針晶排列シテ流狀構造ヲ示セリ、辨財天鑛山ノ北西ニ絶壁ヲナシ
北ニ連リ池田湖畔ニ至ル安山岩及頴娃鑛山ノ中部斷崖ノ東ニ露出ス
ルモノハ灰色又ハ帶褐灰色ニシテ玻璃質乃至潛晶質ノ石基ニ兩輝石
及斜長石ノ斑晶ヲ含有シ流狀構造ヲ示セル所アリ、淵別府ノ東ニア
ルモノハ特ニ紫蘇輝石ノ巨晶ヲ含有シ知覽、川邊街道ノ南ニ孤立セルモ
ノハ灰色ニシテ紫蘇輝石ノ巨晶ト普通輝石ヲ含有シ石基ハ玻璃質ナ
リ

長崎鼻ヲ構成セル安山岩ハ黒曜質又ハ浮石質ニシテ特ニ前者ヲ多シ
トシ玻璃質ノ石基ニ斜長石紫蘇輝石若クハ普通輝石ヲ散在スルモノ

アリテ層狀ヲナス、宮ヶ濱ノ東ニアル魚見嶽ニモ亦黒曜質ノ岩石アリ、而シテ知林島ト共ニ南方及東方ニ絶壁ヲ成シ北方及西方ニ緩斜セルハ或ハ此等地方ニ於ケル海底火山ノ噴出ニ據ルモノニ非ルカ、池田湖畔南岸及南方ニアル鍋島及其南方ノ丘陵モ亦黒曜質又ハ浮石質ノモノ多ク玻璃質ノ石基ニ斜長石、輝石ヲ含有シ、又白色浮石質ノモノニ角閃石ヲ含有スルモノアリ

薩摩半島西南部ノ岩石ハ南東部ニ於ケルモノト異ナラスシテ斑晶中ノ輝石ニハ概シテ紫蘇輝石多ク且ツ大ナリ、然レトモ普通輝石多ク紫蘇輝石少ナキモノアリ、又多量ノ無色斜方輝石ヲ含有スルモノアリ

野間半島ノ中部ヨリ久志ニ互レル輝石安山岩ハ普通灰黒色乃至黝灰色ナリ、石基ハ潜晶質乃至微晶質ニシテ流狀構造ヲ示セルモノ多ク、斑晶ハ斜長石ノ外多量ノ紫蘇輝石ヲ含有シ普通輝石ヲ含有スルノ量少ナシ、沖秋目島ノ南部ニアル岩石ハ黒色ヲ呈シ、枕崎ノ南西端ニ絶壁ヲナシテ海中ニ突出スル山立神ハ灰色乃至暗灰色ノ岩石ヨリ成リ、小浦

ノ南々東ニ孤立シテ多少圓頂ヲ有スル小丘亦紫蘇輝石安山岩ヨリ成ル

園見嶽枕崎ノ北方鼻草山ノ北ニアル山嶽ハ普通灰色乃至黝黒色堅硬ノ輝石安山岩ヨリ成ル、輝石ハ紫蘇輝石及普通輝石ヲ含有シ兩輝石安山岩ニ屬スルモ其含有量ハ所ニヨリ相同シカラスシテ川邊街道ノ峯尾峠ニ見ルモノ、如キハ殆ント紫蘇輝石ノミヲ見ル

西南方村田ノ河路附近ニ岩脈ヲナセルモノハ漆黒色緻密ニシテ斜長石、斜方輝石ノ斑晶ハ小ナリ、此外ニ少量ノ普通輝石ヲ有スルモノアリ

野間半島ノ西部ニ南北ニ長ク露出セル安山岩ハ嵯峨タル山頂ヲ有セル野間嶽ヲ構成シ遙ニ之ヲ望メハ圓頂空ニ聳エ此地方旅行者ノ目標タラシム、岩石ハ普通灰色ニシテ輝石ハ紫蘇輝石ヨリ普通輝石ノ量多ク石基ハ微晶又ハ潜晶質ニシテ流狀構造ヲ示セルモノ多ク、頂上ヲ構成スルモノニハ角閃石ヲ含有ス、角閃石ハ其邊緣磁鐵鑛ニ化スルモノ多ク又全ク之ニ變セルモノアリ

鹿籠金山區域ニアル岩石ハ灰黑色乃至黑色ニシテ潜晶質又ハ微晶質ノ石基ニ斜長石、普通輝石ヲ含有シ斜方輝石少シ、而シテ其金鑛ヲ胚胎セル附近ニハ岩石變質シテ帶綠色トナリ粒狀安山岩ヲ見ルカ如シ枕崎ノ四近ニ岩骨ヲ露ハシテ屹立セル岩戸山、園見山頂、宗前嶽及其附近并ニ知覽、枕崎街道ニ近キ大隣嶽、金鑛ヲ採掘スル赤石山、瀬戸口ノ西小丘枕崎ノ北鼻草山ノ東西ニアル絶壁等ヲ構成スル岩石ハ全ク變質シテ其原岩石ノ何タルヤヲ知リ難シ、蓋シ本岩石ヨリ成レル山丘ハ多クハ岩骨ヲ露白シテ屹立シ若クハ斷崖絶壁ヲナスヲ以テ地形上之ヲ知ルニ難カラス

岩石ハ空隙ニ富メルモノト緻密ナルモノトアリ、其ニ堅硬ニシテ硅質ナリ、時ニハ全ク硅質岩ニ變シ其裂罅又ハ一部ニ金鑛ヲ胚胎ス、色ハ白色乃至褐色又ハ黝色ニシテ時ニ全ク石英粗面岩若クハ硅岩ト區別シ難キモノアルト共ニ砂岩ヲ想ハシムルモノアリ、而シテ其四近ノ地ハ皆輝石安山岩ヨリ構成セラレ且ツ枕崎ノ東海岸ニハ輝石安山岩ノ温

泉作用ノ爲メ漂白セラレ漸次硅質岩ニ移化セルモノアリ、又赤谷金山及大隣嶽ニモ輝石安山岩ノ温泉作用ノ爲メ漂白セラレタルモノヲ檢セリ、隨テ此等岩石ハ輝石安山岩ノ變質シタルモノト思惟シ輝石安山岩中ニ編入シタリ

(十一) 火山灰及灰石

大隅、薩摩ニ亘リ圖幅地ノ過半ヲ占有セル火山灰及灰石ハ北隣鹿兒島圖幅ニ連リ、南部九州ニ廣ク分布セルモノニシテ本圖幅地ニ於テハ臺地若クハ僅ニ起伏低卑ナル丘陵地ヲ構成ス

灰石ニハ種々アリテ灰色乃至黝灰色又ハ灰褐色若クハ帶綠色ノモノヲ普通トス、其稍堅實ナルモノハ玻璃質熔岩ト區別シ難シ、又火山灰泥ヨリ成リ安山岩ノ碎片浮石等ヲ雜有シ分解シテ火山灰ト區別シ難キモノアリ、其分布ハ大隅ニアリテハ東海岸ニ於テ峭壁ヲナセルモノ著シク、薩摩半島ニ於テハ揖宿、川邊兩郡ニ跨レル南部ノ臺地ヲ占ムルモノヲ廣シトシ、其他河流ニ沿ヒ若クハ古紀岩層ヲ被ヒ川邊郡ニアリテ

ハ四五百米ノ高サニ於テ中生層ヲ被覆セルモノアリ、其厚サハ固ヨリ一定セサレトモ二三尺ヨリ二百米以上ニ達スルモノ、如シ
 火山灰ハ火山ヨリ噴出セル灰砂ヲ主トシ、又浮石、火山岩ノ碎片等ヲ雜有シ大隅半島ノ臺地并ニ薩摩半島ノ各所ニ於テ見ルカ如ク多クハ灰石ヲ被覆スルヲ普通トスルモ大隅半島ノ峭壁ニハ灰石ト互層ス、又火山灰中ニハ加世田ノ南部ニ於ケルカ如ク薄キ砂礫層ヲ夾メルコトアリテ以テ洪積紀ノ噴出ニ係レルモノアルヲ知レリ

第三章 應用地質

鹿兒島ハ古來ヨリ金銀ノ產出ニ於テ其名著シ、本圖幅ハ其南部半島ヲ包括シ現ニ盛ニ稼行セラル、金銀鑛山ナシト雖モ其數ハ數十アリテ年產出額金五十貫、銀六百貫以上ニ達ス、錫ハ其產出額多カラスト雖モ本邦中他ニ之ニ匹敵スルモノナク谿山錫山ノ名古來ヨリ世ニ著ハル、其他ノ應用材料ニハ銅、粘土、石材アリ、温泉及冷泉アレトモ其業皆盛ナラス、以下記述スルモノハ明治三十九年十一月中旬ヨリ翌四十年一月

下旬ニ亘リ踏査蒐集セル材料ニ基ツケルヲ以テ現今ト其狀態ヲ異ニセルモノアルヘシ

一 金銀山

金銀山 鑛床ハ中生層、第三紀層并ニ花崗岩、安山岩、石英粗面岩ニ胚胎セラル、石英脈ニ屬シ金ヲ主產スルモノト、銀ヲ主產スルモノトアルモ其ノ地質上ノ關係明ナラス、著名ノ神慶金山ハ已ニ久シク休山シ、鹿籠金山ハ大ニ衰頽シテ復タ昔日ノ觀ナク、明治三十年前後ニ於テ五百貫ノ銀ヲ產出シテ其盛ヲ誇レル生見銀山ハ已ニ休稼シ、次テ勃興セル辨財天銀山ハ明治三十六年ニハ金十貫、銀二千貫以上ヲ產出シテ其盛ヲ極メ遙ニ生見銀山ヲ凌キシモ今ヤ已ニ衰運ニ赴キ將ニ休稼ノ不幸ヲ見ントス、此他助代銀山、打越鑛山、石塔庵鑛山等ノ如キ嘗テ稍盛ニ稼行セラレタルモノアリ、蓋シ本圖幅ノ鑛山ハ一時ノ好況ニ乘シテ濫掘ノ弊ニ陥リ探鑛ヲ怠リ一旦不測ノ變ニ際會シ若クハ多量ノ出水ノ爲メ比較的短年月ニ於テ休山セルモノ多キカ如シ、製鍊所ハ三四ノ鑛山ヲ

除ケハ皆河岸ニ設置シ流水ヲ利用シテ動力トナス、故ニ近キハ數町、遠
キハ數里ノ間鑛石ヲ運搬スルヲ要ス、而シテ製鍊殘滓ヲ分析セルニ尙
金銀ヲ含有スルモノ多ク、宜シク小鑛區分割ノ弊ヲ挽メ共同以テ探鑛
ニ從事シ製鍊ニ對スル設備ヲ完全ニセサルヘカラス、此ノ如クセハ產
出額ノ増加ト共ニ收益ノ増進スルコト疑ナク、是レ獨リ營業上ノ利益
ニ止マラサルヘク、當業者ノ深ク之ニ留意スルコトヲ望ムヤ切ナリ

(二) 萬瀨川以北

圖幅ノ北部湯ノ浦、助代、大阪附近ヨリ堀切、浦之名、神殿ヲ經テ樋渡ニ至
ル東西一里餘、南北約二里ニ亘レル地域ハ殆ント金銀鑛山ノ鑛區ナル
モ現今盛ニ稼行セラル、モノナシ、鑛床ハ皆中生層ニ胚胎セル石英脈
ニシテ神殿及打越兩鑛山ヲ除ケハ皆銀ヲ主産スルハ注意スヘキ事タ
リ、蓋シ圖幅ノ北部ニハ谿山錫山、助代銀山等アリ、前者ハ錫山ニシテ鑛
脈中ニハ黃鐵鑛、方鉛鑛、黃銅鑛等ノ硫化鑛物ヲ含有シ、後者ハ銀山ニシ
テ亦方鉛鑛、黃銅鑛、黃鐵鑛等ノ硫化鑛物ヲ含有シ、大阪ニ於テ嘗テ錫鉛

ヲ稼行セリト聞ク、自餘ノ鑛山ハ概ネ皆金銀ヲ産シ、萬瀨川以北ノ地ニ
於テハ神殿、打越兩鑛山ヲ除ケハ皆銀ヲ主産シ、萬瀨川以南ノ地ニ於テ
ハ金ヲ主産ス、即チ北方圖幅境界ニ接シテ鑛脈ハ錫其他多量ノ硫化鑛
物ヲ隨伴シ、北方ニハ銀ヲ、南方ニハ金ヲ主産ス、想フニ金、銀、鉛、錫等ノ成
生ニハ前後ノ別アリシナルヘク而モ未タ之ヲ確證スルニ足ルヘキ材
料ニ乏シ、鑛脈ハ概シテ砂岩ニ胚胎スルモノ良好ニシテ頁岩ニハ亂走
若クハ分岐スルノ傾向アリ、加之通常柔軟トナリ粘土ヲ雜有シ岩石破
碎シ易ク操業ニ困難ナリ、鑛脈ノ走向ハ概シテ地層ノ走向ト同シク南
北ニ近キモ傾斜ハ之ヨリ急ナルヲ普通トス

一 助代銀山及其附近

助代銀山 ハ助代村ニアリア圖幅ノ北西ナル湯ノ元温泉場ノ東南東
十數町ノ地ニ位ス、其製鍊所ハ事務所所在地ナル助代部落ノ北ニ接シ
助代部落ノ南東ニアル探鑛所ト數町ヲ隔ツ
本山ノ發見ハ明治十一年ノ交ニシテ同十五年五代友厚ノ所有ニ歸シ

同十七八年頃ニハ鑛石ヲ鹿籠鑛山ニ送致シテ製鍊セリト云フ、同十八年金子某本山ヲ買收シ爾後數度鑛主ノ交迭アリ、而シテ明治二十八年前田青萍ノ稼行ノ際ハ本山最盛ノ時ニシテ一ケ年銀百餘貫ヲ産セリ、現時ハ一ケ月千四百貫ノ鑛石ヨリ一貫四百多ノ銀ヲ收取スト云フ、鑛脈ハ中生代ノ砂岩頁岩中ニ胚胎シ其數多キモ現ニ稼行セルモノハ一條ノ石英脈トス、助代部落ヨリ一溪流ヲ東ニ進ミテ現疏水坑道アリ、疏水坑道ヲ南東ニ進ムコト約百間ニシテ幅四五尺ノ石英脈ニ會ス、母岩ハ北方ハ砂岩ニシテ鑛脈附近ハ粘板岩ナリトス、其層向ハ殆ント東西ニシテ北方四十五度乃至七十度ニ傾斜ス、鑛脈ノ走向亦東西ニシテ東方六七十間ノ間ハ白色ノ石英脈ヨリ成ル、其含銀品位劣等ナルヲ以テ採掘ニ堪ヘス、即チ少シク其北方ニ掘進シテ一脈ニ會シ之ヲ追跡スル事十餘間ニシテ幅一尺ニ縮迫ス、此十間ノ間ハ鑛石ノ品位良好ナリ、更ニ其引立ヨリ少シク北方ニ尙一脈アリ、幅三四尺ニシテ中部ハ堅硬白色ノ石英ナルモ兩盤ニ沿ヒ黒灰色縞狀ノ石英アリ、多量ノ硫化鑛物

ヲ含有シ幅一尺アリ、鑛石トシテ之ヲ採掘ス、三鑛脈ノ關係明ナラサルモ北方ノ二脈ハ或ハ分岐セルモノナラン、而シテ本脈ノ上部ハ既ニ採掘シ盡サレタリ
鑛石ハ石英ニシテ時ニ角礫岩狀ヲ呈シ其數次ニ成生セラレタルヲ示セリ、色ハ白色乃至黒灰色ニシテ縞狀ヲナシ、概シテ白色堅緻ナル部分ハ品位劣等ナルモ通常鑛石トシテ採掘スルモノハ方鉛鑛、砒硫鐵鑛、黃鐵鑛、黃銅鑛等ノ硫化鑛物ヲ隨伴シ黒灰色ヲ呈ス、而シテ硫化鑛物ノ量多ク殊ニ石英ト縞狀ヲナセルモノハ品位良好ナリ、採取セル鑛石ヲ分析セルニ其品位左ノ如シ(百分中)

金

銀

	上	鑛	〇、〇〇〇三	〇、二一八九
	上	鑛	〇、〇〇〇八	〇、二八八九
	下	鑛	〇、〇〇〇二	〇、〇五〇七
助代銀山ノ東又ハ北ニ隣接シ數多ノ鑛區湯ノ元ヨリ北平、平鹿倉ノ地				

内ニ相連レリ、蓋シ此等地域内ニハ數多ノ鑛脈アリテ時々之ヲ探鑛若クハ稼行セルモノアリシモ何レモ盛ナルニ至ラスシテ休止シ、鑛床賦存ノ状態ヲ知ルコト難シ

二 堀切鑛山及其附近

堀切鑛山 探鑛所ハ加世田街道ニ當レル田布施ノ東一里餘ニアリ、其南七八町ナル河前ノ白川ノ左岸ニ製鍊所ヲ設置ス、兩所間ノ鑛石ノ運搬ハ馬背ニ據リ十貫目ニ付キ賃金二錢ナリト云フ
本山ハ明治二十九年頃ノ開坑ニ係リ同三十一年頃休山シ同三十四年ニ至リ再開セラレタリ、同三十八年十二月ヨリ翌三十九年九月マテハ一日千貫以上ノ鑛石ヲ探掘シ其間三十貫ノ銀(内金ノ含有ハ三厘ナリシト云フ)ヲ採取シ特ニ七八九月ニハ五六貫ノ銀ヲ收得セリト云フ、而シテ鑛脈中上部ノ良好ナル部分ハ已ニ探掘シ盡シ、現時ハ專ラ疏水道ヲ掘鑿シ傍ラ一日約三百貫ノ鑛石ヲ探掘シ一ヶ月一貫目ノ銀、十五匁ノ金ヲ收得スト云フ

鑛脈ハ一條ニシテ中生代ノ砂岩、粘板岩中ニ胚胎シ北三十度乃至六十六度西ニ走リ北東六十度乃至七十度ニ傾斜ス、幅ハ平均一尺ナルモ四尺ニ膨大シ又ハ數寸ニ縮迫ス、現疏水道ハ北々東ニ向ヒ約百五十間ニシテ鑛脈ニ會セリ、是ヨリ七八十尺北西ニ之ヲ追跡セルニ幅一尺アリ、引立ニハ三四寸ニ縮迫ス、又南東ニ向ヒ二三十尺掘進シ其中間ノ下方ニハ良好ノ鑛石ヲ産スルモ引立ニハ數條ノ石英脈ニ分岐ス、即チ引立ハ共ニ好況ナラス、蓋シ上部ハ殆ント探掘シ盡シタルモ下部ニハ尙良好ノ鑛石ヲ産ス、之ヲ既往ニ見ルモ探鑛ヲ怠ルヘカラサルナリ、但シ出水多ク操業ニ困難ナルヲ遺憾トス
鑛石ハ石英ニシテ白色、褐色乃至黒灰色ヲ呈シ、或ハ縞狀ヲ呈シ、或ハ褐色粘土ヲ隨伴シ質良好ナルモノアリ、或ハ硫化鑛物ヲ散點シ時ニ其量多ク黒灰色ナルモノアリテ助代銀山ノ鑛石ニ類スルモノアリ、概言スレハ石英ノ解弛シテ粗鬆トナレル所謂砂鑛ト稱スルモノト、褐色乃至黒灰色ヲ呈セルモノトハ品位良好ナルモ白色堅緻ナルモノハ探掘ニ

堪へス、採取セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

上	鑛(褐色)	〇、〇〇一七	〇、二七五〇
上	鑛(黒灰色ニシテ多量ノ硫化鑛物ヲ含有ス)	〇、〇〇〇六	〇、三九七七
並	鑛(灰色ニシテ綿狀ヲスハ)	〇、〇〇〇二	〇、〇一二七
砂	鑛	〇、〇〇〇二	〇、〇三二六
鑛	尾	〇、〇〇〇二	〇、〇〇三八

小平鑛山 ハ堀切製鍊所ノ北東數町河ノ東岸ニアリ、明治二十二年頃ノ開坑ニ係リ同二十六年マテ繼續稼行セルモ同年休止セリ、同三十五年ニ至リ、再興シ、河流ニ沿ヒ製鍊所ヲ設置シテ製鍊セルコトアリシモ興廢常ナク、現時堀切鑛山ノ支山トシテ專ラ探鑛シ未タ鑛石ヲ探掘スルニ至ラス、明治二十四五年ノ交本山ノ盛ナリシトキハ一ヶ月十貫目内外ノ銀ヲ産出セリト云フ

現時探鑛セル坑道ハ河岸ニ近ク開坑シ南東ニ掘進スルヲ約八十間ニ

シテ鑛脈ニ會ス、茲ニハ鑛脈ハ北六十度乃至八十度西ニ走リ北七十度ニ急斜ス、幅三尺五寸アルモ一尺ハ白色堅緻ノ石英ニシテ探掘ノ價値ナク、其解弛シテ粗鬆柔軟トナル者ハ砂鑛ト稱シ褐色粘土ヲ隨伴セルモノハ品位良好ナリ、而シテ本坑道地並以上六七尺ハ未タ探掘セラレサルモ其上部ハ已ニ探掘シ盡サレタリト云フ、採取セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金 銀

褐色砂鑛	〇、〇〇〇六	〇、〇〇七三
褐色砂鑛	〇、〇〇〇六	〇、〇〇八四

廢山 小平ノ東四五町ノ山腹ニ位スル扇平部落ノ東溪流ニ坑口アリ、一兩年前幅四尺内外ノ石英脈ヲ稼行セルモ良果ヲ得ス、明治三十六年休止セリト云フ

金峰山ノ東麓ニアル大阪ニハ所々ニ數多ノ鑛脈アリテ維新前ニハ盛ニ探掘セラレタリト傳フ、維新後數回探鑛又ハ舊坑ノ修理ニ從事セル

モノアリシモ遂ニ成功スルニ至ラスシテ休止シタリ、現今坑内埋没シテ鑛床賦存ノ状態ヲ詳ニセス

三 浦之名鑛山及其附近

浦之名鑛山 採鑛所ハ阿多村ニアリテ田布施ヨリ東約二十町ノ丘陵ニ位ス、本山ハ明治三十年ノ開坑ニ係リ一年餘ニシテ休止セリ、爾後興廢常ナク、同三十八年再開セラレ翌年三月ヨリ一日千貫ノ鑛石ヲ採掘スルニ至レリ、製鍊所ハ採鑛所ノ南方約二十七八町ナル白川ノ河岸ニアリテ鑛石ハ馬背ニヨリ運搬シ十貫ニ就キ四錢五厘ノ運賃ヲ要スト云フ、現時一ヶ月銀三貫、金二十三匁ヲ產出ス

鑛脈三條アルモ共ニ幅狭ク品位甚タ良好ナラス、鑛脈中西方ニアルニ條ハ相交又シ一ハ北二十度西ニ走リ殆ント直立シ、幅稍廣キモ白色堅硬ノ石英脈ニシテ含銀品位劣等ナレハ現時稼行セス、一ハ北七十度西ニ走リ北六七十度ニ傾斜シ厚キトキハ一尺ニ達スルコトアルモ現ニ稼行セルハ幅一二寸ノ石英脈ニ粘土ヲ雜フルモノナリ、東方ニアル一

脈ハ或ハ前者ノ連續セルモノナルヘク北六七十度西ニ走リ南方七十度ニ傾斜ス、其幅一尺アリテ石英ニ褐色ノ粘土ヲ伴ヒ砒硫鐵鑛ヲ散點ス、鑛石ハ主ニ白色ノ石英ナルモ黒灰色ニシテ縞狀ヲ呈シ又褐色粘土ヲ隨伴シ其解弛シテ粗鬆柔軟トナルモノハ砂鑛ト稱シテ概シテ品位良好ニ白色堅硬ナル部分ハ採掘ニ堪ヘス、採取セル鑛石ハ分析ニヨレハ其品位左ノ如シ(百分中)

	金		銀	
東部(砂鑛)	〇、〇〇	〇、〇四	〇、〇四	〇、〇二五
同 (暗灰色石英)	〇、〇〇	〇、〇二	〇、〇〇	〇、〇八三
西部(砂鑛)	〇、〇〇	〇、〇六	〇、〇〇	〇、〇一二三
砂鑛	〇、〇〇	〇、〇三	〇、〇〇	〇、〇一六二
同 (灰白色石英)	〇、〇〇	〇、〇九	〇、〇〇	〇、〇三一七
同 (白色石英)	〇、〇〇	〇、〇七	〇、〇〇	〇、〇四八二
鑛尾	〇、〇〇	〇、〇一	〇、〇〇	〇、〇七六

打越鑛山 ハ浦之名鑛山ノ南ニ當リ阿多ノ東約二十四五町ノ山地ニアリ、嘗テ稍盛ニ探掘セラレタル金山ナルモ現時ハ一二名ノ坑夫僅ニ探鑛ニ従事ス、現ニ探鑛セルモノハ北七十度北ニ走リ北々西六十度ニ傾斜シ幅一尺五寸ヨリ數寸ニ縮迫スル白色乃至灰白色堅硬ノ石英脈ニシテ兩盤ニ薄キ粘土ヲ伴ヘリ、此外尙之ニ並走セル數條ノ鑛脈アリト云フ

廢山 浦之名鑛山ノ北方田布瀬村附近、入角附近ニハ數多ノ廢坑アリ石塔庵ヨリハ嘗テ稍多量ノ鑛石ヲ產出シ助代鑛山ニ輸送シテ製鍊シタルコトアリト云フ、現時坑内廢頽シテ鑛床ノ状態ヲ知ルニ難キモ北方ニ急斜セル石英脈ヲ檢セリ、此他附近ニ數多ノ鑛脈アリテ地層ノ走向北々東ナルニ反シ略東西ニ走リ北方ニ急斜若クハ直立ス、概言スレハ入角ノ西ニハ粘板岩多ク鑛脈ハ粘土質ナリ、東及南ニハ砂岩多ク鑛脈ハ石英ヨリ成ル

四 樋渡鑛山及其附近

樋渡鑛山 ハ阿多村ニアリテ加世田ノ東北東一里ノ地ニ位ス、本山ハ明治二十八年ノ開坑ニ係リ同三十三年頃マテ稼行セラレタルモ收益ナク同年休止シタリ、其翌年再開セラレタルモ收支償ハスシテ同三十六年ニ至リ休山シ、同三十八年更ニ開坑セラレテ多少ノ鑛石ヲ產セシモ出水ノ爲メ中止セリト云フ、坑口ニアリ一ハ樋渡部落ニ開坑シ一ハ水田中ニアリ、坑内廢頽シテ鑛床ノ状態ハ之ヲ知ルコトヲ得ス、坑外ニ於テ拾取セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金 銀

石英及粘土(帶褐色) ○、○○○三 ○、○○五九

大瀬戸鑛山 ハ樋渡ノ南東數町南谷ノ北東腹ニアリ、明治三十九年十一月ヨリ試掘ニ従事シ鑛脈ヲ追ヒ僅ニ十數間ヲ掘進セリ、鑛脈ハ砂岩中ニ胚胎シ三條アリテ北七八十度西ニ走リ北方ニ急斜ス、幅ハ五寸乃至一尺ニシテ堅硬ナル石英若クハ石英及粘土ヨリ成リ縞狀ヲナスモノアリ、色ハ灰白色又ハ褐色ヲ普通トス、採取セル鑛石ヲ分析セルニ其

結果左ノ如シ(百分中)

金

銀

石英(褐色)

〇、〇〇〇三

〇、〇〇七一

石英粘土(粗鬆ナ)

〇、〇〇〇二

〇、〇〇三七

砂鑛(灰白色)

〇、〇〇〇二

〇、〇〇三〇

石英粘土(黒褐色)

〇、〇〇〇二

〇、〇〇一七

石英(黝灰色)

〇、〇〇〇三

〇、〇〇七七

五 田代金山及其附近

川邊ノ北一里餘田代部落ノ北數町ニ舊坑アリ、田代金山ト稱ス、維新前島津家ニ於テ之ヲ稼行シ盛大ヲ致シ此附近一帶ノ地ヲ併セテ神殿金山ト稱セリ、維新後民有ニ歸シテヨリ屢舊坑ノ修理及鑛脈ノ探掘ヲ企圖セルモノアリシモ功ヲ奏スルニ至ラスシテ中止セリ、數年前堀内庄右衛門ハ數萬金ヲ投シ大規模ノ下ニ本山ノ再興ヲ計リシモ亦失敗ニ歸シ爾後全ク廢棄セラレ、ニ至レリ

現時田代鑛山ノ西北西ナル溪流ニ沿ヒ數町ノ山腹ニ探鑛セル鑛脈ハ灰白色頁岩中ニ胚胎セル石英脈ニシテ幅ハ甚タ薄ク二寸内外ナリトス、石英ハ粗鬆柔軟トナリ又ハ粘土ヲ雜有スルモノアリ、目下探鑛中ニシテ未タ製鍊スルニ至ラス、採取セル鑛石ヲ分析セルニ百分中金〇、〇〇五銀〇、〇〇〇八アリ

(二) 枕崎附近

枕崎附近ニハ古來ヨリ著名ノ鹿籠金山ノ外十餘ノ金山アルモ現ニ稼行セラル、モノハ五六箇所ニシテ皆微々トシテ僅ニ鑛業ヲ維持スルニ止マリ、鹿籠金山ニ於テモ既ニ上部ノ良好ナル部分ハ探掘シ盡シ下部ハ鑛石劣等ナルカ如ク採鑛漸ク困難ナラントス

一 鹿籠金山區域(第一版參照)

位置 鹿籠金山區域ハ川邊郡東南方村大字鹿籠ニアリ、維新前ニハ鹿籠金山ト稱シ島津家ニ屬セシモ明治ノ初年鑛區整理ノ際良好ナル區域ヲ撰定シテ鹿籠金山ノ鑛區トシ其他ノ區域ヲ解放シタリ、爾後該鑛

區外ニ鑛床ヲ探求シ鑛業ヲ營ムモノ漸ク多ク、時ニ稍良好ナル結果ヲ得タルモノアレトモ鑛床ノ大部ト良好ナル部分ハ概ネ鹿籠金山ノ鑛區ニ屬シ、只僅ニ該金山ニ於テ稼行セル鑛脈ノ邊端又ハ其一部ノ鑛脈ヲ稼行スルニ止マリ鑛業ヲ持續スルコト困難ニシテ興廢常ナク、現今稼行スルモノニ山之神金山、池ノ平金山、組合金山、虚空藏金山等アリ、休業セルモノハ諏訪金山、上諏訪金山等アリテ其數正ニ十餘ヲ算フヘシ沿革 鹿籠金山ノ記録ハ西南戰爭ノ際烏有ニ歸シタレハ其歴史ヲ詳ニスルヲ得サルモ其開發ハ天和三年ナリト傳フ、爾後藩主島津家ニ於テ之ヲ稼行シ正徳年間ニ繁榮ヲ極メ、享和年間ニ一時休山セルコトアルモ文化十一年ニ再興セラレタリ、明治ノ初年ニ至リ鑛石漸ク貧劣トナリ同四年頃休山シ同六年島津家ヨリ澁谷某ノ手ニ移リテ再開セラレ明治十年頃良鑛ヲ産セリト云フ、同十七八年頃ニハ五代友厚ノ所有トナリ同二十年頃阿部氏ノ手ニ移リテヨリ鑛石次第ニ貧劣トナリ坑内ノ一部ニ自稼ヲ許可スルニ至レリ、同三十八年現鑛主堀内庄右衛門

ノ有ニ歸シテヨリ鑛業益奮ハス、遂ニ本番稼行ヲ中止シ專ラ坑夫ノ自稼ニ任セリ

地形及地質 地形ハ一般ニ低卑ニシテ金山町ノ南方ニアル本區域内ノ最高ノ山點モ海拔僅ニ百七十米ニ過キス、山脈ハ概言スレハ南北ニ走り北方ニ高ク次第ニ南方ニ陵夷シ花渡川ニ盡ク、其高キ所ハ中生層又ハ安山岩ヨリ成リ兩側及南ハ火山灰及灰石ニ被覆セラレテ臺地ヲ成ス

地質ハ中生層、第三紀層並ニ石英斑岩、輝石玢岩、輝石安山岩、灰石及火山灰ヨリ成ル、中生層ハ北部ニアリテ砂岩、粘板岩ノ互層ナルモ砂岩ハ粘板岩ニ比シ甚タ厚ク灰白色ナルヲ普通トス、粘板岩ハ概シテ厚層ヲナス且ツ其區域狭ク、龍水坑口附近ヨリ北方ニ延ヒ又山ノ神山ヨリ附近ニアルモノ稍厚シ、層向傾斜ハ甚タ明ナラサレトモ竹永坑ニ於テハ南西乃至西南西三十四度、龍水坑、阿原坑ニ於テハ西南西六七十度ニ傾斜スルヲ檢セリ、石英斑岩ハ中生層ヲ貫キテ噴出シ坑外ニ於テハ多ク

之ヲ見サルモ中尾坑、竹永坑、龍水坑、自分谷坑、諏訪坑並ニ梅木迫ニ於テ之ヲ檢セリ、岩石ハ灰色又ハ淡灰色ノ地ニ石英及長石ノ斑晶ヲ散在スルヲ普通トシ、其鑛脈ニ接スル附近ハ概シテ白色ニ變ス、輝石玢岩ハ南部ニ露出シ灰綠色ニシテ斜長石、輝石及輝石ヨリ變化セル綠泥石樣綠色鑛物ノ斑晶ヲ含有ス、第三紀層ハ金山町ノ南山脚ニ露出シ其區域狭小ナリ、岩石ハ主ニ凝灰質岩ヨリ成リ凝灰砂岩及角礫岩ト互層シ略南々東十五度内外ニ傾斜ス、輝石安山岩ハ南部ヲ構成ス、岩石ハ深綠色乃至黑色ナルモ鑛脈ヲ胚胎セル附近ハ著シク變質シテ時ニ灰白色白色トナリ其岩石ノ何タルヤヲ知ルニ苦シムモノアリ、火山灰及灰石ハ以上ノ諸岩類ヲ被覆シ臺地ヲ形成シ溪谷ニ沿ヒ斷崖ヲナス、其ニ鑛床胚胎後ニ噴出シタルヲ以テ鑛床ヲ胚胎セス、沖積平地ハ河流ニ沿ヒ小區域ヲ占ムルノミ

(一) 鹿籠金山

鹿籠金山事務所ハ鹿兒島縣下著名ノ漁村枕崎ノ北約一里半縣道ニ沿

ヒ、道路平坦ニシテ一日數回鹿兒島、枕崎ニ馬車ノ往復アリ、枕崎ニハ郵便電信局等アリ、日常ノ用務ヲ辨スルニハ敢テ不便ヲ感セス、本山ノ採鑛所ハ事務所ノ東數町金山町ニアリ、而シテ鑛區ハ三個所ニ分割セラ

ル、第一區ハ金山町ノ東部ニ位シ、第二區ハ東鹿籠ノ西方ニアリ、第三區ハ麓ノ南方ヨリ北ニ延ヒ花渡川ヲ越エテ更ニ北ニ丘陵ニ亘レリ、現時一ヶ月七八百匁ノ青金ヲ産ス、其金銀ノ比率ハ金六、銀四ノ割合ナリト云フ、明治三十六年以降ノ產出額左ノ如シ

金 銀 製鍊元鑛高

明治三十七年	四、八五六 <small>(青金)</small>	三、三二一 <small>銀</small>	四九八、八〇〇 <small>製鍊元鑛高</small>
同 三十八年	五、一二〇	三、三二一 <small>銀</small>	七九三、二二〇
同 三十九年	五、二七五	三、六二九	七七二、〇〇〇
同 四十年	三、二一七	二、二六六	四一七、八六〇
同 四十一年	二、五〇五	一、六八四	三六一、五三一
第一區	ハ本山鑛區中鑛脈最モ輻輳シ嘗テ盛大ニ稼行セラレタル所		

ニシテ鹿籠金山ノ名聲ヲ博シタルハ實ニ本區ナリトス、而シテ鑛脈ノ良好ナル部分ハ既ニ探掘シ盡サレ現時ハ只纔ニ坑内ニ殘存セル鑛石ト、主脈ヨリ分岐セル薄脈トヲ探掘シテ其鑛業ヲ維持スルニ止マリ亦昔日ノ觀ナシ、隨テ坑内ハ甚シク敗類シ鑛脈ノ狀況ヲ調査スルニ困難ナリ、附圖第一版ハ理學士岩崎重三氏ノ調査ニ成レル本山ノ地質圖ニ據ルモノ多ク本圖ニヨリ以テ本山ノ地質及鑛脈分布ノ狀ヲ知ルヲ得ヘシ

鑛脈ハ其數甚タ多ク正ニ數十ニ達スヘシ、就中本山、竹永鑛、阿原鑛、團子鑛、諏訪鑛ヲ大ナリトシ普通幅一二尺乃至四五尺アリ、石英斑岩ニ接スル附近ハ鑛脈良好ナリト云フ

本鑛ハ本山ノ主脈ニシテ中生層中ニ胚胎シ良好ナル部分ハ既ニ探掘シ盡サレ現今ハ所々ニ坑内ニ殘存セル鑛石若クハ薄幅ノ分岐脈ヲ稼行スルニ止マリ、現最低坑道ナル中尾坑水準以上ニハ多量ノ鑛石ヲ望ムベカラス、鑛脈ハ其幅一定セサレトモ厚キ所ハ十餘尺ニ達シ薄キハ

一尺以内ニ縮迫スルモ平均三尺乃至五尺トシ、鑛區ノ東部ニ屈曲シテ北々東ヨリ南々西ニ走リ北西五十度乃至七十度ニ傾斜シ、北部ハ灰石ニ被ハレテ地下ニ沈ミ、南部ハ鑛區ノ南方金見松ニ露ハル、此所ニハ鑛石ハ石英及無數ノ石英脈ヲ通スル母岩即チ砂岩ニシテ一般ニ柔軟トナリ褐色ニ變シ、露頭ノ幅二十餘尺ニ達シ北五十度東ニ走リ北西六十度ニ傾斜ス、其稼行跡ハ目下溝渠トナリテ存ス、金見松以南ノ輝石安山岩中ニハ鑛脈ハ表土ニ被ハレ、南方ニ其連續セルモノト思惟スヘキモノアレトモ脈幅及其品位甚シク劣レリ、蓋シ輝石安山岩中ニハ鑛脈縮迫若クハ斷絶セルモノナルヤ未タ探掘ノ悉サ、ルモノアルヲ以テ更ニ精査ヲ要ス

本鑛ノ盛ニ稼行セラレタルハ北部即チ竹永鑛ト最モ接近セル附近ニシテ多少ノ貧鑛アリシモ走向ニ沿ヒ約六七百尺ノ間探掘セラレタリ、幅ハ一尺五寸ヨリ七八尺ニ膨大シ平均三四尺アリテ北西若クハ西北西六七十度ニ傾斜セリ、現今ハ唯僅ニ竹永坑及龍水坑ニヨリ坑内ニ殘

存セル鑛石及薄條ノ分岐脈ヲ探掘ス、南部ハ自分谷坑及無水坑ニ依リ探掘セラレ、中尾坑ニ至ルマテ良好ナル部分ハ殆ント探掘セラレタリ、幅ハ平均三尺乃至五尺ニシテ時ニ七八尺ニ膨大スルコトアルモ脈幅大ナルトキハ概シテ鑛石ノ品位劣等ナリシト云フ、中尾坑ニハ本鑛ハ砂岩中ヲ北四十度東ニ走リ北西七十度ニ傾斜ス、幅ハ十尺ニ餘リ白色乃至灰白色堅緻ノ石英脈ヨリ成リ少シク粘土ヲ雜ヘ、一部ハ稍褐色ニ變シ縞狀ヲナス、其品位劣等ニシテ探掘ニ堪ヘサレハ走向並ニ下部ニ向ヒ探掘セントス、阿原坑及無水坑ニ於テ採取セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金

銀

阿原坑

〇、〇〇〇二八

〇、〇〇〇一八

無水坑

〇、〇〇〇五六

〇、〇〇〇六八

竹永鑛ハ本鑛ニ次キ主要ナル鑛脈ニシテ主ニ竹永坑及龍水坑ニヨリ稼行セラレ良好ナル部分ハ本鑛ト同シク既ニ探掘シ盡サレタリ、其中

部ニ於テ甚シク本鑛ニ接近シタル所ハ良好ニシテ最モ能ク稼行セラレタリ、走向及傾斜ハ彎曲セルヲ以テ隨所異ナルモ中部ニ於テ約東西ノ走向ヲ有スル附近ニハ北六十度内外ニ傾斜ス、幅ハ平均二尺乃至二尺五寸ニシテ品位ハ概シテ本鑛ヨリ良好ニ嘗テ下底ニ自然金ヲ産セルコトアリ、現今ハ本鑛ト同シク坑内各所ニ殘存セル鑛石及分岐脈ヲ稼行ス、鑛石ハ白色乃至灰色ノ石英ニシテ或ハ縞狀ヲナシ黃鐵鑛ヲ散點ス、竹長坑ニ於テ採取セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金

〇、〇〇〇六四

銀

〇、〇〇〇一八四

本鑛及竹長鑛トノ間ニ此兩鑛ヨリ分岐セリト思惟スヘキ數多ノ鑛脈アリ、其幅概シテ薄ク一尺以上ニ達スルモノ稀ナリ、阿原鑛ハ幅稍大ニシテ阿原坑ニ據リ稼行セラル、此所ニハ幅二尺内外ノ石英脈ナルモ下部ニハ貧劣且ツ薄條トナリ、中尾坑ニ於テハ粘土ヲ雜フル幅二寸内外ノ石英脈ニシテ北西六十五度ニ傾斜ス、濱市鑛ハ其延長長キモ脈幅狭ク一尺ニ達スルコトナク、西部ニ於テ第三紀層中ニ入りテハ幅二寸乃

至八寸ノ二三ノ小鑛ニ分岐シ品質良好ナリシト云ク、伊地知鑛亦狭小ナル石英脈ナルモ明治三十九年自然金ヲ産セルヲ以テ今尙稼行セラレ、其他數多ノ小鑛ハ只僅ニ良好ナル部分ノミヲ採掘ス、竹長鑛ノ北ニ九助鑛アリ

本鑛ノ東ナル團子鑛及諏訪鑛ハ阿原鑛ニ次キ主要ナルモノニシテ共ニ二三尺ニ達スルコトアリ、團子鑛ノ南端ハ金見松ノ東ニ露出シ、北西若クハ西北西ニ傾斜シ幅十餘尺アルモ幾何ナラスシテ二三脈ニ分岐シ其他數多ノ細脈亦母岩タル砂岩ヲ通シ砂岩ハ褐色柔軟トナレリ、本脈ハ自分谷坑及無水坑ニヨリ稼行セラレ幅五六尺ニ達スルコトアルモ下部ハ薄條トナルノ傾キアリテ中尾坑ニ於テハ北東乃至東西ニ走リ北七十二度ニ傾斜シ粘土ヲ雜フル堅緻ノ石英脈トナリ幅五寸ニ縮迫セリ、諏訪鑛ノ上部ハ諏訪金山及上諏訪金山ニヨリ稼行セラレ下部ハ本區ニ入レリ、中尾坑ニ於テハ走向北二十五度乃至三十度東ニシテ西北西三十五度乃至四十度ニ傾斜ス、中尾坑ノ上部百二十尺ノ所ニ於

テ走向ニ沿ヒ南方四百五十尺ノ間ハ良好ノ鑛石ヲ産シ内五六十尺ノ間ハ未タ稼行セラレスト云フ、鑛脈ノ幅ハ薄キハ一尺未滿ナルモ三四尺ナルルコト多ク中尾坑道ニ於テハ幅二尺五寸乃至三尺ニシテ堅緻ノ石英ニ赤褐色ノ粘土ヲ雜ヘ、南方ニハ鑛脈漸次縮迫シテ七寸トナルモ質稍良好ナリ、之ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金 ○、○、○、○、六、○、○、○、二、一、六
銀 ○、○、○、○、二、一、六

中尾坑ハ近時ノ開坑ニ係レル最低坑道ナリ、本坑道以上ハ已ニ殆ント採掘シタルヲ以テ本坑道ニ於ケル探鑛ノ成否ハ本山ノ運命ニ至大ノ關係ヲ有ス、而モ本坑道ニ於テハ不幸ニシテ未タ採掘ニ價スヘキ鑛脈ニ會セス、即チ本坑道ハ東又ハ東南東ニ向ヒ掘進シ現時其延長約千六七百尺ナリ、坑口ヨリ約百二三十尺ハ石英斑岩ニシテ中尾鑛ヲ胚胎ス、中尾鑛ハ甚タ薄ク粘土及石英ヨリ成リ北六十度西ニ走リ殆ント直立ス、中尾鑛ヨリ六七十尺ニアル濱市鑛ハ中尾鑛ト同一ノ走向ヲ有スル薄條ノ石英脈ニシテ、殆ント直立シ砂岩中ニ胚胎ス、是ヨリ坑道ヲ進ム

コト五六百尺ニシテ幅五寸ノ白色石英ヨリ成レル地車通アリテ砂岩中ニ胚胎シ北三十度東ニ走リ西北西六十度ニ傾斜ス、濱市通ト地車通トノ間一細脈アリ、又砂岩中ニ石英斑岩ノ一岩脈ヲ檢セリ、阿原通ハ地車通ト相接シ及之ト交叉セリ、本通ト阿原通トノ距離ハ四五百尺ニシテ其間砂岩中ニ石英斑岩ノ二三ノ岩脈アリ、本通ニ接シテ團子通アリ、更ニ三四百尺ニシテ諏訪アリ、通諏訪通ハ本坑道ニ於テ岩石良好ナルヲ以テ採掘シテ試製鍊ニ供セシモ其結果甚タ良好ナラス、目下探鑛中ナリ

要スルニ本區ニ於ケル本通、竹長通、阿原通、團子通、諏訪通ハ既往ニ於テ盛ニ採掘セラレ後來ニ於テモ探鑛スヘキ鑛脈タルヘシ、而シテ中尾坑ノ上部ニアル良好ナル部分ハ已ニ殆ント探鑛シ盡サレ多大ノ望ヲ囑スヘカラス、中尾坑ニ於テハ本通及諏訪通ハ其幅大ナルモ品位甚タ良好ナラス、阿原通及團子通ハ一尺未滿ノ薄條ニ縮迫シ品位亦良好ナラス、共ニ探鑛ヲ經タル後ニ非レハ其良否ヲ判スルニ由ナシ、蓋シ鑛脈ハ

概シテ下部ハ貧劣トナルノ傾向アリト云フ、其他數多ノ鑛脈ハ時ニ良好ナル鑛石ヲ産スルモノニシテ皆薄ク深ク囑望スヘカラスト雖モ亦之カ注意ヲ怠ルヘカラス

鑛脈ハ中生代砂岩、粘板岩、第三紀層、石英斑岩及安山岩中ニ胚胎ス、概言スレハ砂岩中ニアルモノ良好ニシテ粘板岩及第三紀層ニハ分岐散亂スルノ傾向アリ、而モ第三紀層中ニハ品位概シテ佳良ナルカ如ク、金見

松以南ニ於ケル本通及團子通ハ注意スヘキモノタルヘシ
鑛石ハ白色乃至灰白色ニシテ縞狀ヲナシ粘土ヲ雜ヘ黃鐵鑛ヲ散點シ、時ニ肉眼ヲ以テ識別シ得ル自然金ヲ含有スルモノアリ、品位ハ鑛石ノ性質ニヨリ大差アリ、概シテ白色堅緻ナルモノハ貧劣ナルモ平均十萬分二三ナリト云フ

第二區ニ於テ現時稼行セルモノハ本通及其分岐脈ニシテ約東西ニ走リ北方ニ急斜若クハ直立ス、幅ハ概シテ薄ク二寸内外ナルコト多ク、時ニ或ハ二三尺ニ膨大シ或ハ一寸未滿ノ薄條ニ分岐ス、鑛石ハ石英ニ

シテ黄鐵鑛ヲ散點ス、其他數條ノ鑛脈アルモ薄ク重要ノモノダラス
 第三區 ハ花渡川ニヨリ二分スルヲ便トス、北部ニ於テハ鑛脈數條アルモ現今稼行セルモノヲ立神鑛及正右衛門鑛トシ共ニ安山岩中ニ胚胎ス、立神鑛ハ概ネ北六十度東ニ走リ、正右衛門鑛亦殆ント同走向ヲ保チ西ニ於テ相接近シ東ニ於テ相離ル、傾斜ハ前者ハ殆ント直立シ後者ハ南方七十度内外ナルコト多シ、鑛幅ハ立神鑛ハ通常一尺五寸、正右衛門鑛ハ七寸乃至三尺ノ間ニアリ、鑛石ハ共ニ白色乃至灰白色堅緻ノ石英ニシテ時ニ母岩及石英脈ノ碎片并ニ粘土ヲ含ミ其數次ニ成生セラレタルヲ示セリ、又母岩ノ鑛染セラレ帶綠白色乃至灰白色ヲ呈セル通稱青星ト稱スル部分ハ柔軟ニシテ時々粘土様トナリ細微ノ石英脈ヲ通スルモノ多ク亦鑛石トシテ採掘ス、現今採掘セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

立神鑛

金

〇、〇〇〇五二

銀

〇、〇〇〇一四八

正右衛門鑛 〇、〇〇〇四四 〇、〇〇一五六
 本區ノ南部ハ火山灰ニ被覆セラレテニケ所ニ分ル、北方ニハ四五條ノ鑛脈安山岩中ニ胚胎ス、後木場本鑛ハ幅三四寸ヨリ二尺ノ間ニアリテ管ヲ稍盛ニ稼行セラレタリト云フ、現時休廢ス、南方ニハ四五條ノ鑛脈灰綠色ノ玢岩及安山岩中ニアリ、北部ニ二條相接スルヲ虚空藏鑛ト稱シ幅三四寸ヨリ二尺ノ間ニアリ、南方ニ二條相接スルモノハ現今數名採掘ニ從事ス、鑛石ハ白色又ハ灰白色堅緻ニシテ粘土ヲ雜ヘ幅二三尺アルモ鑛石トシテ採取シ得ヘキ所少ナシ、走向ハ北八十度東ニシテ北七十度ニ傾斜ス、採取セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金

〇、〇〇〇一八

銀

〇、〇〇〇一一二

(二) 山之神金山

山之神金山ハ鹿籠金山第一區ノ北西ニアリテ山之神鑛ヲ稼行ス、山之神鑛ハ北六十度東ニ走リ北六十度ニ傾斜セル一二寸ノ薄キ石英脈ニシテ中生代砂岩中ニ胚胎ス、現時兩三名採掘ニ從事ス、

(三) 池之平金山

池之平金山ハ木口屋ニアリテ現時水田中ヨリ北方ニ向ヒ大切掘進中ナリ、鑛脈ハ表土ニ被覆セラレテ明ナラサルモ中生代砂岩中ニ胚胎シ約東西ニ走レル石英脈ナリト云フ

(四) 上諏訪及諏訪金山

上諏訪金山ハ鹿籠金山第一區ノ西ニ隣リ其南西ニアル諏訪金山ト共ニ主ニ諏訪鑛ヲ稼行シ共ニ一時多少ノ産金アリシモ現今休止ス、諏訪鑛ハ鹿籠金山第一區ノ最東ニアル鑛脈ニシテ西乃至西北西ニ傾斜セルヲ以テ其下部ハ鹿籠金山ノ鑛區ニ入ルモ露頭部及上部ハ上諏訪及諏訪兩金山ヨリ稼行セラレタリ、諏訪金山ノ坑内ハ目下敗類シテ知ルニ難キモ上諏訪金山ハ諏訪鑛及團子鑛ヲ稼行セリ、此所ニハ諏訪鑛ハ北二十度東ニ走リ西六十度ニ傾斜セル幅五寸乃至一尺ノ石英脈、團子鑛ハ北三十度東ニ走リ西五十度ニ傾斜セル幅約一尺五寸ノ白色堅緻ノ石英脈ナリ、共ニ含金量ニ富有ナラスト云フ

(五) 千代金山

千代金山ハ鹿籠金山第二區ノ西ニアリ、鑛脈二三條アリテ約東西ニ近ク并走ス、蓋シ第二區ニ於ケル本鑛ノ連続セルモノナルヘシ、鑛幅ハ概シテ薄ク一二寸ナルヲ大ナリトスルモ時ニ肉眼ニテ識別シ得ヘキ自然金ヲ産シ、明治三十九年十二月ノ如キハ五千圓内外ノ青金ヲ産出シタリ、而シテ通常一ヶ月ニ青金百匁ヲ産ス、現今數十名操業ス、品位ハ平均金六十五、五銀三十四、五ノ割合ナリト云フ

(六) 組合金山

組合金山ハ千代金山ノ西ニアリ、鑛脈ハ千代金山ニ於ケルモノ、連続ト思惟スヘキモノニシテ幅厚キモ二三寸ヲ出テスシテ時ニ肉眼ニテ識別シ得ヘキ自然金ヲ産ス、鑛脈ハ約東西ニ走リ北方ニ急斜ス

(七) 虚空藏金山

虚空藏金山ハ鹿籠金山第三區ノ南東端ニアリ、鑛脈數條アルモ皆薄ク厚キモ二三寸ニ過キスト云フ、走向ハ約東西ニシテ北方ニ急斜ス、三四

名ノ坑夫操業ス

鹿籠金山區域ニ於ケル鑛脈ノ狀況前述ノ如シ、更ニ約言スレハ鑛脈ハ中生代砂岩ニ於テ最モ厚ク且ツ品位良好ナリ、其上部ニアリテ良好ナル部分ハ已ニ殆ント探掘シ盡サレ現今稼行スルモノハ僅ニ坑内ニ殘存セル鑛石ト及薄條ノ鑛脈并ニ分岐脈ニシテ之ヲ以テ後來ノ計ヲナス能ハサルヤ明ニ、將來ハ正ニ下底ニ向ヒ探鑛セサルヘカラス、而シテ現時最低坑道タル中尾坑ニ於テ檢スル鑛脈ハ其品位ニ於テ良好ナラサル者アルモ其果シテ探掘ノ價值ナキヤ否ヤハ探鑛ノ後ニ非サレハ斷言スルヲ得サルナリ、又鑛脈ノ第三紀層ニ入ルヤ其品位ニ於テ或ハ優ルモノアルモ概シテ薄條ニ分岐スル傾向アリ、安山岩中ニアルモノモ亦分岐シ易ク一二ノ鑛脈ヲ除ケハ皆二三寸ノ薄條ナリ、隨テ此等鑛脈ニシテ一時品位ノ良好ナルモノアルモ到底永遠ノ設計ニヨリ稼行スルコト困難ナルヘク、要ハ金山町附近ノ鑛脈ヲ銳意探鑛シ其他ノモノハ補助鑛石トシテ探鑛探掘ニ勉ムヘキナリ

標
尺
火
燭
測

鑛石ハ自稼人各自花渡川ニ設置セル水車ニヨリテ水銀ト共ニ搗鑛採
 金シ、後更ニ青化法ニヨリ金銀ヲ採取ス、久木野ヨリ鹿籠金山事務所ニ
 至ルマテ十餘ノ製鍊場アリ、鹿籠金山ニ於ケル混汞後及青化後ノ鑛尾
 ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

混汞後ノ鑛尾	〇、〇〇〇三六	〇、〇〇〇六六
青化後ノ鑛尾	〇、〇〇〇二〇	〇、〇〇〇六八

金

銀

二 泊及坊區域

泊及坊附近ニ發達セル中生層ハ所々ニ金銀ヲ含有スル石英脈ヲ胚胎
 スルモ、現時ハ僅ニ泊村ニ一個所試掘スルモノアルノミ
 坊鑛山 川邊郡坊村落西端ノ南部山頂ニ採鑛所ヲ設ケ採鑛ニ從事セ
 ルモノヲ坊鑛山トス、本山ハ本官巡回ノ一ヶ月前休山シ爲ニ鑛脈ノ狀
 況ヲ詳ニスルヲ得ス、鑛脈數多アリ、採鑛所附近ニアル六七條ノ鑛脈ハ
 中生層ノ層向ト同シク殆ント北七八十度東ニ並走シ概ネ西ニ急斜シ

時ニ東方ニ傾斜セルコトアリ、脈幅ハ厚キトキハ二尺餘ニ達スルコトアルモ概シテ薄ク三四寸以下ナルコト多シ、鑛石ハ白色乃至灰白色ノ石英ニシテ時ニ黝色ヲ呈シ往々褐色ニ變シ黃鐵鑛ヲ散在シ又ハ粘土ヲ混有シ、或ハ粘土ノミヨリ成ル、西方ニ海岸ニ近ク二條ノ石英脈アリ、亦地層ノ層向ト同シク北七八十度東ニ走リ西七八十度ニ急斜ス、内一條ハ幅一尺五寸乃至二尺二寸ヲ普通トシ嘗テ稼行セラレタリ、南方海岸ニ近キモノ亦畧同走向ヲ有シ幅五寸乃至一尺、嘗テ稼行セラレタリ、此他附近ニ數多ノ鑛脈アリト云フ、此地附近ハ五六十年前藩主島津家ノ稼行セル所タリ、而シテ本山ハ今ヲ去ル十年前ニ再開セラレタルモ遂ニ盛ナルニ至ラスシテ休止シタリ、事務所附近ノ鑛脈ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

石英脈(粘土ヲ有シ
褐色ニ變ス)

〇、〇〇一 二

〇、〇〇〇 四

粘土脈(主ニ淡
灰粘土)

〇、〇〇六 四

〇、〇〇三 二

金

銀

泊村附近 泊ノ北部山腹ニ數多ノ舊坑アリ、坊附近ノ金山ト同シク嘗テ藩主島津家ニ於テ稼行セラレタリト云フ、維新後所々ニ操業シタルモノアルモ皆盛ナルニ至ラス、數多ノ鑛脈ハ主ニ中生代粘板岩中ニ胚胎セラル

久志街道ニ沿ヒ泊村ヨリ數町ノ北東山腹ニ稼行セラレタル舊坑アリ、此所ニ見ル鑛脈ノ露頭ハ幅四尺アリテ暗灰色ノ石英ヨリ成ル、其品位劣等ナリ、走向ハ北八十度東ニシテ北方ニ急斜若クハ直立ス、泊ノ北方丘阜ニアル舊坑ハ已ニ埋没シテ鑛脈ノ狀況明ナラス

松山平金山ハ泊ノ西方數町ナル小溪ノ西方山腹ニアリテ街道ノ直下ニアリ、明治三十九年ヨリ數名ノ坑夫試掘ニ從事ス鑛脈ハ幅三四尺ニシテ五十度西ニ走リ殆ント直立ス、鑛石ハ白色又ハ帶褐色ニシテ黃鐵鑛ヲ散點シ概シテ堅緻ナルモ稍空隙ニ富ミ粘土ヲ雜ヘ粗鬆ナルモノアリ、其品位劣等ニシテ未タ採掘ニ價セス、此外尙數條ノ薄脈アリ、泊、久志間ニ西方ニ突出セル半島ニ輝石安山岩中ニ胚胎セル鑛脈アリ、

江ノ浦鑛山ト稱シ十一年前ヨリ三年間試掘セルモ遂ニ廢棄セラレタ
リト云フ、現時鑛脈ノ狀況明ナラス

三 赤谷鑛山、赤石鑛山及其附近

赤谷鑛山 ハ枕崎ヲ距ルコト北東二十五六町枕崎、知覽街道ノ北數町
ノ地ニアリ、其發見ハ明治二十八年ニシテ爾後屢坑主ノ交迭アリ、本山
ハ數年間稼行セラレタルモ收利ナク同三十八年遂ニ休山セリ
本山附近ハ輝石安山岩ヨリ成ル、其金鑛ヲ胚胎セル岩石ハ白色堅緻ノ
硅質岩ニ變シ斷崖ヲナシ屹立ス、事務所ノ北東十數間ニ斷崖ヲナセル
硅質岩中ニ殆ント南北ヲ指シ幅二三尺ノ石英ノ部分アリテ所ニヨリ
稍多量ノ黃鐵鑛ヲ散在シ、又少シク粘土ヲ雜ヘ一部ハ酸化鐵ノ爲ニ褐
色ニ變シ金ヲ含有スルコト多シト云フ、其硅質岩トノ境界ハ判然タラ
ス、而シテ硅質岩ニモ隨所金ヲ含有シ特ニ裂隙ニ富メル部分ハ鑛石ト
シテ探掘シ得ヘシ、隨テ探鑛甚タ困難ニシテ多量ノ鑛石ヲ得レハ品位
劣等トナリ、品位稍良好ナルモノヲ撰ヘハ鑛石ノ量少シ、採取セル鑛石

ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金

〇、〇〇〇五

銀

〇、〇〇〇三

赤石金山 川邊郡知覽、枕崎街道ノ中間ニ街道ノ北ニ孤立セル小丘ア
リ、其北方ハ斷崖ヲ以テ臺地ニ臨ミ南方ハ漸次ニ低下セリ、此小丘ハ即
チ赤石金山ノ探鑛所ニシテ其發見ハ明治二十三年ニアリ、爾後時ニ探
鑛セラレ同三十四年ニ至リ始メテ製鍊ニ着手セルモ同三十六年ニハ
鑛石貧劣トナリ爾來專ラ探鑛ニ從事シ同三十九年十月ヨリ更ニ再ヒ
製鍊ニ從事スルニ至レリ、現時一日三百貫ヲ探掘シ十一月ニハ百十五
匁ノ金ヲ製出シ、鑛石ノ品位ハ約十萬分一、五ナリト云フ、本山ノ製鍊所
ハ知覽ノ西約二十町ノ柿ノ木畑ニアリテ萬瀬川上流麓川畔ニ位ス、本
山トノ間二里半ノ間ハ馬車ニ據リ鑛石ヲ運搬ス

本山探鑛所ノアル小丘ハ赤石丘ト稱シ硅質岩ヨリ成リ南方ハ火山灰
ヲ以テ被覆セラル、金ハ此等硅質岩ノ所々ニ胚胎セラレ北方ニ斷崖ヲ
ナセル所ニ數多ノ坑口アリテ良好ナリト思惟スヘキ部分ニ掘進シ、其

良好ナルハ裂罅ニ沿ヒタル部分殊ニ多少粘土ヲ雜フル所ニシテ、灰白色又ハ淡褐色乃至黒灰色若クハ褐色ヲ呈ス、鑛石并ニ其胚胎ノ状態ハ赤谷鑛山ト同シク隨テ鑛石ノ量多キモ製鍊スルニ足ルヘキ平均品位ヲ有スル鑛石ヲ得ルニ難ク充分ナル探鑛ヲ要ス、採取セル鑛石ヲ分析シタルニ其結果左ノ如シ(百分中)

第一號

金

〇、〇〇一三

第二號

同

〇、〇〇〇五

第三號

同

〇、〇〇〇二

柿木畑製鍊所ハ辨財天銀山ノ盛大ナリシトキ同山ノ鑛石ヲ製鍊スルノ目的ヲ以テ設置セラレタルモノニシテ現時ハ僅ニ殘存セル辨財天銀山鑛石ノ鑛尾ト赤石鑛山ノ鑛石トヲ製鍊ス、而シテ本製鍊所ノ鑛尾ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金

混汞後ノ鑛尾

〇、〇〇〇三

銀

〇、〇二二三

青化後ノ鑛尾

〇、〇〇〇三

〇、〇一二三

廢山 園見嶽ノ南麓ニ春日鑛山アリ、枕崎ノ東岩戸山、赤石鑛山ノ南ナル大隣嶽ニハ嘗テ探鑛セラレタルコトアリ、皆赤谷鑛山、赤石鑛山ト同シク硅質岩ヨリ成ル、硅質岩ノ原岩石ハ明ナラサレトモ已ニ記述セルカ如ク蓋シ安山岩ノ噴氣作用ノ爲メニ變質シタルモノナルヘク、其際岩石ノ一部特ニ裂罅ニ金ヲ胚胎セルニ至リシモノナラン、而シテ硅質岩中ノ金鑛ヲ探掘セルハ現時ハ赤石金山ノミナルモ大隣嶽、岩戸山、枕崎ノ北西ナル園見嶽ヨリ南方宗前嶽ニ至ル地方、枕崎ノ北瀬戸口ノ小丘等ハ皆本岩石ヨリ成リ多少ノ金ヲ含有スルモ探鑛ノ困難ナルト、含量ノ富有ナラサルトニヨリ幾何モナクシテ皆休止セリト云フ

(三) 津貫附近

川邊郡加世田村津貫及中間附近ニハ中生層又ハ石英斑岩中ニ數多ノ石英脈ヲ胚胎シ嘗テ探掘ヲ試ミラレタルモノ數多アリ、又西方一嶺ヲ越エテ大木塙ニハ四五年前ヨリ中生層中ノ鑛脈ヲ探掘セリト云フ、然

レトモ何レモ盛ナルニ至ラスシテ休止シ現時ハ其狀況ヲ詳ニセス、巡
 回中ニハ中間ノ南微東十餘町藏多山ノ北中腹ニアル津貫鑛山ノ鑛脈
 ヲ檢セリ、本山ハ明治三十八年ヨリ一年餘稼行セラレ一日三百貫乃至
 五百貫ノ鑛石ヲ採掘シタリ、鑛石ノ品位ハ金平均分留十萬分一、時ニ三
 四ニ達スルモノアルモ交通不便ニシテ採鑛所ヨリ花渡川ノ溪流ニ設
 置セル製鍊所ニ十六貫ノ鑛石ヲ運搬スルニ十六錢ヲ要シ收支ノ計算
 甚タ困難ナリシト云フ、一條ノ石英脈ハ石英斑岩中ニ胚胎シ東西乃至
 北七十度東ニ走リ北六七十度ニ傾斜ス、其稼行シタル區域ハ走向ニ沿
 ヒ約五十尺ナリトス、西方ノ引立ハ幅七寸乃至一尺ノ稍柔軟ナル石英
 ニシテ東方ニハ二三寸ニ縮迫ス、鑛石ハ概シテ白色柔軟ノ石英ニシテ
 所ニヨリ褐色ニ變シ上部ニハ品位ノ良好ナルモノアリシト云フ

(四) 野間附近

川邊郡野間半島ノ北西端野間ノ西方山中ニ舊坑アリ、坑口廢頽シテ鑛
 脈ノ狀況ヲ知ルニ難シ、蓋シ中生層中ニ胚胎セル金鑛ヲ採掘セリト云

フ

(五) 錫禮銀山

錫禮銀山ハ知覽ノ北東約一里半鹿兒島街道ノ西方數町ノ山腹ニアリ、
 十年前ノ開坑ニ係リ爾後再度休止セルノ外常ニ探鑛ニ從事シ明治三
 十九年二月ニ至リ遂ニ全ク中止スルニ至レリ、本山ニ於テ稼行セル鑛
 脈ハ中生代砂岩、粘板岩中ニ胚胎セル一條ノ石英脈ニシテ幅ハ厚キト
 キハ六尺ニ餘リ薄キトキハ數寸ニ縮迫ス、而シテ六尺ノ鑛脈中鑛石ト
 シテ採取シ得ル所少ナク含銀品位僅ニ十萬分三ニ過キス、蓋シ石英ハ
 堅硬ニシテ多量ノ黃鐵鑛ヲ散在スルモ表面ニ近キ上部ニ於テハ鑛石
 ハ甚タ堅硬ナラス、品位亦良好ニシテ嘗テ之ヲ採掘シタリ、然ルニ下部
 ニ向ヒ石英ハ白色堅硬トナリ品位甚ク劣リ僅ニ一部ノ灰色ヲ呈ス
 ルモノト、解弛セル部分トヲ採取シ得ルニ過キスト云フ、且ツ下部ハ出
 水多ク爲ニ街道ニ接シテ本脈ノ下部ニ向ヒ坑道ヲ開掘セルモ未タ鑛
 脈ニ會スルニ至ラスシテ中止シタリ

(六) 平山金山

知覽ノ南ヨリ少シク東ニ偏シ約二里ナル永野ニ陸軍々馬補充部派出所アリ、其南數町ノ山腹一溪流ニ沿ヒ數名ノ坑夫試掘ニ従事ス、之ヲ平山金山トス、本山ハ四十年前ノ開坑ニ係リ時ニ稼行セラレタルモ盛ナルニ至ラスシテ久シク休山セリ、明治三十九年五月再開セラレ目下疏水坑道開掘中ニシテ鑛床ノ状態ヲ詳ニセス、地質ハ中生代ノ砂岩、粘板岩ニシテ現時厚サ約八寸ノ石英脈ニ會ス、走向ハ東西ニ近ク北六十五度ニ傾斜ス

(七) 小田代鑛山

揖宿郡沿岸ノ前濱ヨリ西方約一里半ノ山間ニ小田代ノ小部落アリ、此附近ハ凡ソ百年前ニ盛ニ金銀鑛ヲ稼行セルコトアリト傳ヘ數多ノ舊坑アリテ銀鑛ノ名今尙存ス、明治二十四年頃ヨリ時ニ此地ニ於テ探掘ニ従事セルモノアリシモ久シカラスシテ中止シタリ、小田代鑛山ハ同三十九年四月ヨリ本部落ノ南方小丘ニ於テ試掘ニ従事セルモノナリ、

地質ハ中生代ノ砂岩、粘板岩ヨリ成リ、現ニ試掘セル所ニハ數多ノ細脈砂岩ヲ通シ時ニ網狀ヲナシ砂岩ハ柔軟トナリ黃鐵鑛ヲ散在ス、鑛脈ノ走向ハ略東西ニシテ殆ント直立シ幅ハ數寸ヨリ三尺ニ肥大スト云フ

(八) 揖宿郡中部

揖宿郡ノ中部ニ殆ント南北ニ連リ、南ハ大平洋沿岸ナル脇浦ヨリ北ハ鹿兒島灣ニ沿ヘル生見ノ南方ニ互リ鑛區相接ス、現ニ稼行ノ鑛山ハ其數十ニシテ中部ニ金ヲ主産スル仁田平、鬼門平、池田、河内山、大谷、日影、小金、立神ノ八、鑛山相隣接シ、南部ニ銀ヲ主産スル辨財天及穎娃ノ二鑛山ヲ見ル、前者ハ之ヲ大谷金山區域、後者ハ之ヲ辨財天銀山區域トシテ一括セン、而シテ北部ニハ嘗テ其盛ヲ稱セル生見銀山アルモ已ニ休廢シ現ニ稼行セララル、モノナシ

一 大谷金山區域(第二版參照)

地形 池田湖ノ西北西ニ當リ縣道ノ側ニ聳ユル烏帽子嶽ハ海拔約三百七十米アリテ本區域ニ於ケル最高峯タリ、烏帽子嶽ヨリ北方ニ連リ

波浪狀ヲナセル臺地ハ大谷金山ニ至ルマテ東側ニ近キ部分ヲ除ケハ概テ火山灰及灰石ヲ以テ被覆セラレ、其東側ハ絶壁ヲナセリ、大谷、日影、小金、立神ノ四金山ハ皆此絶壁ニ露出セル鑛床ヲ稼行ス、大谷金山以北ノ地モ亦厚キ火山灰及灰石ヲ以テ被覆セラレテ波浪狀ノ臺地ヲ成スモ池田金山ノ鑛區ニ入リテ高サ三百六七十米ニ達スル山頂アリ、恰モ火山灰及灰石中ニ島嶼ノ如ク屹立ス、東側ノ絶壁ハ大谷金山ヨリ以北ニハ次第ニ低ク唯火山灰及灰石ノミ露出スルモ北方鬼門平ニ至リテ高サ三百餘米トナリ、安山岩及其集塊岩絶壁ヲナシテ南東ニ臨ミ、北及西ハ波浪狀ヲナシ灰石ニ被覆セラル

地質 本區域ヲ構成セル岩類ハ第三紀層并ニ粒狀安山岩、角閃石安山岩、火山灰及灰石トス

第三紀層ハ主ニ凝灰質頁岩、角礫岩ヨリ成リ、烏帽子岳ヨリ北ニ斷崖ニ連リ及北方大谷金山鑛區ノ南斷崖ニ露ハレ、其以北ニハ火山灰及灰石ニ被覆セラレテ僅ニ大谷金山砥石迫、河内山金山鑛區内等ノ溪谷ニ露

出シ更ニ池田金山附近ヨリ北方ニ亘レリ、地層ハ波浪狀ヲナシ、殆ント水平ニ近キモ十五度ノ角度ヲ有スルモノアリ

凝灰質頁岩ニハ數種アリ、其色ハ普通白色乃至灰白色若クハ淡灰色ニシテ甚タ強固ナラサルモ、變質シテ硅質堅緻トナリテ黝灰色、淡褐色又ハ肉紅色ヲ呈シ石英粗面岩ト區別シ能ハサルモノ多シ、即チ大谷金山、日影金山ノ上部、立神金山及小金金山ニアルモノヲ然リトシ、大谷金山日ノ出坑及旅順坑ノモノハ肉紅色ヲ呈ス、頁岩ハ砂粒ヲ混シ砂質トナレルモノアリ、薄層ナレトモ日影金山、小金金山ニ凝灰質頁岩ト互層ス、凝灰岩ハ普通帶綠色著シ、角礫岩ハ帶綠色ニシテ大小種々ノ稜角アル岩礫ヲ含有シ甚タ堅硬ナラサルモ變質シテ堅緻トナリ時ニ或ハ褐色トナレルモノアリ、其岩片ヲ含ムコト少ナキモノハ凝灰岩ニ移過ス

凝灰質頁岩、凝灰岩及角礫岩ハ互層シ概シテ凝灰質頁岩及凝灰岩ハ上部ニ角礫岩ハ下部ニアリ、而シテ地層ノ傾斜甚タ緩ナルヲ以テ凝灰質頁岩及凝灰岩ハ常ニ斷崖ノ中腹ニアル坑道ヨリ下部深ク掘進スレハ

凝灰質頁岩ハ帶綠色ノ角蠻岩ニ變ス、角蠻岩ハ下部ニアリテ斷崖ノ中腹以下ニ露ハル、河内山金山坑内ノ最下底ハ帶綠色ノ角蠻岩ニ變スト云フ、而シテ池田金山及大谷金山ノ立神坑附近ニハ帶綠色角蠻岩、小金山事務所附近ニハ變質セル褐色角蠻岩露出ス、蓋シ凝灰質頁岩ノ上部ニ該當シ最上部ノ位置ニアルモノ、如ク池田金山ヲ除ケハ其露出ノ區域狹シ、或ハ大部分已ニ浸蝕セラレタルモノナラン、又凝灰岩ト角蠻岩トハ漸次ニ移過シテ其境界判然タラス、大谷金山、日影金山鑛區ニ於ケル斷崖ニ於テ其關係ヲ檢スルコトヲ得ヘシ

粒狀安山岩ハ烏帽子嶽及池田鑛山中中部ノ山嶽ヲ構成シ第三紀層ヲ貫キテ屹立シ本區域ニ於ケル最高地タリ、岩石ハ普通分解シテ帶綠色トナリ長石及角閃石ノ斑晶ヲ散布ス、角閃石安山岩ハ鬼門平ヲ構成シ帶褐色若クハ灰色ニシテ黑色鑛物及長石ノ斑晶ヲ有ス、黑色鑛物ハ柱狀若クハ六角形ヲ呈シ磁鐵鑛粒ニ圍繞セラレ多クハ全ク之ニ變ス

以上ノ諸岩類ハ共ニ鑛床ヲ胚胎スル母岩タリ、之ヲ被覆シテ火山灰及

灰石廣ク分布シ波浪狀ノ臺地ヲ形成ス、此岩石ハ鑛床ヲ胚胎セスシテ其成生後ニ堆積若クハ流出セルヲ示セリ、隨テ鑛床ハ斷崖床并ニ丘陵臺地上ニ屹立セル山嶺若クハ丘陵地ノ溪谷ニ於テ之ヲ發見スルノミ

本區域ニ於ケル諸鑛山ハ明治三十年前後ニ開發セラレタルモノ多ク共ニ未タ甚タ盛大ナルニ至ラス、鑛石ハ金銀ヲ含有スル石英及粘土ナルモ大谷、日影兩金山ノ如ク銅鑛ヲ隨伴スルモノアリ

製鍊ニハ水力ヲ利用スルノ有利ナルヲ以テ一ニ鑛山ヲ除ケハ適宜河岸ニ製鍊場ヲ設立シ茲ニ鑛石ヲ輸送ス

(一) 大谷金山

大谷金山ハ宮ヶ濱ノ西方二里餘縣道ノ西數町ニ在リ以テ馬車ヲ通スヘシ、而シテ宮ヶ濱ハ鹿兒島ノ南十一里二十町餘ニアリ、兩地間毎日二回汽船ノ往復スルアリテ交通不便ナラス

本山發見ノ時代ハ明ナラス、古老ノ言ニヨレハ今ヲ去ル六十年前即チ弘化年間舊藩主此地ニ金鑛ノ存在ヲ傳聞シ之ヲ探檢セシメタルモ村

民ハ將來使役ノ徵發ヲ恐レ鑛床ノ露頭ヲ埋沒隱蔽セリト云フ、明治ノ初年ニハ村民協力シテ採掘ヲ試ミタルコトアリ、明治二十五年頃ヨリ本山ノ開發ヲ企テタルモノアリシモ良効果ナシ、同二十七年新鑛脈發見セラレ同二十九年頃ヨリ稍好況ヲ呈スルニ至リ、同三十一年八月製鍊所ヲ建設シ翌年稍事業ヲ擴張シ、同三十七年以來銳意事業ノ擴張ヲ企圖セリ、而シテ本鑛ノ採掘ハ漸ク下底ニ進ミテ鑛石ハ銅鑛ヲ隨伴シ製鍊ニ困難ヲ來セルニ依リ暫ク其採掘ヲ中止シ專ラ本鑛外ノ鑛脈ヨリ金銀ヲ收取スルニ止メ、更ニ同三十九年銅鑛ノ製鍊ニ着手セントシ穎娃村字牧ノ内ニ水力發電所ヲ設置シ今ヤ既ニ其工ヲ竣ヘタリ、最近五ケ年ニ於ケル本山ノ產額左ノ如シ

	金	銀	製鍊元鑛高
明治三十七年	一、五三三 ^匁	一、六八〇 ^匁	一五九、八〇一 ^匁
同 三十八年	一、七八八	一四、六五七	三八〇、四三三
同 三十九年	一、二九一〇	二六、二一二	一、四三〇、〇四四

同 四十年	八、二八九	九、六九一	一、四三二、八八九
同 四十一年	五、七二九	三、〇二五	七〇三、七七〇

鑛床ハ第三紀層ニ胚胎セル鑛脈ニシテ其數甚タ多ク就中注意スヘキモノ七條アリ、即チ本鑛、富士鑛、旅順鑛、木出鑛、立神鑛、北立神鑛及日ノ出鑛トス、本鑛ハ最モ主要ナル鑛脈ニシテ旅順鑛、立神鑛之ニ次ク、走向ハ南北乃至北々西ニシテ東方ニ急斜若クハ殆ント直立シ本鑛、富士鑛ヲ除ケハ其露頭ハ凝灰頁岩ニ胚胎ス、現時稼行セルハ旅順、立神、北立神、木出ノ四脈ナリトス(第三版參照)

本鑛ハ本山ノ主脈ニシテ北三十度西ニ走り東北東六七十度ニ傾斜スルヲ普通トス、其露頭ハ南ハ殆ント鑛區ノ境界ヨリ北ハ鑛區ノ西部ヲ南流セル河流ニ至リ延長千三百餘尺ニ達シ、現ニ一條ノ溝渠トナリ存スルモ北部ニハ幅二三寸乃至一尺未滿ノ三條ノ石英脈ニ分岐シ北二十度西ニ走り東七十度ニ傾斜シ角礫岩中ニ胚胎ス、北方ニ本鑛ニ接スル櫻鑛ハ幅二三寸乃至八九寸ノ石英脈ニシテ南方ニハ之ニ合スル

モノ、如シ

本通ハ其名ノ示セルカ如ク本山ノ親通ニシテ明治三十二年ヨリ同三十四年ニ至ル間盛ニ探掘セラレ現疏水坑道ナル第二坑道以上ニ於テハ良好ナル部分ハ已ニ殆ント探掘シ盡シタルカ如シ、而シテ下部ニ於テハ鑛脈ハ銅鑛ヲ隨伴シ現時ノ設備ニ於テハ製鍊ニ困難ヲ感スルヲ以テ巡回ノ當時ハ恰モ探掘ヲ中止セリ、隨テ坑内ノ狀況ヲ詳ニスルコトヲ得ス、目下新製鍊場建設中ニ屬シ其完成ヲ待テ本坑ノ探掘ヲ開始スヘシト云フ

第二横坑ハ事務所ノ南方ニ河床ニ近ク開坑シ現今ニ於ケル最低坑道ナリ、第二坑道ハ第二横坑水準ニアリ、概言スレハ第二坑道ノ上部ニ於テハ本通ハ幅數寸ヨリ六尺ニ達スルモ平均二尺乃至二尺五寸アリ、鑛石ハ石英ニシテ粘土ヲ隨伴スルモ下部ハ黃銅鑛、方鉛鑛等ヲ雜有ス、其縮迫スルヤ二三寸ノ粘土通又ハ石英脈トナリ、膨大スルトキハ幅二三尺ヨリ六尺ニ達シ傾斜ニ沿ヒ十五尺乃至三十尺、延長十五尺、二十尺時

ニ五十尺ニシテ再ヒ縮迫スト云フ、第二坑道ノ下底約八十尺ナル第三坑道ニ於テハ通幅六尺ニ達セルモノアリ、其南方ノ引立ハ已ニ鑛區ノ境界ニ接シ鑛脈ハ二條ニ分岐シ共ニ薄ク、東ナルハ粘土多ク石英ハ薄條ヲナシ、西ナルハ三寸乃至五寸ノ粘土ト閃亞鉛鑛、方鉛鑛等ヲ含有セル二寸内外ノ堅硬ノ石英脈ナリトス、北方ノ引立ハ石英、粘土ヨリ成リ薄ク、此引立ノ南方ニハ皆テ良好ナル鑛石ヲ産セリト云フ、第三坑道ヨリ約六十尺ヲ下レル第四坑道ノ南北引立ハ共ニ縮迫シテ良好ナラサルモ中部ハ良好ニシテ幅八九尺アリ、中最モ良好ナル所四尺アルモ銅鑛ヲ雜有スルコト多ク爲ニ探掘ヲ中止ス、目下滯水セルモ製鍊ノ設備成レルノ日更ニ探掘ニ着手スヘシト云ヒ、又第四坑道ノ南方ニ近ク四十尺ヲ掘進セルニ銅鑛ヲ含有セル良好ノ鑛石アリシト云フ

本通賦存ノ状態ハ甚タ不明ナルモ今後ニ於テ稼行スヘキ區域ハ第二、第三坑道地並以下ナルヘク南北ニ於ケル引立ハ狀況良好ナラサルモ探掘ヲ怠ルヘカラス、而シテ下部ニハ鑛脈ハ銅ヲ含有シ出水稍多キモ

鑛脈ハ第四坑道ニ於テモ良好ナリト云ヒ、品位ハ他ノ鑛脈ニ比シ概シテ良好ナレハ未タ速ニ稼行ニ困難ヲ感スルコトナカルヘク、諸般ノ設備成ルノ日本鑛ノ良否ヲ判スルヲ得ン

現時坑外ニ堆積セル鑛石ハ銅鑛トシテ撰鑛シタルモノニシテ之ヲ以テ鑛物胚胎ノ關係ヲ知ルコト難シト雖モ石英脈ニ銅鑛ヲ含有セルモノアリ、帶綠色ノ母岩ニ黃銅鑛ヲ鑛染シタルモノアリ、又ハ殆ント銅鑛ノミヨリ成レルモノアリ、又母岩ノ碎片ヲ含有スルモノアリ、概シテ鑛石ハ上部ニハ石英及粘土ニシテ只僅ニ北部ニ於テ稀ニ銅鑛ヲ見ルノミ、下部ニハ黃銅鑛ノ外方鉛鑛、閃亞鉛鑛、黃鐵鑛、赤鐵鑛ヲ含有シ方鉛鑛、閃亞鉛鑛ハ其量比較的少シ、而シテ鑛石ハ解弛シテ柔軟トナリ褐色又ハ黑色ニ變スルモノアリ、蓋シ本鑛ハ數次ニ成生セラレ金鑛及銅鑛ノ成生ニハ前後アリシナルヘキモ鑛床賦存ノ狀態明ナラサルヲ以テ茲ニ之ヲ判別シ難シ、鑛石中ニハ黃銅鑛、水晶、方解石ノ結晶ヲ含有ス、堆積セル銅鑛ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金

銀

銅

銅上鑛	痕	跡	〇、〇一五九	一七、六二
銅並鑛 <small>(石英ヲ有ス)</small>	〇、〇〇〇七	〇、〇一〇五	一〇、六六	
黑鑛 <small>(方鉛鑛ヲ稍多量ニ含有ス)</small>	〇、〇一二三	〇、一〇七一	二四、八四	

旅順鑛ハ約六百尺其露頭ヲ追跡スルヲ得ヘク、第二坑道ヨリ約四百餘尺ノ高地ニアル旅順坑及旅順横坑ニヨリ稼行シ、前者ハ露頭ヲ追ヒ後者ハ西方ヨリ鑛脈ニ向ヒ掘進セリ、旅順横坑ハ坑口ヨリ約七十餘尺ニシテ鑛鑛ニ會ス、是ヨリ鑛ヲ北方ニ追ヒ五十尺ニシテ深サ四十尺ノ鑛坑アリ、現時ノ引立ハ鑛坑ノ下底ヨリ北ニ進ムコト約八十尺ニテ幅一尺ノ石英及粘土ヨリ成リ母岩ノ碎片ヲ含有セリ、鑛坑ノ中間即チ二十三尺ノ所ヨリ南方ニ鑛脈ヲ探掘セル坑道ハ延長八十餘尺ニ及ヒ其ヨリ八九十尺ニシテ旅順坑ニ通シ、其下方二三三尺ハ現今ニ於ケル座下ナリトス、鑛坑附近ヨリ南方ハ良好ナル區間ニシテ上下左右ニ各三十尺ノ間ハ鑛幅厚ク良好ナル鑛石ヲ産シ旅順坑ニ至ルマテ探掘シタ

リ、座下ハ厚サ三四尺、而シテ北方ニハ三尺、南方ニハ一尺アリ、此所ニハ白色又ハ灰白色ノ粘土ニ白色ノ石英脈ヲ通シ粘土ハ一部褐色ヲ呈ス、鑛脈ノ走向ハ約南北ニシテ西方六十五度乃至七十度ニ傾斜ス、幅ハ厚キトキハ三四尺ニ膨大シ薄キトキハ二三寸ニ縮迫スルモ平均一二尺トス、鑛石ハ石英及粘土ナリトス、石英ハ白色ニシテ甚タ堅硬ナラス大抵粘土ヲ伴ヒ時ニ縞狀ヲナセルモノアリ、粘土ハ母岩ノ霉爛鑛染セラレタルモノ多ク、或ハ石英ノ細脈ヲ通シ或ハ上磐ニ霉爛セル母岩アリテ下磐ニ石英脈ヲ通シ、若クハ母岩ニ粘土ヲ隨伴シ又石英及母岩ノ團塊ヲ含ムモノ少カラス現時坑道ノ最下底附近ハ恰モ凝灰頁岩ト角蠻岩トノ境界ニ當リ上部ニハ粘土ハ主ニ灰白色ノ凝灰質頁岩ナルヲ以テ鑛石ハ概シテ白色ヲ帶ヒ、下部ニハ角蠻岩ニシテ黝灰色又ハ褐色ヲ呈セリ、採取セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ

白色石英(百分中)

金

〇、〇〇一九

銀

〇、〇〇四一

木出通 ハ旅順鑛ノ東ニ接シ目下稼行セス、鑛區ノ西方ニ偏シ山頂ニ

近ク掘下セル鑛坑ハ第二坑道ノ直上約五百尺ニアリテ上部ハ火山灰ニヨリ被覆セラル、鑛坑ヲ下ルヲ百五十尺ニシテ鑛脈ニ會シ更ニ掘下スルヲ百二十尺、此所ニハ通幅薄ク僅ニ二三寸ニ過キササルモ南方ニハ直ニ一尺餘ノ粘土ヲ伴ヘル縞狀ノ白色ノ石英脈トナレリ、即チ南方ニ鑛脈ヲ追跡スルヲ四五十尺ニシテ其下方一二十尺ノ附近ニハ白色ノ石英脈一尺内外ノ通幅ヲ有ス、鑛坑ノ北部ハ未タ稼行シタルヲナキモ西數間ヲ隔テ、支脈ト思惟スヘキ一脈アリテ嘗テ稼行セラレタリ母岩ハ概言スレハ上部ハ少シク褐色ヲ帶ヒタル硅質凝灰質頁岩ニシテ下部ハ角蠻岩ニ移過セルモノ、如シ、鑛脈ハ二條ニシテ殆ント北二十度乃至三十度西ニ並走シ東方ニ急斜ス、西方ニアルモノハ分岐脈ニシテ少シク探掘セラレ、幅ハ露頭ニハ甚タ薄キモ下部ニ漸次肥大セリト云ヒ概シテ二三寸ヨリ二尺ノ間ニアリ、東方ノモノハ主脈ニシテ主ニ白色ノ石英ヨリ成ルモ或ハ數多ノ細脈網狀ヲナシ、或ハ一二尺ノ間母岩ニ石英ヲ通シ母岩ハ霉爛シテ柔軟粘土狀トナレリ、石英ハ其一部

ハ堅緻ニシテ縞狀ヲナス、堅緻ナルモノニハ金ヲ含有セス、採取セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ

粘土様白色石英 (百分中) 金 〇、〇〇一 銀 〇、〇〇一

立神鑛及北立神鑛 ハ同一脈ノ分岐セルモノナルカ如ク北立神鑛ノ東方ニアリ、共ニ第二坑道ヨリ四五百尺ノ上部ニ其露頭アリ、現時ハ主ニ北立神鑛ヲ稼行ス、立神坑口ニ近ク北立神鑛ハ北二十度東ニ走り北スルニ從ヒ遂ニ南北ニ轉位シ東方ニ急斜ス、立神鑛ハ北二十度西ニ走レリ、隨テ鑛口ヨリ掘進シテ兩鑛ノ距離次第ニ大ナリ

北立神鑛ハ立神坑ヨリ北方ニ向ヒ三百餘尺、下方ニ百五十尺掘下セラレ、其以北ニハ未タ探鑛セラレス、座下ハ幅一尺五寸内外ノ粘土ヲ伴ヘル石英ニシテ石英ハ概ノ解弛粗鬆質トナリ、南部ニハ黒色ノ粘土ニ石英脈ヲ通ス、幅ハ二三寸ヨリ二三尺ノ間ニアリ、鑛石ハ粘土及石英ニシテ石英ハ一部解弛シテ柔軟トナレリ、粘土ハ旅順鑛ト同シク鑛染霉爛セラレタルモノ多ク、細微ノ石英脈ヲ通シ共ニ粘土様トナリ、時ニハ石

英脈ヲ通シ又ハ母岩及石英ノ團塊ヲ含有スルコトアリ、特ニ最下底ノ南部ニハ黒褐色ヲ呈スル團塊ヲ含有ス、立神鑛ハ立神坑口ヨリ二百餘尺掘進セリ、鑛脈ハ北二十度西ニ走り東七十度ニ傾斜セル白色ノ解弛セル石英脈ニシテ幅二三寸ヨリ一尺餘ニ膨大ス、現今ノ引立ハ鑛幅薄シ、立神横坑ハ立神坑ヨリ七八十尺ノ下方ニアリ、此坑道ニハ立神鑛ハ北十度乃至二十度西ニ走り東方ニ急斜ス、幅厚カラサルモ北方ノ引立ハ褐色ノ粘土ニシテ幅一尺アリ、南方ノ引立ハ二條ニ分岐シ粘土ニ石英ヲ混ス、採取ノ鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金 銀

石英褐色粘土 〇、〇〇二 〇、〇〇一
粘土及石英(白色) 〇、〇〇一 〇、〇〇五

日之出鑛 ハ區域ノ南東ニ露出シ五條アリ幅概シテ薄シ現時二個ノ坑口ヨリ一條ノ鑛脈ヲ探掘ス、上部坑道ハ本山ニ於ケル最高坑道ニシテ第二坑道ヨリ六百餘尺ノ高サニアリ、稼行日淺ク一ハ坑口ヨリ二百

餘尺、一ハ百餘尺掘進シ下底ニ二三十尺ヲ掘下セシニ過キス、而シテ兩坑道ノ距離ハ二三十尺ナリトス、鑛脈ハ北二十度西ニ走リ西方ニ急斜ス、幅ハ厚キトコロ一尺五寸ナルモ直チニ縮迫シ其延長亦大ナラス、鑛石ハ白色柔數ニシテ石英及粘土ヨリ成ル、採取ノ鑛石ヲ分析セルニ百分中金〇、〇〇一五、銀〇、〇〇〇三ヲ含有セリ

本山ハ操業後十數年ヲ經過セシニ過キス、シテ其探掘セル鑛量甚タ多カラス、且ツ今日マテ稼行シタル所ハ主ニ上部ニ止マリ鑛脈ノ探求未タ盡サハルモノ多シ、而シテ下部ハ角礫岩ナルヲ以テ本鑛并ニ日影金山ノ鑛床ニ對照シ或ハ上部ニ比シ鑛脈ノ胚胎ニ適スルナキヤヲ疑ハシム、鑛石ノ品位ハ本鑛最モ優リ其他ノ鑛脈ハ稍之ニ劣ルノ觀アルモ下方ニ於テ如何ニ變スヘキヤ未タ知ルヘカラスシテ、本鑛ノ探掘ト共ニ各鑛鑛ノ探求ヲ忽カセニスヘカラス、而シテ第二坑道ノ墜入ナル希望坑ハ實ニ本山ニ於ケル各鑛脈ヲ切斷スヘキヲ以テ其掘進ノ如何ニヨリ本山ノ運命ヲトスルヲ得ヘシ

本山ノ鑛石并ニ鑛尾ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

並鑛石	〇、〇〇一六	〇、〇〇一六
	〇、〇〇二〇	〇、〇〇一六

青化後ノ鑛尾 ナ シ ナ シ

鑛區ノ北方ニ接スル砥石迫ニ露出セル鑛脈ハ凝灰質頁岩中ニ胚胎シ北二十度乃至四十度西ニ走リ西方六十五度ニ傾斜ス、幅概シテ薄キモ一尺餘ニ肥大スルコトアリ、現引立ニハ鑛脈ハ幅二寸乃至五寸ノ灰白又ハ褐色ノ粘土并ニ石英ヨリ成ル、現今自稼ニ委シ一日約六百四十斤ノ鑛石ヲ採掘スト云フ

(二) 日影金山

日影金山ハ大谷金山ノ西ニ隣リ十一二年前ノ開坑ニ係レリ製鍊所ハ赤崎ニアリテ港川ニ沿ヒ探鑛所ヨリ二里、郡役所々在地ナル宮ヶ濱ノ西數町ノ地ニ位ス、探鑛所ヨリ製鍊所ニ至ル道路ハ良好ナル縣道ニシ

テ運賃比較的低廉ニ百斤ニ就キ五錢ナリト云フ、本山一日ノ採鑛量ハ五六千斤ヲ超エス、製鍊ハ混汞及青化法ニヨリ一ヶ月金二百五十匁乃至四百匁、銀百五十匁乃至三百匁ヲ製出ス、而シテ每一日混汞ニ使用スル鑛石量ハ約三千二百斤ニシテ少キトキハ混汞二十六匁、多キトキハ同四十五匁、平均三十一匁内外ヲ得ヘク、其三四割ヲ青金トス、明治三十九年十二月ニハ毎日約三千二百斤ノ鑛石ヲ製鍊シテ八百四十六匁八分ノ混汞ヨリ三百四匁五分ノ青金ヲ得、青化法ニヨリ三百十七匁ノ青金ヲ抽出シ、金三百九十二匁餘、銀百七十三匁餘ヲ産セリ、最近五年間ニ於ケル産額左ノ如シ

	金	銀	製煉元鑛高
明治三十六年	一三〇 ^匁	六五 ^匁	六五、〇〇〇 ^斤
同 三十七年	一〇八	七八	一八、六〇〇
同 三十八年	三〇	二〇	五、〇〇〇
同 三十九年	二、三一七	二、四一七	二一、四一〇

同 四十年 八、二八九 九、六九一 一、四三二、八八九

鑛床ハ其數多キモ現ニ稼行セルモノハ一條ナリ、坑口ニアリ、一ハ菖蒲鳥舖、一ハ三番舖ト稱シ高距ノ差約百五十尺ナリ
 菖蒲鳥舖ニ於テ稼行セル鑛床ハ角疊岩中ニ胚胎シ北二十度乃至四十五度東ニ走リ北西七十五度ニ急斜若クハ直立ス
 鑛床ハ母岩ノ粘土様トナレルモノ若クハ石英脈ナリトス、母岩ノ粘土様トナレルハ鑛染セラレテ霉爛柔軟トナレル者ニシテ内ニ數多ノ細微ナル石英脈網狀ヲナシ又時ニ石英脈ヲ通ス、此部分ハ時ニ稍堅キモノアルモ採掘スレハ概シテ所謂粘土鑛石若クハ砂鑛トナリ普通帶褐色ヲ呈シ往々石英又ハ母岩ノ團塊ヲ含有ス、幅ハ數寸ヨリ四五尺ニ達スルモ平均一二尺トス、時ニ鑛床ハ二條ニ分岐シ中部ニ六七尺ノ母岩ヲ夾ミ狭小トナリ若クハ斷絶スルコトアルモ、再ヒ膨大シテ中部ノ母岩ハ全ク鑛石トナリ最大ノ通幅ヲ有スルニ至ルコトアリ、此最厚部ハ傾斜ニ卅尺乃至五十尺、走向ニ三四十尺連續スト云フ、現時稼行ノ區域ハ最

大延長即チ走向ニ三百五十尺、下部即チ傾斜ニ二百五十尺ナリトス
 鑛床ハ下部ニ進ムニ從ヒ大谷金山ノ本鑛ト同シク銅ヲ含有スルノ量
 次第ニ多ク、黃鐵鑛、黃銅鑛、方鉛鑛、閃亞鉛鑛等ヲ隨伴ス、此等鑛物ハ脈狀
 ヲナシ又ハ母岩ニ鑛物ヲ鑛染シ、其量増加シテ縞狀ヲナシ其方鉛鑛ヲ
 含有スルコト多キモノハ多少同心構造ヲナシ、又母岩ノ碎片ヲ含有シ
 テ角蠻岩狀ヲナスモノアリ

葛蒲烏舖水準ヨリ下部約二百尺ニアル坑道ハ現時ノ最低坑道ニシテ
 延長三百尺ヲ超ユ、本坑道ノ北部百尺内外ハ鑛脈ノ幅廣ク三四尺ニ達
 シ品位亦良好ナリ、其北端ノ下方約五十尺ニアル座下ニハ幅一尺五寸
 アリテ帶褐色ノ霏爛鑛染セル母岩ヨリ成リ少量ノ銅ヲ含有ス、之ヲ分
 析セルニ百分中金〇、〇〇二九、銀百分中〇、〇〇二四、銅〇、三二三ヲ含有
 セリ、最低坑道ノ中部ヨリ掘下セルコト約三十五尺、其座下ハ一尺二寸
 ナルモ南方ニ向ヒ縮迫ス、鑛石ハ白色、石英ト粘土並ニ母岩ト相半ハセ
 リ、之ヲ分析セルニ百分中金〇、〇〇二二、銀〇、〇〇六一ヲ含有セリ最低

坑道南部ニハ鑛脈ハ一タヒ縮迫スルモ現時ノ引立ハ一二尺ニ膨大セ
 ル白色堅硬ノ石英脈ナリ、之ヲ分析セルニ百分中金〇、〇〇五、銀〇、〇
 〇四六ヲ含有セリ、最低坑道ト葛蒲烏舖坑道トノ中間坑道南方ノ引立ニ
 ハ鑛石ハ赤褐色ニシテ母岩ノ霏爛柔軟トナレル者ニ石英脈ヲ通シ、中
 部ニハ鑛石ハ褐色ニシテ石英少ナシ、之ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ
 (百分中)

南 部	〇、〇〇五八	銀	〇、〇〇二二
中 部	〇、〇〇三四	銀	〇、〇〇〇六

現時下部及中部ニ於テ鑛石ヲ採掘ス、而シテ下部ヨリ採掘シタル鑛石
 ニハ方鉛鑛、閃亞鉛鑛ト石英ト縞狀ヲナセルモノアリ、或ハ黃銅鑛ヲ鑛
 染セルモノアリ、或ハ霏爛柔軟トナレル粘土様母岩ニ薄キ石英脈ヲ通
 セルモノアリ、此等ノ鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

粘土様鑛石	〇、〇〇二〇	金	〇、〇〇〇五	銅	鉛
-------	--------	---	--------	---	---

帶綠色表面ニ褐色粘土附着ス

粘土様鑛石 方鉛鑛等ヲ混ス 〇、〇〇三四 〇、〇〇四四 〇、四六九 二、七七六

鑛 砂 少量ノ石英ヲ混ス 〇、〇〇一一 〇、〇〇二三 一、二六 二、二六

鑛 石 鉛鑛ヲ含有ス 〇、〇〇五七 〇、〇一四〇 三〇、三七

三番舖 ハ東ニ開坑ス、坑口ヨリ西方ニ掘進スルコト約五十尺ニシテ
一條ノ鑛脈ニ會セリ、幅二三寸ノ石英脈ニシテ北二十度乃至四十五度
西ニ走リ北東六十五度ニ急斜セリ、之ヲ北西ニ追跡セルニ幅薄ク探掘
ニ堪ヘサリシモ二百餘尺ニシテ更ニ一條ノ鑛脈ニ會セリ、即チ菖蒲鳥
舖ニ稼行セル鑛鑛ノ連續ト思惟スヘキモノニシテ其北方ノ上部ニ該
當セルモノ、如ク北二十度東ニ走リ東七十度ニ急斜セリ、鑛石ハ主ニ
白色ノ石英ニシテ粘土ヲ混シ少量ノ方鉛鑛、閃亞鉛鑛等ヲ含有シ、若ク
ハ母岩ノ靈爛シテ柔軟ニ變化セルモノニ石英ヲ介在ス、幅ハ五寸ヨリ
三尺ニ膨大スルモ普通ハ一二尺トス
三番舖ニ於ケル鑛鑛ハ菖蒲鳥舖ニ於ケル鑛鑛ト傾斜ニ於テ相異ナレ
リ、蓋シ鑛ノ上部ハ東方ニ、下部ハ西方ニ急斜セルナラン、而シテ大谷金

山ニ於ケルカ如ク上部ハ凝灰質頁岩ニシテ鑛幅概シテ薄ク、方鉛鑛、黃
銅鑛等ヲ含有スルノ量少ク、下部ハ角礫岩ニシテ鑛幅上部ニ比シテ厚
シ、山頂ニ見ル露頭ハ幅數尺アリテ凝灰質頁岩ニ胚胎シ略南北ニ一條
ノ溝渠トナリテ存在ス、而シテ三番舖ハ凝灰質頁岩ノ角礫岩ニ漸移ス
ル附近ニアリ、三番舖ニ於ケル鑛石ヲ分析セルニ百分中金〇、〇〇四〇
銀〇、〇〇八四ヲ含有セリ
赤崎製鍊所ニ於ケル混汞並ニ青化後ノ鑛尾ヲ分析セルニ其結果左ノ
如シ(百分中)

金 銀

混汞後 〇、〇〇一六 〇、〇〇〇九

青化後 ナシ ナシ

菖蒲鳥舖ノ西ニ管テ盛ニ稼行セラレタル二三條ノ鑛脈アリ、鑛石ハ良
好ナリシモ鑛幅ハ皆狭小ナリシト云フ

(三) 立神金山

立神金山ハ日影金山ノ南ニ隣接シ、明治三十一年頃ノ開坑ニ係リ、同三十四五年ノ交稍盛ニ探掘シ一ヶ月四貫内外ノ青金ヲ産セルコトアリ、現時ハ一日二三千斤ノ鑛石ヲ探掘シ十匁内外ノ青金ヲ製出スト云フ、製鍊所ハ池田湖畔ニアリテ中濱ノ南西ニ接シ嘗テ石炭ヲ燃料トシテ製鍊ニ從事セルモ其高價ナル爲メ現時ハ穎娃村ニ流下セル集川ノ上流ニ水車ヲ設ケ混汞法ニヨリテ收金ス、此地ハ探鑛所ヨリ西方十四五町ニアリテ運賃ハ鑛石百斤ニツキ四錢二厘ナリト云フ

鑛脈ハ凝灰質頁岩中ニ胚胎シ其數多キモ主脈ト稱スヘキモノハ事務所ノ少シク東方ニ露出シ北二十度乃至三十度東ニ走リ東方七十度ニ急斜セル二條ノ鑛鑛ナリトス、東ニアルモノ良好ニシテ幅厚キトキハ五六尺ニ及フモ平均一尺五寸内外ナリ、西ニアルモノハ鑛幅七寸乃至一尺二寸ヲ普通トシ北方ニハ數條ニ分岐ス、此二脈ハ四個所ヨリ稼行セラレ、上部百餘間、延長百二十三尺ノ間ハ殆ント探鑛シ盡サレタリ、其最下底ハ尙一尺五寸ノ鑛幅ヲ有スルモ操業困難ナル爲メ探掘ヲ中止

シ現時街道ノ下方ヨリ豎入掘進中ナリ、其鑛脈ニ達スルノ時ハ本山ノ運命ヲ決スルノ時タルヘシ、而シテ鑛脈ノ探掘跡ハ溝渠トナリテ存シ北方ヨリ之ヲ望ムヲ得タリ、現時北方ノ露頭附近ニ於テ殘存セル少量ノ鑛石ヲ探掘ス

事務所ノ南方ニモ亦鑛鑛アリ、其探掘跡ハ現ニ溝渠トナリテ存在ス、鑛ハ二條ニシテ共ニ薄ク走向傾斜ハ前者ニ同シ、其同鑛脈ニ屬スルモノナルヤ否ヤ未タ明ナラス

現時稼行セルハ鑛區ノ南方ニ接シ北七十度西ニ走リ北六十五度乃至八十度ニ傾斜セル薄脈ニシテ幅二寸内外ナルモ時ニ肉眼ヲ以テ識別シ得ヘキ自然金ヲ含有ス、鑛石ハ霉爛柔軟トナレル母岩粘土若クハ石英脈ニシテ白色乃至灰白色ナルモ時ニ褐色乃至赤褐色ヲ呈ス、本脈ニ並行シテ北方ニ一脈アリ、少量ノ鑛石ヲ探掘ス、本山ノ鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

褐色粘土	〇、〇〇三四	金
灰白色粘土	〇、〇七一	〇、〇〇一二
石	痕	〇、〇四七二
英	痕	〇、〇〇二〇
混汞後ノ鑛尾	痕	ナ
	跡	シ

(四) 小金金山

小金金山ハ日影金山ト立神金山トノ間ニ介在シ八九年前ノ開坑ニ係
 レリ、其事務所ハ殆ント山頂ニ近ク製鍊所ハ立神金山ト同シク集川ニ
 沿ヒ兩所ノ距離約十二町ナリ、運搬ハ馬脊ニ據リ貨錢百斤ニツキ四錢
 ナリト云ヒ一日三千斤ノ鑛石ヨリ八匁ノ青金ヲ製出ス
 本山ニ於テ主脈ト稱スヘキハ事務所附近ニアル一條ノ鑛脈ナリ、其走
 向ハ北三十度乃至四十五度東ニシテ南東ニ急斜シ、幅最モ厚キトキハ
 二三尺ニ達スルコトアルモ二十尺内外ニシテ縮迫ス、現時ハ引立、座下
 共ニ幅一二寸ニ過キス、六七年前本山ノ盛ナリシトキハ、肉眼ニテ識別

シ得ル自然金ヲ産シ一日能ク三百六十匁ノ青金ヲ産出セルコトアリ
 ト云フ、主脈ヲ東二三尺ヲ隔テ、一條ノ薄脈アリ、又東方山麓ニ近ク
 一條ノ薄脈アリテ此附近ヨリ日影金山葛蒲島鑛ノ鑛先ヲ探求セント
 ス、共ニ多ク稼行セス、鑛石ハ石英及灰色ノ粘土ニシテ母岩ハ霏爛シ粘
 土狀ヲナシ時ニ自然金ヲ散在ス(百分中)

嘗テ探掘セル最上鑛	〇、二〇九六	金
混汞後ノ鑛尾	ナ	〇、〇九九八
	シ	ナ
		シ

(五) 河内山金山

河内山金山ハ大谷金山ノ北東ニ隣接シ明治三十二年ノ交開坑セラレ、
 同三十五六年頃ニハ一日三四十匁ノ青金ヲ製出シ稍盛況ヲ呈セシモ
 現今ハ一日三四千斤ノ鑛石ヨリ混汞法ニヨリ五匁ノ青金ト、一ヶ月ニ
 青化法ニヨリ四十匁ノ青金ヲ得ルト云フ、製鍊所ハ池田湖畔ニアリテ
 中濱ノ北東ニ接シ探鑛所ヨリ約二十五町ヲ隔テ馬脊ニヨリ鑛石ヲ此

所ニ運送ス、其運賃ハ鑛石百斤ニ就キ五錢五厘ナリト云フ、但シ上鑛ハ採鑛所ニテ金ヲ淘汰シテ後製鍊所ニ送致ス
 本山ノ鑛區ハ殆ント火山灰ニ被覆セラレ、丘陵地ニシテ坑口ニアリ、一ハ舊坑ト稱シ事務所ニ近ク殆ント鑛區ノ中央ニ位ス、一ハ新坑ト稱シ舊坑ノ北ニアリテ池田金山ニ接ス、鑛床ハ主ニ凝灰頁岩ニ胚胎セル粘土及石英脈ニシテ幅概シテ薄シ
 舊坑ニ於テ稼行スル三條ノ鑛脈ハ殆ント相並走ス最東ニアル一號鑛ハ北二十度東ニ走リ西方ニ急斜セル薄脈ニシテ白色乃至褐色ノ粘土ヨリ成レリ、一號鑛ノ西約二十尺ヲ隔ツル二號鑛ハ北二十度乃至四十五度東ニ走リ北西ニ急斜ス、幅ハ一號鑛ニ比シテ稍厚ク五寸乃至一尺ニ達スルコト少カラス、現時南方ニ向ヒ採掘ス、鑛石ハ白色ノ粘土ナルモ赤色ノモノヲ雜ヘ又白色ノ石英ヲ混ス、三號鑛ハ二號鑛ノ西約十尺ニアリテ幅一尺内外ナルモ三尺ニ達スルコトアリト云フ、鑛石ハ白色ノ粘土ニシテ石英ヲ雜ヘ下部七八十尺ニ至ルマテ良好ナル部分ハ已

ニ採掘シ盡サレタリ、目下滯水ノ爲メ下部ヲ檢スルヲ得ス
 新坑ニ於テハ一號鑛ヨリ五號鑛ニ至ル五脈ヲ稼行ス、其舊坑ニ於ケル三條ノ鑛脈トノ關係ハ明ナラス、一號鑛ハ最東ニアリテ西ニ順次五號ヲ數フ、鑛脈ハ概言スレハ殆ント並走シ北十度乃至三十度東ニ走リ西方ニ急斜ス、現時稼行スル所ハ皆五寸以下ノ細脈ニシテ粘土ヨリ成ル、而シテ二號鑛、三號鑛、四號鑛ハ皆テ稍盛ニ採掘セラレ肉眼ニテ識別スヘキ自然金ヲ散布シ、幅二三尺ニ達セルコトアリシモ平均八寸以下ナリトス、一號鑛及五號鑛ハ前者ニ比シテ薄ク一尺ニ達スルコト稀ニシテ二三寸ナルモノ多ク、又一二寸ノ數條ニ分岐ス、概メ北方ニハ鑛脈薄條トナルノ傾向アリ、而シテ母岩ハ稍柔軟トナリ裂罅ニ薄キ粘土若クハ細脈ヲ通スルモノアリ、鑛石ハ白色若クハ褐色ノ粘土ニシテ石英ヲ通スルコトアリ(百分中)

鑛石

〇、〇〇〇五

金

〇、〇〇四三

銀

混汞後ノ鑛尾
青化後ノ鑛尾

痕跡
痕跡

現在セス
現存セス

(六) 池田金山

池田金山ハ河内山金山ノ北ニ隣接シ十年前ノ發見ニ係リ明治三十五年大規模ノ設計ニヨリ本山ヲ經營セントシ、池田湖畔ニ製鍊所ヲ設置シ鑛區ノ南東ヨリ大通洞ヲ掘鑿セリ、或ハ豫期ニ反シ良好ナル鑛脈ニ會セスト云ヒ、或ハ未タ鑛脈ニ達スルニ至ラスシテ中止セリト云フ、目下坑内ヲ檢スルコト能ハサルヲ以テ其何レノ正ナルヤヲ知ラスト雖モ所要ノ鑛石ヲ産セスシテ事業ハ全ク失敗ニ歸シ明治三十七八年ノ交途ニ休山セリ、同三十八年九月頃再開セラレ、現時ハ一日七八百斤ノ鑛石ヨリ百五十匁乃至四百匁ノ青金ヲ收取スト云フ
鑛脈ハ其數甚タ多ク概シテ南北ニ近キ走向ヲ有ス、松下通ハ粒狀安山岩中ニ胚胎セル石英脈ニシテ露頭ニ於テハ幅一尺内外アリテ此所ニ探鑛セル跡アリ、嘗テ稍盛ニ稼行シタルハ坑區ノ南西ニ接セル六號通

及七號通ナリトス、七號通ハ北二十度西ニ走リ殆ント直立シ幅二三寸ヨリ一尺ニ達シ嘗テ良好ナル部分ヲ探掘シタリ、鑛石ハ白色ノ石英ニシテ縞狀ヲナシ解弛セル部分多シ、其東ニ當リ之ト並走セル六號通ハ堅硬ナル石英ニシテ粘土ヲ雜ヘ幅六尺ニ達スルコトアルモ三尺内外ヲ普通トシ時ニハ薄脈ニ縮迫ス、鑛石ノ品位ハ共ニ貧劣ナリト云フ、母岩ハ綠色岩ニシテ凝灰岩ニ屬スルモノ、如シ、現時稼行セル所ハ新坑ト稱シ事務所ノ東ニアリ、鑛通ハ二條ノ薄脈ニシテ粘土ヨリ成リ母岩ヲ雜ヘ、北二十度東ニ走レリ、母岩ハ綠色凝灰岩ニシテ薄キ凝灰質砂岩及頁岩ヲ夾有ス、採取セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金

銀

新坑砂鑛	褐色粘土石英	〇、〇一〇七	〇、〇〇三九
六號通	白色石英	〇、〇〇〇七	〇、〇〇七七
青化後ノ鑛尾		〇、〇〇〇二	ナ
混汞後ノ鑛尾		〇、〇〇〇三	〇、〇〇〇四

(七) 鬼門金山

鬼門金山ハ河内山金山ノ北東ニ隣接シ、八九年前ノ開坑ニ係リ現今一日八千斤内外ノ鑛石ヲ探掘スルモ品位劣等ナリト云フ、製鍊所ハ喜入村ニ流下スル田貫川ノ中流ニアリテ茲ニ水力ヲ利用シテ混汞及青化製鍊ヲ施行ス、一日混汞法ニテ八匁、青化法ニテ十匁ノ青金ヲ製出スト云フ、其採鑛所トノ距離ハ一里十町未滿ニシテ運搬ハ馬脊ニヨリ兩所間ノ運賃鑛石百斤ニ付六錢ナリト云フ

鑛脈ハ安山岩中ニ胚胎シ其數甚タ多ク三尺以上ニ達スルモノヲ算スルモ尙十八條アリト云ヒ、何レモ含金品位劣等ニシテ稼行ニ堪フルモノ少ク、隨テ所々ニ探鑛ノ跡甚タ多シ、現時稼行セルハ鑛區ノ西ニ偏スル市太郎坑及野口坑ニシテ南北乃至北二十度東ニ走リ西方七十度ニ傾斜ス、幅概シテ二三尺ニシテ石英ヨリ成リ白色乃至褐色又ハ黑色ノ粘土ヲ雜ヘ、東隣仁田平金山ニ接シ同山ニテ稼行セル鑛脈ヲ探掘セント欲シ堅入ヲ掘進セルニ最厚四五寸ニ滿タサル薄脈ニ會シ之ヲ稼行

ス、該鑛脈ハ北西乃至西北西七十度ニ傾斜シ白色ノ石英ヨリ成レリ、本山ノ鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

	金	銀
市太郎坑 黒粘土附着石英	〇、〇〇四	〇、〇〇八
市太郎坑 白色石英	〇、〇〇三	〇、〇〇八
市太郎坑 赤粘土附着石英	〇、〇〇七	〇、〇〇三
新坑 石 英	〇、〇〇九	〇、〇二〇
混汞後ノ鑛 尾	ナ	ナ
青化後ノ鑛 尾	痕	ナ

(八) 仁田平金山

仁田平金山ハ鬼門金山ノ東ニ隣リ鬼門平ノ東側ヲ占メ、明治三十六年ノ開坑ニ係リ翌三十七年ヨリ稍盛ニ稼行セラレ、現時一日二萬五千斤ノ鑛石ヲ探掘ス、製鍊所ハ鬼門金山ト同シク田貫川ノ中流ニアリテ探鑛所ヨリ二十五六町ヲ隔ツ、運搬ハ馬脊ニ據リ賃錢鑛石百斤ニツキ六

錢ナリト云フ、製鍊所ニ於テハ每一日一萬三四千斤ノ鑛石ヲ製鍊ニ供
 シ一ヶ月金二貫二百匁、銀四貫八百匁内外ヲ收得スト云フ、最近四年間
 ノ産額ヲ舉クレハ左ノ如シ

年 別	金	銀	製鍊元鑛高
明治三十八年		六四八 _々	七二、三〇〇 _円
同 三十九年	一七、七二六 _々	四六、四七六	六九一、二〇〇
同 四十年	一二、三五二	三七、七八八	四七五、八〇〇
同 四十一年	一、〇四九	二三、七三〇	二七二、三〇〇

三條ノ鑛脈ハ鑛區ノ西部ニ偏在シ概シテ北二十度乃至四十度東ニ走
 リ西方ニ急斜ス、中央ニアルモノハ主脈ニシテ本道鑛ト稱シ、幅三尺ア
 リテ西北西六七十度ニ傾斜スルモ時ニハ五十度内外ナルコトアリ、引
 立及下部ニハ直立ニ近シ、一般ニ傾斜緩ナルトキハ鑛脈ノ品位良好ニ
 シテ幅亦厚シト云フ
 坑口ヨリ三十八尺下ノ第一本道坑ニ於テハ走向ニ沿ヒ約四百五十尺

採掘セラレ、北方ノ引立ハ幅一尺、南方ノ引立ハ目下縮迫ス、鑛石ハ白色
 ノ石英ニ粘土及母岩ヲ混スルモノニシテ一部分母岩ノ鑛染セラレタ
 ル所アリ、幅ハ厚キトキハ中石ヲ挟ミ厚サ五尺ニ達ス、第二本道坑ハ第
 一本道坑ノ下六十尺ニアリ、其下方二十尺ノ所ハ現今ノ座下ニシテ白
 色ノ石英脈アリ、母岩ハ破碎セラレ且ツ少シク鑛染セラル、而シテ上部
 百尺ノ間ハ採鑛セラレタリト雖モ走向ニハ未タ探鑛セラレヌ
 東方即チ下部ニ當リテ六十度内外ニ傾斜セル一號鑛アリ、本道鑛トノ
 距離約十五尺ナルモ南方及下部ニハ相接近ス、幅ハ本道鑛ニ同シ、第一
 本道坑ノ下方ニ五十尺探鑛セラレタリ、鑛石ハ兩鑛共ニ白色ノ石英ニ
 シテ隨所黒色ニ變シ鐵鑛ヲ散點シ褐色乃至白色又帶黃色ノ粘土ヲ混
 ス、而シテ石英ハ解弛シテ柔軟ナル粘土狀トナリ、又鑛脈ニ接スル岩石
 ノ一部ハ鑛染セラレテ柔軟ナル粘土ニ化セル所アリ、本道鑛ノ西方即
 チ上部ニ位スル鑛脈ハ主ニ石英ヨリ成リ粘土及母岩ヲ混シ、幅三尺内
 外ナルモ未タ稼行セス

本山ハ操業日尙淺ク採掘セル鑛量未タ多カラス、而シテ鑛石ノ品位良好ニシテ鑛脈ノ幅亦厚ク現時ノ設備ニ於テハ鑛石ノ缺乏ヲ告クルコトナカルヘク此地方ニ於テ最モ收益多キ鑛山タリ、若シ夫レ設備ヲ大ニセントセハ更ニ充分ニ坑内ノ探鑛ヲ施行セサルヘカラス、現時主ニ第一、第二本道坑間ヲ採掘ス、採取セル鑛石ノ分析結果左ノ如シ(百分中)

本道坑上部	石英(表面解弛ス)上鑛	〇、〇一七二	〇、一四九六
第一本道坑上部	白色石英(表面ニ粘土ヲ被ル)	〇、〇二七三	〇、三七九六
第一本道坑上部	砂鑛	〇、〇〇〇六	〇、〇〇六七
第一本道坑北引立	粘土(母岩ノ鑛染セル部分大部ヲ占ム)	〇、〇〇四五	〇、〇一〇四
一號坑南上鑛	石英(粗鑛ニシテ空隙ニ富ム)	〇、〇〇九二	〇、〇〇五四
砂鑛	粘土質(石英ヲ混ス)上鑛	〇、〇三六〇	〇、一一三六
混汞後		〇、〇四三五	〇、一二〇三
		〇、〇〇〇九	〇、〇〇一二

金 銀

青化後

(九) 廢山

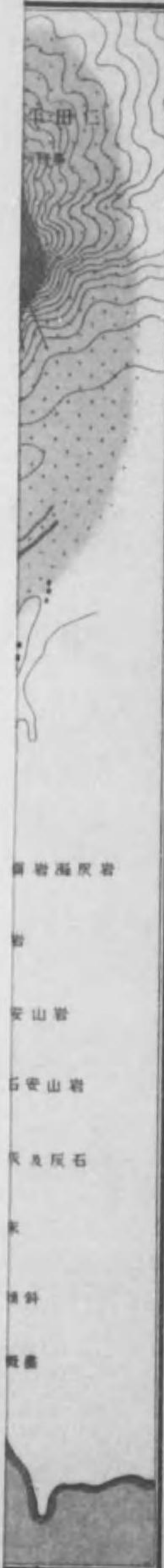
痕跡

〇、〇〇〇八

以上ノ鑛山ニ隣接シ數多ノ廢山アリ、嘗テ多少稼行セラレタリ、實ニ此地方ヨリ北方畠久保谷塲ニ至ルマテハ殆ント鑛區相接シ又飯山ノ北方ニモ嘗テ稼行セラレシ跡アリ
 烏帽子金山ハ立神金山ノ南西ニ隣接ス、現今休業中ナルヲ以テ鑛床ノ状態明ナラサレトモ烏帽子嶽ノ西中腹山神ヲ奉祠セル所ニ北二十度乃至三十度西ニ走り東方ニ急斜セル幅一尺二三寸ノ白色ノ石英脈アリ、之ト殆ント並行シテ西方五六間ニ薄條ノ鑛脈アリ、石英脈ハ縞狀ヲナシ粘土ヲ雜フ、露頭附近ニ採掘跡アリ、其他ノ坑口ハ明ナラス、採取ノ鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

石英脈	〇、〇〇二一	〇、〇〇〇七
粘土石英	〇、〇〇七〇	〇、〇〇二一

金 銀

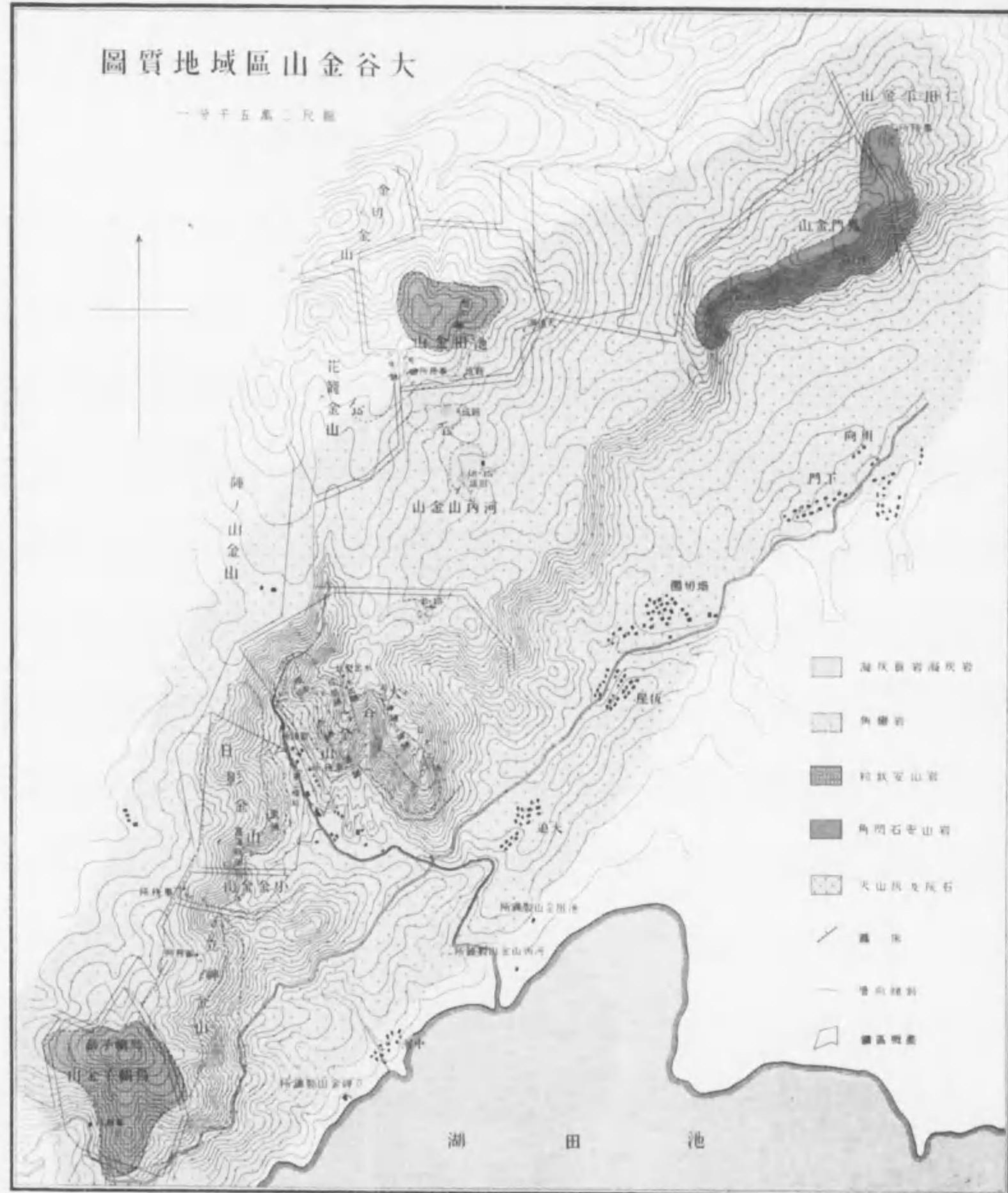


花籠金山 ハ池田、河内山兩金山ノ西ニ隣接セリ、鑛脈二條アリテ第三紀ノ凝灰岩、凝灰質頁岩及角礫岩中ニ胚胎ス、走向ハ殆ント南北ニ近ク一ハ東六十五度ニ傾斜セル二尺乃至二尺五寸ノ石英脈ナリ、五六年前ニ稼行セラレタリト云フ、其北ニ金切鑛山、南西ニ陳ノ山鑛山アリ、又島久保ノ西方ニ當リ谷場ニ通スル道路ニ近ク四個所ニ稼行ノ跡アリテ鑛脈ハ北二十度西ニ走レルカ如シ、飯山ノ北方ニハ二個所ニ八九年前稼行セラレ北七十度東ニ走レル溝渠存在ス、共ニ鑛床賦存ノ状態ヲ明ニセス

生見銀山 ハ本區域ノ最北ニアリテ銀ヲ主産ス、本山ハ鹿兒島灣沿岸田貫ノ西二十五六町ニ位シ、明治二十六年ノ開坑ニ係リ直ニ大盛ヲ致シ、同三十年前後最モ盛大ニシテ當時鹿兒島縣ニ於ケル銀ノ大部ハ本山ノ産出ニ係レリ、左ニ本山ニ於ケル産出高ヲ掲ケン

年別
明治二十七年 一四一、三八七
不明

製鍊元鑛高



第二版

紀ノ凝灰岩、凝灰質頁岩及角礫岩等ニ賦存シテ走向ノ南北ニ近ク
 一、東六十五度ニ傾斜セル二尺乃至二尺五寸ノ石英脈ナリ、五六年前
 ニ稼行セラレタリト云フ、其北ニ金切鑛山、南西ニ陳ノ山鑛山アリ、又島
 久保ノ西方ニ當リ谷場ニ通スル道路ニ近ク四個所ニ稼行ノ跡アリテ
 鑛脈ハ北二十度西ニ走レルカ如シ、飯山ノ北方ニハ二個所ニ八九年前
 稼行セラレ北七十度東ニ走レル溝渠存在ス、共ニ鑛床賦存ノ状態ヲ明
 ニセス

生見銀山 ハ本區域ノ最北ニアリテ銀ヲ主産ス、本山ハ鹿兒島灣沿岸
 田貫ノ西二十五六町ニ位シ、明治二十六七年ノ開坑ニ係リ直ニ大盛ヲ
 致シ、同三十年前後最モ盛大ニシテ當時鹿兒島縣ニ於ケル銀ノ大部ハ
 本山ノ産出ニ係リ、左ニ本山ニ於ケル産出高ヲ掲ケン

年 別	銀
明治二十七年	一四一、三八七匁
不明	製鍊元鑛高

変米十毎種距高

解若クハ變質シテ帶綠色又ハ白色ニ變シ、時ニ細脈ヲ通シ或ハ鑛染セラレ鑛床ノ一部ヲナスコトアリ、下部ハ出水甚シク爲ニ廢山スルニ至レリト云フ

二 辨財天銀山區域

池田湖ノ南西ニ當レル本區域ハ斷崖ヲ以テ東方及北方ニ臨ミ南方ハ漸斜ヲ以テ脇浦ノ海岸ニ沈ミ、西ハ波浪狀ヲナシ矢筈嶽ニ連レル臺地ナリ、本區域ノ中部及北部ハ稍高ク、北方ト及中部ニ鑛床ヲ胚胎セル所ハ僅ニ孤立セル山頂ヲ有シ自ラ特種ノ地形ヲ呈セリ

東部及北部ノ斷崖ヲナセル所ハ即チ鑛床ノ露出セル所ニシテ西方ノ波浪狀ヲナセル所ハ火山灰ニ被覆セラレタル所タリ、地質ハ第三紀層、石英粗面岩、輝石安山岩及火山灰ナリトス、第三紀層及石英粗面岩ハ鑛床ヲ胚胎セル母岩ニシテ輝石安山岩及火山灰中ニハ未タ鑛床ヲ發見セス、第三紀層ハ其分布廣ク南北ニ連リテ基盤ヲ構成シ岩石ハ凝灰岩、凝灰頁岩、凝灰砂岩及角蠻岩ヲ主トス、凝灰岩ニハ種々アルモ帶綠色ナ

ルヲ普通トス、辨財天銀山ノ西方溪谷ニ沿ヒ山腹ニ厚ク露出シ建築石材トシテ採取セラル、綠色ノ凝灰岩ハ一部角蠻岩狀ヲナシ質柔軟ナリ、凝灰質砂岩ハ穎娃ニ通スル街道ニ露出シ淡綠色ニシテ甚タ強固ナラス、南方ニハ岩石多ク褐色ヲ呈シ穎娃銀山事務所附近ヨリ北方ニ斷崖ヲナセルモノハ變質シテ堅硬トナリ又硅質トナリ淡灰色乃至淡褐色ヲ呈スルモノアリ、凝灰質頁岩ハ南部ニ於テ之ヲ見ルモ薄層ナリ、凝灰質砂岩ト同シク變質シテ堅緻且ツ硅質トナリ褐色ヲ呈シ前者ト共ニ全ク石英粗面岩ト區別スルニ難シ

此等ノ岩石ハ殆ント水平ニ成層シ若クハ緩斜ヲ以テ互層セリ、北部即チ穎娃街道ノ以北ニハ淡綠色ノ凝灰岩、凝灰砂岩互層シ東方ニ緩斜セリ、南部即チ脇浦ノ北ニ岩骨ヲ露白セルモノハ褐色柔軟ナル凝灰質砂岩、砂質凝灰岩ノ互層ニシテ北三十度西ニ走リ西南西二十五度ニ傾斜ス、穎娃銀山事務所以北ニ斷崖ニ露出セルモノハ變質セル凝灰岩、凝灰質頁岩、凝灰質砂岩等ニシテ所ニヨリ甚シク硅質トナリ恰モ石英粗面

岩ヲ見ルカ如シ、層序ハ雜草及火山灰ニ被覆セラレテ明ナラサルモ凝灰質砂岩ハ上部ニ厚ク、角礫岩、凝灰岩ハ下部ニ厚キカ如ク而モ北部ト南部トノ關係ハ明ナラス

石英粗面岩ハ鑛床ヲ胚胎セル主要ナル岩石ニシテ黝灰色ヨリ淡灰綠色乃至淡綠色ナリ、輝石安山岩ハ南部ニ偏シ斷崖ノ東方ニ露出シ其區域狹ク、火山灰ハ以上ノ諸岩石ヲ被覆ス

本區域ハ明治二十七八年頃ヨリ一般ニ注視セララル、ニ至リ辨財天、穎娃ノ兩銀山開發セラレテヨリ其附近ニ數多ノ鑛區出願セラレタルアルモ未タ成功セルモノナシ

一 辨財天銀山

辨財天銀山ハ穎娃村ニアリテ薩南ノ一港ナル山川ノ西約三里ニ位ス、本山ニ通スル道路ハ何レモ良好ナラス、嘗テ本山ニ於テ使用セル石炭ハ之ヲ南々東一里餘ノ地ニアル川尻又ハ山川港ヨリ馬背ニヨリ運送シ、又製鍊ノ爲メ鑛石ヲ知覽ニ送致セルトキハ馬背及馬車ニヨレリト

云フ

本山ハ明治二十八年ノ發見ニ係リ同三十三年二月ヨリ稼行セラレ同三十五年事業ヲ擴張セリ、即チ當初ハ約五里ヲ隔ツル知覽村ニ鑛石ヲ輸送シ水力ヲ利用シテ一日四百貫乃至八百貫ノ鑛石ヲ製鍊セリ、明治三十四年一日千二百貫ヲ製鍊スヘキ設備ヲナセシモ水量不足ノ爲メ常ニ豫定額ヲ製鍊スルニ至ラス、而シテ知覽村ニ於テ製鍊スルニハ高價ノ運賃ヲ要スルト採鑛セル鑛石ヲ悉ク處理スルノ困難ナルトニヨリ同三十五年一月本山ニ於テ製鍊ニ着手シ水力ニ代フルニ蒸氣力ヲ以テシ、一日千二百貫、時ニハ晝夜二回ニ於テ二千四百貫ノ鑛石ヲ製鍊セリ、蓋シ鑛石運搬ノ費用ヲ減スルモ石炭高價ナルヲ以テ費額ニ於テ敢テ大差ナシ

知覽製鍊所ハ知覽ノ東數町笠坂製鍊所及現ニ赤石金山ノ鑛石ヲ製鍊スル柿木畑製鍊所ニシテ笠坂製鍊所ハ現時一ヶ月四萬貫ノ鑛尾ヨリ六貫目ノ銀ヲ製鍊スト云ヒ、柿木畑製鍊所ハ赤石金山ト共ニ既ニ之ヲ

記述シタリ、左ニ明治三十三年以降ノ産出額ヲ示サン
知覽製鍊所

本山製鍊所

明治	同	同	同	同	同	製鍊元鑛高	製鍊		高
							金	銀	
三十三年						六四、二二七	混汞製鍊 九二		六〇、五七一
三十四年						一八八、六二五	同	一、七七三	三五四、五六八
三十五年						三七一、七〇七		八六九	三九五、〇一八
三十六年						混汞五二二、五三六 青化 四〇、八〇〇		一、七一四 二九一	六七四、三七六 三、八六〇
三十七年						混汞 混水後鑛尾ヲ混ス 二四一、〇三六 青化 九六一、九二〇		三三〇 六、七〇〇	一四六、二九一 五四、七四二
三十八年						同 一五八、〇〇〇		一、〇四八	七、〇九三

明治	同	同	同	同	同	製鍊元鑛高	製鍊		高
							金	銀	
三十五年						三七三、九五二		一、三八一	五一九、〇二八
三十六年						四七二、七二五		四、〇二一	一、〇五〇、一四六
三十七年						混汞 四七四、六〇〇 青化 七二二、四〇〇		一、七二二 六、七一九	四二八、六二二 三九、九五四
三十八年						混汞 三九六、八三〇 青化 三八二、二〇〇		一、三五四 〇、六三七	三八一、六四九 一八、七〇五
三十九年						同 五六五、〇〇〇		四、三五五	五〇六、一〇〇
四十年						同 四七〇、〇〇〇		一、〇一四	二二〇、一八二

本山最盛ノ時ハ明治三十六年ニシテ千七百餘貫ノ銀ヲ産出シ、特ニ本山製鍊所ニ於テ四月ノ五十九貫ヨリ五月ニハ一躍シテ百八十貫ヲ製出シ、六月百四十九貫、七月百四十六貫、八月百三十一貫ヲ出シ、九月ニハ復ヒ減少シテ七十一貫餘トナレリ、即チ本山ニ於テ非常ナル盛況ヲ呈

シタルハ五月ニシテ六七八月之ニ次キ共ニ百貫以上ヲ産出シタリ、而シテ現時ハ坑内出水甚シク排水困難ナルヲ以テ下部ノ探掘ヲ中止シテ專ラ上部ノ殘鑛ヲ探掘シ更ニ排水ノ設備ヲナシテ下部ノ探掘ニ從事セントス

鑛脈ノ數ハ甚タ多キモ主要ナルモノ二條アリテ皆石英粗面岩中ニ胚胎シ北三四十度東ニ走リ南方ニ急斜ス、東ナルヲ一番鑛ト稱シ西方ナルヲ二番鑛トシ其距離約七八十尺ナリトス、共ニ上部ハ殆ント探掘シ盡シ南望スレハ二條ノ溝渠山腹ヲ横斷ス、而シテ二三條ノ小溝渠此兩鑛ヲ連絡シ其間ニ數條ノ鑛脈アルヲ示セリ、下部ハ滯水スルモ

圖 一 第
圖面平内坑山銀天財辨

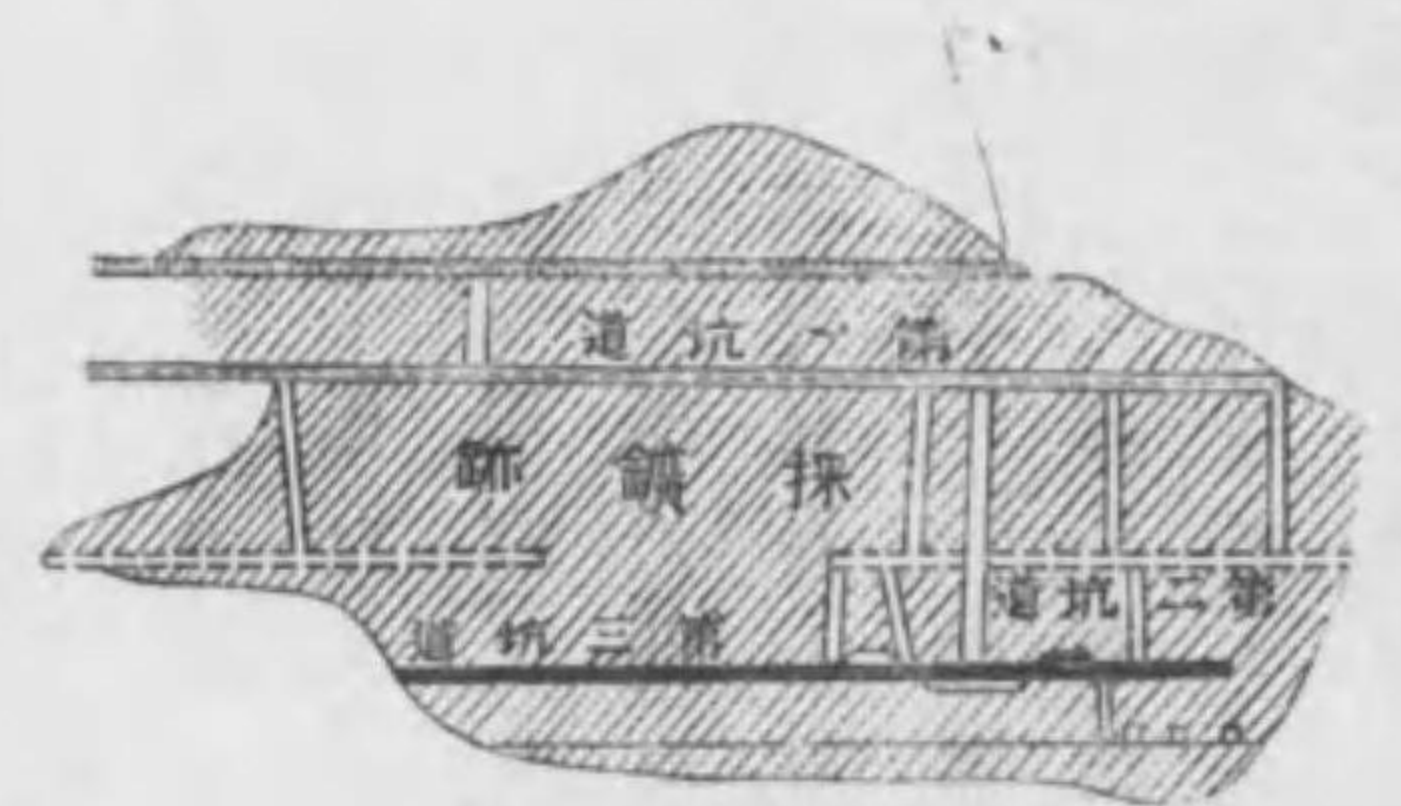


胎シ北三四十度東ニ走リ南方ニ急斜ス、東ナルヲ一番鑛ト稱シ西方ナルヲ二番鑛トシ其距離約七八十尺ナリトス、共ニ上部ハ殆ント探掘シ盡シ南望スレハ二條ノ溝渠山腹ヲ横斷ス、而シテ二三條ノ小溝渠此兩鑛ヲ連絡シ其間ニ數條ノ鑛脈アルヲ示セリ、下部ハ滯水スルモ

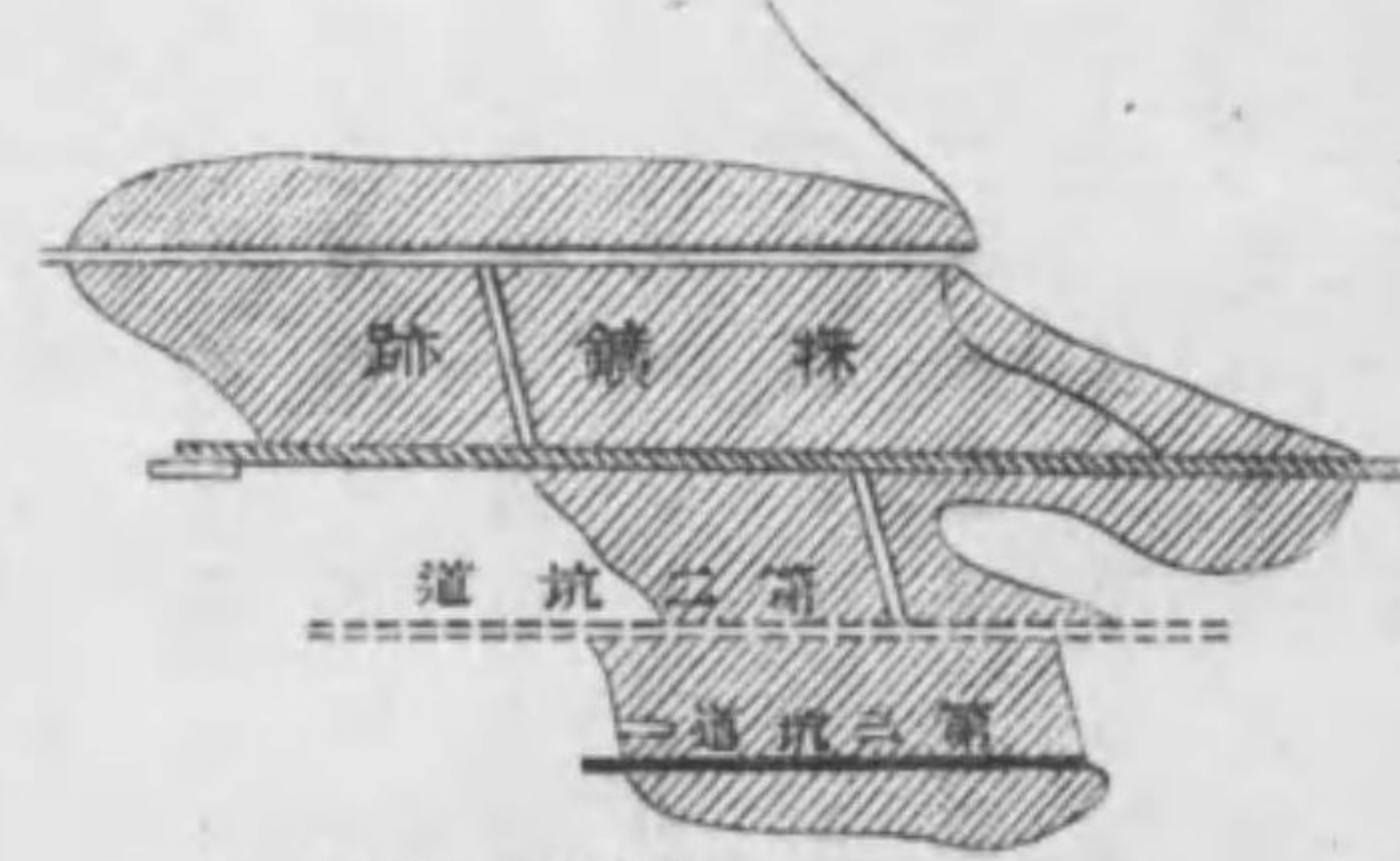
幅廣ク良好ナリト云ヒ現時ハ殘存セル鑛石及第三番鑛ヲ探掘ス

一番鑛ハ北三十度乃至六十度東ニ走リ上部ニハ北西ニ急斜スルモ下部ニハ南東七十五度乃至八十五度ニ傾斜シ其最大延長七百尺内外ナリトス、幅ハ四五寸ヨリ四五尺ニ膨大シ平均一尺八寸内外ナルヘシ、

圖 二 第
圖面縱内坑山銀天財辨
通 番 一



通 番 二



一分百四千二尺縮

上部ハ既ニ殆ント探掘シ盡サレ餘ストコロ大ナラス、下部ハ浸水セルヲ以テ鑛床ノ状態ヲ明ニスルヲ得ス、第一横坑ハ東ニ開口シ西方ニ掘進スルコト百尺未滿ニシテ鑛脈ニ會ス、本坑

道地並ハ第一坑道ニシテ既ニ探掘シ盡サレ見ルモノナク、鑛脈ハ西北西ニ急斜ス、第二坑道ハ第一坑道ノ下約七十尺ニアリテ此間幅三四尺ノ良好ナル鑛石ヲ産セリ、第二坑道南西ノ引立ニハ母岩ハ褐色ニ變シ鑛脈ハ薄條ナルモ引立ノ北少許ノ所ニ褐色柔軟ナル良好ナル鑛石ヲ産ス、現時稼行セル所ハ其北方十餘尺ニシテ下方ニ二十尺掘進シ母岩ハ角疊岩狀ヲ呈ス、鑛石ハ石英ニシテ所ニヨリ褐色ヲ呈シ縞狀ヲナシ幅七寸アリ、本坑道ニハ鑛脈ハ東南東ニ急斜ス、第二坑道ノ下四五十尺ハ第三坑道ニシテ茲ニ唧筒ヲ設置シ嘗テ下方尙四五十尺間鑛石ヲ探掘シ、鑛脈ハ最モ良好ナリシモ出水甚シキ爲メ探掘ヲ中止セリト云フ、二番通ハ殆ント一番通ニ並走スルモ南方ニハ稍接近セルカ如シ、其稼行セラレタル延長ハ五百餘尺ナリ、幅ハ數寸ヨリ數尺ノ間ニアリテ平均一尺四五寸ナリトシ一番通ニ比シテ品位鑛幅共ニ劣レリ、第二坑道ニ於テ南方ノ引立ニ近ク稼行セル所ハ幅ハ一尺四五寸ノ縞狀ヲナセル石英脈ニシテ引立ニハ三寸乃至七寸ノ三脈ニ分岐シ時ニ中石ハ

六尺ニ及フコトアリ、蓋シ本坑道ニ於テハ概シテ分岐スル傾向アリ、北面セル坑道ハ通ヲ追跡シタルモノニシテ當初通幅薄キ石英脈ナリシモ、掘進百餘尺ニシテ東西通ニ會シテ切斷セラレ、是ヨリ薄條ノ鑛脈母岩中ニ走り恰モ鑛染セラレタルカ如ク其幅三四尺アリテ少量ノ金銀ヲ含有セリ、茲ニ坑道ハ西折ス、其以南ハ之ヲ檢スルヲ得ス、一番通ト二番通トノ間ニハ數多ノ鑛脈アリ、上部即チ坑外ニ於テ溝渠トナリ存スルモノ三四條アリテ或ハ殆ント并走シテ分岐脈ト思惟スヘキモノアルモ互ニ交叉スルモノアリ、蒸氣機關ノ設置セラレタル所ノ上部ニハ殆ント東西ニ走レル鑛脈ノ一番通ノ爲ニ切斷セラレテ十餘尺ノ喰違ヒヲ生スル所アリ、蓋シ本山ノ鑛床ハ數度ニ成生セラレタルモノニシテ東西通ハ主ニ白色ノ石英ヨリ成リ一番通ノ滿俺ヲ含有スル部分ハ當初ニ成生セラレタルカ如シ、第一横坑ノ一番通ニ會スル所ヨリ少シク南ニ第一坑道ヨリ第二坑道ニ通スル豎坑アリ、茲ニ北七十度西ニ走リ南方ニ急斜セル幅三四寸ノ

一脈アリ、第一坑道下四十尺ノ中間坑道ニ於テ稼行セラレシ所ハ幅平均五寸乃至七寸ノ石英脈ナリシト云フ、第二坑道ニ於テ之ヲ追跡セルニ二番鑛ヨリ西方ニ約六七十尺ニシテ北十五度乃至三十度東ニ走リ東方ニ急斜セル三番鑛ニ會ス、幅八九寸ニシテ薄キ褐色粘土ヲ有セル石英脈ナリ、目下南方ニ探鑛中ナリ、更ニ之ヲ西ニ掘進スルコト約百八十尺ニシテ北七十度東ニ走リ南方ニ急斜セル四番鑛アリ、四番鑛ハ兩盤ニ褐色ノ薄キ粘土ヲ有スル一寸ノ石英脈ナリ、更ニ西ニ掘進シテ厚キ粘土鑛ニ會シ探掘ヲ中止セリ

第二坑道南部ニ於テ二番鑛ヨリ一 番鑛ニ通スル所ニ北七十度東ニ走リ殆ント直立セル一脈アリ、分岐脈ト思惟スヘキモノニシテ幅五寸乃至一尺アルモ品位劣等ナリ、此所ニ亦三番鑛ノ鑛先ト思惟スヘキ鑛脈アリ、坑道ハ南西ニ走レル鑛脈ヲ追跡シテ掘進セリ、此外北面セル山腹ニ二三ノ坑道アリテ石英脈ヲ追跡セルモ良好ナルモノニ會セス

鑛石ハ石英ヲ主トシ粘土ヲ雜フ、石英ハ解弛柔軟トナレル所多ク一 番

鑛ニハ黑色ノ滿俺鑛ヲ伴ヘリ、滿俺鑛ハ概シテ分解シ其量多キトキハ黑色粘土様ノ鑛石トナリ、又滿俺鑛少ク解弛シテ柔軟トナリ褐色ノ粘土様トナレルモノアリ、又ハ褐色粘土及分解シタル粘土様ノ母岩ナルコトアリ、柔軟ナル部分ト堅硬ノ石英トノ比ハ七ト三ノ割合ナリト云ヒ現ニ稼行スルモノハ主ニ黑色柔軟ナル鑛石ナリ、概シテ一 番鑛ノ最下部ハ褐色粗鬆ノ鑛石ニシテ品位良好ニ、上部ニハ黑色、下部ニハ褐色ナルコト多シ、二番鑛ニハ黑色鑛物少クシテ褐色又ハ灰色ヲ呈ス、石英ハ白色乃至灰色ナルモ黑色又ハ褐色ヲ呈シ解弛粗鬆トナリ又縞狀ヲナスモノハ品位概シテ良好ニ白色堅緻ナルモノハ品位劣等ナリ、又母岩ニ縱横ニ石英ノ細脈ヲ通シ時ニハ之ニ鑛染シ幅四五尺ニ達スルコトアルモ品位良好ナラス、三番鑛ハ白色ノ石英又ハ粗鬆解弛セル白色ノ石英ヨリ成リ母岩及粘土時ニ黑色鑛物ヲ混シ帶黒褐色ヲ呈ス、想フニ鑛脈ハ數次ニ成生セラレタルモノナラン

鑛脈ハ一 番鑛ニ於テ最モ良好ニシテ二番鑛之ニ次ク、而シテ水準以上

ニ於テ採取シ得ヘキ部分ハ殆ント探掘シ盡サレタリ、而シテ鑛床ハ孤立ノ山腹ヲ横斷セルヲ以テ上部ニ於テ其延長大ナル能ハス、故ニ更ニ本山ヲ經營セントスルニハ下底ニ向ヒ探掘セサルヘカラス、然ルニ下底ハ出水甚シク嘗テ之ヲ企テ、失敗ニ終レリ、蓋シ下底ニハ鑛床賦存ノ状態ヲ知ルヲ得サレトモ本山ニ就キテ之ヲ傳聞スルニ鑛脈ノ幅二尺内外ニシテ品位良好ナリト云フ、其上部ニ於ケル鑛床ノ状態ニ見ルニ或ハ然ラン、若シ果シテ然リトセハ適當ナル設計ニヨリ更ニ下底ノ探掘ヲ企劃シテ相當ノ利益ヲ收ムルヲ得ン、近時三番鑛ノ良好ナルヲ傳聞スルモ本山ノ經營ハ一番鑛及二番鑛ヲ探掘スルヲ目的トシ三番鑛及其他ノ鑛脈ハ補助トシテ之ヲ探掘スルヲ安全ナリトス

鑛石ノ品位ハ概シテ良好ニシテ最モ優等ナルハ金千分ノ一乃至二、銀百分ノ八乃至九、劣等ナルモノモ金百萬分ノ四乃至五、銀萬分ノ五ニシテ平均金十萬分ノ一、銀千分ノ一、五トス左ニ黑色ノ鑛物及採取ノ鑛石ノ分析ヲ掲ケン(百分中)

原鑛物	珪酸	銀	カドミウム	第二酸化鐵	礬土	酸化錳 Mn ₂ O ₃	亞鉛	石灰	苦土	硫黃	灼熱減量
一三、五九	〇、七五八	〇、〇六	二、三八	二、九五	五七、五一	一、七八	一、二九	一、二八	一、〇七	一七、三五	
六、四四	〇、九一七	〇、〇八	二、八八	三、五七	六九、五八	二、一五	一、五六	一、五五	一、二五		

一番鑛	上部	下部	下部	上部	同	同	同	同	同	二番鑛
黑鑛中鑛 粘土(石英ヲ含ム)	〇、〇〇三	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	ナ	ナ	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇五
赤上鑛 粘土(粘土様母岩ヲ含ム)	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	ナ	ナ	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇五
赤中鑛 粘土(赤色粘土様母岩及石英ヲ含ハス)	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	ナ	ナ	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇五
黑 石英及黑鑛石	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	ナ	ナ	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇一	〇、〇〇五
白 石英	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ	ナ
黑 石英粘土附着	〇、〇〇二	〇、〇〇二	〇、〇〇二	ナ	ナ	〇、〇〇二	〇、〇〇二	〇、〇〇二	〇、〇〇二	〇、〇〇五
最上鑛 錳粗粒トナレル石英	〇、〇五五	〇、〇五五	〇、〇五五	ナ	ナ	〇、〇五五	〇、〇五五	〇、〇五五	〇、〇五五	〇、〇五五
最上鑛 二番坑道	〇、〇三七八	〇、〇三七八	〇、〇三七八	ナ	ナ	〇、〇三七八	〇、〇三七八	〇、〇三七八	〇、〇三七八	〇、〇三七八
石 英引立	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七	ナ	ナ	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七
上石英 帶褐色ノ粘土ヲ被フ	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七	ナ	ナ	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七	〇、〇〇五七

同	四下リ 石英白色黑色粘土ヲ被フ	〇、〇〇〇八	〇、〇八五四
同	中 石英及母岩	〇、〇〇〇八	〇、〇七五五
同	石英砂 粘土ヲ含ム	〇、〇〇〇七	〇、〇六一八
同	下 白色石英	〇、〇〇〇七	〇、〇三一七
三番鑛	上 砂鑛黒灰色	〇、〇〇〇一	〇、一二四〇
同	中 砂鑛灰白色	〇、〇〇三三	〇、二六八九
同	中 白色石英	〇、〇〇〇三	〇、〇〇五五
五番鑛	帶褐灰白色 粘土	〇、〇〇〇一	〇、〇〇三七
同	灰黑色 砂鑛	〇、〇〇〇六	〇、〇八二一
同	白色石英	〇、〇〇〇二	〇、〇一五一
並鑛石砂鑛		〇、〇〇〇五	〇、〇五七八
混汞後		〇、〇〇〇七	〇、〇三四九
青化後		〇、〇〇〇四	〇、〇二〇九

二 穎娃銀山

穎娃銀山ハ辨財天銀山ノ南ニ隣接シ明治二十九年ノ開坑ニ係レリ、同三十四五年ノ稍盛ナルトキニハ鑛石ノ大部ヲ鹿兒島ニ送付シ生見銀山ノ鑛石ト共ニ製鍊ニ供シ本山ニ於テハ一ヶ月一萬貫ノ鑛石ヨリ四五貫ノ銀ヲ採取シタリ、現今ハ多量ニ湧出スル冷泉ヲ利用シ水車ヲ設置シ一ヶ月五千貫ノ鑛石ヨリ三四貫ノ銀ヲ採取ス、製鍊所ハ採鑛所ヲ距ル二町内外ニアリテ鑛石ハ馬背ニヨリ運搬ス、運賃百斤ニツキ二錢五厘ナリ、鑛石ハ一番鑛、二番鑛ニ區分ス、一番鑛ハ品位良好ニテ一ヶ月一千貫内外ヲ産スルコト多キモ時ニハ全ク二番鑛ノミナルコトアリ鑛脈數多アルモ旭坑ニ於テ稼行セル鑛脈ハ三條ナリ、旭坑ハ最低坑道ニシテ緩ナル勾配ヲ以テ西南西ニ掘進シ第一新鑛ニ會ス、第一新鑛ハ西北西ヨリ東南東ニ走リ北々東ニ急斜ス、西北西ノ引立ハ七寸内外ノ縞狀ヲナセル石英脈ヨリ成ル、更ニ六七間ヲ隔テ第二新鑛アリ、約東西ニ走レル薄脈ニシテ西方ノ引立ハ二寸ノ縞狀ノ石英脈ナリ、最南ニアルモノハ本鑛ニシテ、北七十度西乃至東西ニ走リ北方ニ急斜ス、西方ニ

此通脈ヲ追跡スルコト百間、下部ハ浸水スルモ幅二尺五寸乃至三尺アリテ良好ナリシト云ヒ嘗テ盛ニ稼行セラレタリ、此鑛脈ハ二三寸ノ石英及粘土鑛ニ縮迫スルコトアルモ幅二尺乃至四尺ニ及ヒ白色ノ石英ヨリ成リ褐色粘土ハ兩盤ニ接シテ存在シ又ハ石英ノ間ニ介在ス、石英ハ堅硬ナルト、分解シテ柔軟ト成レルモノトアリ、陽輝坑ハ旭坑ノ西ニアリテ旭坑ノ水準ヨリ五六十尺高ク本鑛ヲ追跡セリ、茲ニハ本鑛ハ概シテ北七八十度東ニ走ルモ中部ニ東西及北七十度西ニ走レル所アリ、傾斜ハ北ニシテ急ナリ、幅ハ一尺乃至一尺五寸ナルモ時ニ數寸ニ縮迫シ坑口ヨリ約百間ノ引立ハ薄條ノ石英及粘土脈ナリトス、鑛石ハ白色ノ石英ニシテ一部黑色ノモノアリ、時ニ縞狀ヲ呈シ褐色乃至赤褐色粘土ヲ混ス、坑口ヨリ十五間ニシテ五十尺ノ下方ニ第一新鑛アリ、幅一尺ノ縞狀ヲナセル石英脈ニシテ上部ハ多ク探掘セラレタリ、鑛石ハ白色ノ石英ナルモ一部ハ灰色黒灰色又ハ褐色ヲ呈シ又黑色若クハ褐色粘土ヲ含有セリ、又南方山腹ニ一條ノ薄脈アリ北八十度東ニ走リ南方六

七十度ニ傾斜ス、幅二寸乃至四寸ノ石英脈ニシテ縞狀ヲ呈シ粘土ヲ含メリ、目下探鑛中ナリ、其他二三ノ鑛脈アルモ主要ナラス、母岩ハ帶綠色ノ石英粗面岩ナルモ引立ニハ灰褐色ニ變セリ、探掘セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如シ(百分中)

金 銀

陽輝坑本鑛	(白色縞狀ノ堅緻石英)	痕跡	〇、〇六七五
同	(前者ニ同シ褐色粘土ヲ伴フ)	〇、〇〇〇四	〇、〇七三一
一新鑛	(白色石英)	〇、〇〇〇二	〇、〇〇二〇〇
同	上層白色石英(縞狀ヲナシ褐色粘土附着ス)	〇、〇〇〇一	〇、〇〇〇九七
陽輝坑	(石英ニ多量ノ赤褐色粘土ヲ雜フ)	〇、〇〇〇四	〇、〇〇三〇二
愛宕坑	探鑛中(縞狀ヲナセル石英兩盤ニ粘土アリ)	〇、〇〇〇二	〇、八一七七
三番生鑛		〇、〇〇〇二	〇、〇〇六二一
混合二番鑛燒鑛砂		〇、〇〇〇七	〇、〇一三二六
鑛尾		〇、〇〇〇三	〇、〇〇〇九七

最上 鑛

(黒褐色粗鑛ト
ナレル石英)

〇、〇〇六六

四、一九五四

揖宿郡中部ノ鑛山中北部即チ大谷金山區域ニ在リテハ生見銀山ヲ除
 ケハ金ヲ主産シ其品位ハ金七分、銀三分ヨリ金三分、銀七分ノ割合ニシ
 テ鑛石分留リ金十萬分一以下ニ於テハ收支相償ハサルモノ多キカ如
 シ、鑛床ハ第三紀層、粒狀安山岩、角閃石安山岩ニ胚胎ス、第三紀層ニ胚胎
 セルモノハ石英、粘土及母岩ノ一部鑛染セラレタルモノヲ鑛石トシ、上
 部ナル凝灰頁岩ニハ鑛床稍散亂スルノ傾向アリテ幅概シテ薄キモ品
 位良好ナルモノアリテ時ニ肉眼ヲ以テ識別シ得ヘキ自然金ヲ含有シ
 鑛量少キモ尙稼行スルヲ得ヘシ、下部ナル角閃岩ニハ幅大ナルモ其之
 ヲ檢スルヲ得タルハ只僅ニ大谷鑛山本鑛、日影鑛山、菖蒲烏鑛ノミナル
 ヲ以テ鑛床全般ニ對シ之ヲ判定シ難シト雖モ兩鑛共ニ銅鉛鑛ヲ隨伴
 シ品位亦良好ナリ、其他ノ鑛鑛ノ下部ニ於テ如何ニ變化スルヤハ以上
 兩鑛ニ見テ最モ注意スヘキ事項タルヘシ、粒狀安山岩ニ胚胎セルモノ
 ハ主ニ白色縞狀ノ石英脈ニシテ烏帽子及池田兩金山ニ之ヲ檢シ鑛幅

稍大ナルモ品位甚タ良好ナラサルカ如シ、角閃石安山岩ニアルモノ亦
 主ニ白色ノ石英脈ヨリ成リ幅大ナルモ含金品位良好ナルモノニ乏シ
 ク獨リ仁田平金山ニ稼行セルモノ著シク良好ナルヲ見ル
 南部即チ辨財天銀山區域ニ在リテハ鑛床ハ第三紀層及石英粗面岩中
 ニ胚胎スルモ其第三紀層ニアルモノハ幅薄ク未タ稼行ニ堪フヘキモ
 ノヲ發見セス、石英粗面岩ニアルモノハ品位概シテ良好ニシテ殊ニ辨
 財天銀山ノ一番鑛及二番鑛ノ如キハ實ニ驚クヘキ良好ノ鑛石ニシテ
 其滿俺鑛ヲ隨伴スル黒色ノ鑛石ハ未タ他ニ見サル所ナリトス、穎娃銀
 山ノ鑛石ハ稍之ニ劣ルモ品位決シテ劣等ナラス、兩銀山共ニ既ニ上部
 ヲ採掘シ盡シタレハ將來ノ採鑛ハ排水ノ設備ヲナシ下部ニ掘進セサ
 ルヘカラス
 以上諸鑛山ハ二三里ノ間ニアリテ相互ノ交通甚タ不便ナラサルノミ
 ナラス相隣接シテ相互連續セル鑛脈ヲ稼行セントスルモノアリ、是レ
 獨リ鑛主ノ損失ニ止マラスシテ鑛利ヲ害スル甚タ大ナルモノアリ、若

シ夫レ現ニ稼行セル立神、小金、日影、大谷、河内山、池田、鬼門、仁田平等ノ諸
鑛山並ニ辨財天、穎娃ノ兩鑛山ノ如キ相隣接セルモノヲ合併スルニ於
テハ此地方鑛業ノ更ニ大ニ發展スヘキヲ疑ハス、更ニ其製鍊所ノ如キ
モ其設備ヲ完備ニシ現ニ鑛尾ニ金銀ノ殘存スルカ如キコトナカラシ
ムルヲ得ハ收益益大ナルモノアラシ、茲ニ當業者ノ深ク之ニ留意セン
コトヲ望ムヤ切ナリ

(九) 湯ノ谷銀山

大隅半島ノ中部縣道ニ沿ヘル高山ヨリ高山川ヲ南方ニ廻ルコト約三
里半ニ湯ノ谷ノ村落アリ、明治三十七年此地ニ銀鑛ヲ發見シ探掘ニ從
事セルモ翌年二三月ノ交休業シ、今ヤ再ヒ事業ヲ開始シ製鍊ニ着手セ
ントス
地質ハ中生代砂岩、粘板岩ヲ貫キ噴出セル黑雲母花崗岩ヨリ成リ一條
ノ石英脈ハ村落ノ北小溪ニ露出ス、露頭ニ於テハ幅二三寸ナルモ下底
ニ掘進スルコト四十五尺ニシテ幅一尺内外ニ膨大シ、特ニ中部ニ當レ

ル所最モ厚ク二尺五寸内外アリ、其縮迫スルヤ或ハ二寸内外トナリ或
ハ數條ノ細脈ニ分岐ス、走向ハ北七十度東ニシテ南六十度ニ傾斜ス、其
西方ハ高山川ニシテ東方ハ後來探鑛スヘキ區域タリ、現今探掘セルハ
幅一尺内外ノ石英脈ニシテ通常上下盤特ニ、上盤ニ綠色ノ粘土ヲ隨伴
ス、鑛石ハ純白ノ石英ニシテ往々黑色ヲ帶ヒ輝安鑛、磁硫鐵鑛、黃鐵鑛等
ノ硫化鑛物ヲ散布シ、若クハ空隙ニ輝安鑛ヲ簇生シ、又ハ硫化鑛物ハ石
英ト帶狀ヲナスコトアリ、上鑛ハ時ニ百分臺ノ銀ヲ含有スルモ普通一
萬分ノ五又ハ六ナリト云フ、採取セル鑛石ヲ分析セルニ其結果左ノ如
シ(百分中)

金 痕 跡 銀 ○、○三八二

同 ○、○〇〇四 同 ○、○四一八

本山ハ開坑日尙淺ク其良否ヲ判別シ難シト雖モ鑛幅ハ現今坑口ニ於
テ檢スル所ニテハ平均一尺アリ、其東方ト下底トハ探鑛ニ價スヘク、出
水稍多ケレトモ坑木ヲ要セス、高山川其西ヲ流レ以テ水力ヲ利用スル

ヲ得ヘク、探鑛ニシテ誤ルコトナクンハ小規模ノ下ニ收支相償ヲ得
ン

(十) 佐多鑛山

佐多鑛山ハ大隅半島南部ノ漁村伊座敷ノ東微南二十四五町大字馬籠
ニアリテ其東ヲ流ル、馬籠川ニ水車ヲ設置シ、一ヶ月約五萬貫ノ鑛石
ヨリ三十五匁乃至四十匁ノ青金ヲ收得ス、其品位ハ金七割乃至八割、銀
二割乃至三割ナリト云フ、本山ハ六七年前ノ創業ニシテ現今坑夫八九
名操業ス、運搬ハ探鑛所ヨリ製鍊所ニ至ル七八町ノ間牛ヲ用ヒ鑛石十
六貫ニ對シ貨錢四錢ナリト云フ
馬籠ノ東北東ニ聳ユル山嶺ハ灰石ヨリ成レル臺地ヲ抜キテ高ク東方
ニ連リ西南北ノ三面ニ急斜ス、探鑛所ハ山嶺ノ殆ント頂上ニ近ク、事務
所々在地ナル製鍊場ヨリ高キコト約二百米ニアリテ其北々東ニ位ス、
地質ハ中生代砂岩、粘板岩ヨリ成リ約東西ニ走リ北方ニ傾斜セルカ如
シ、砂岩ハ灰色ニシテ中粒ナルヲ普通トシ、粘板岩ハ黑色又ハ灰黑色ニ

シテ砂質ヲ帶ヒ共ニ堅硬ニシテ掘進甚タ困難ナリ、鑛脈ハ其數多キモ
皆細脈ニシテ一尺ヲ超ユルモノナク、共ニ山頂ニ近ク南方ニ面スル所
ニ露出シ互ニ並走ス、中主要ナルモノ四條アリテ約三四十米ノ間ニ粘
板岩中ニ介在ス、其走向ハ概ネ中生層ト同シク最上部ニアルモノハ北
方四五十度ニ傾斜シ幅二寸乃至五寸、時ニ七寸内外ニ膨大スルコトア
リト云ヒ、走向ニ沿ヒ二町内外ヲ追跡スルコトヲ得、其下ニアルモノハ
北方七十度ニ急斜シ幅一寸乃至三寸、其下ニアルモノハ最上部ノモノ
ト同シク幅二寸乃至五寸、北方四五十度ニ傾斜ス、最下部ニアルモノハ
幅二三寸ヲ普通トシ北七八十度西ニ走リ北四五十度ニ傾斜ス、現時上
部三條ノ鑛脈ヲ探掘ス、而シテ新ニ最上部鑛脈ノ下方約七十米ノ所ヨ
リ新坑ヲ開掘シ砂岩中ニ三條ノ細脈ヲ切斷セルモ未タ前記ノ鑛脈ニ
會セス、然モ岩石堅硬ニシテ操業甚タ困難ナリ、鑛石ハ白色堅硬ノ石英
ニシテ硫化物ヲ雜フルコト稀ナリ、而シテ鑛石ノ裂隙ニ富メル部分ハ
品質富良ナル傾向アリ、而シテ最下部ノ鑛脈ハ所ニヨリ甚シク砒硫鐵

鑛ヲ含有ス、採取セル鑛石ヲ分析セルニ百分中金〇、〇〇〇一ヲ含有セリ
本山ノ東方ニ嘗テ銀鑛ヲ採掘シ四五年前休止セリト云フ、鑛床ハ薄條ノ石英脈ニシテ砂岩、粘板岩中ニ介在セリ

二 銅 鑛

銅鑛ノ稼行セラル、モノハ鹿屋銅山アルノミ、而モ現時ハ探鑛中ニ屬ス、此他嘗テ稼行セラレタル二個所ノ舊坑ヲ檢セリ
鹿屋銅山 ハ大隅半島鹿屋ノ西約一里、鹿屋村郷原ニアリ、四五年前ノ開坑ニ係リ現今坑夫八九名ヲ使役シテ探鑛中ナルモ未タ良好ナル鑛脈ニ會セス、而シテ明治三十九年六月迄ハ時ニ製鍊セリト云フ
地質ハ中生代粘板岩ヲ主トシ紅紫色ノ輝綠凝灰岩ト互層シ薄キ砂岩ヲ夾ミ、坑口附近ニハ蛇紋岩ノ噴出セルアリ、而シテ粘板岩ハ所ニヨリ千枚岩狀ヲ呈シ古生層ニ屬スルカ如キ觀アリ、層向ハ明ナラサレトモ西北西ニ傾斜セルカ如シ、鑛脈ノ數數多アリト稱シ坑口數多アレトモ

嘗テ探鑛セラレ又現ニ主トシテ探鑛セルヲ旭坑トシ山頂ニ近ク開坑ス、旭坑以外ノ坑道ハ粘土脈若クハ粘板岩ノ甚シク擾亂セラレテ柔軟トナレル部分ニ向ヒ掘進探鑛シタルモノニシテ未タ鑛石ト思惟スヘキモノニ會セサルモ、時ニ石英若クハ主ニ黃鐵鑛ヨリ變化セル酸化鐵ヨリ成リ表面ニ孔雀石若クハ硫酸銅ノ成生セルモノヲ檢セリ
旭坑ニ於テ現ニ探鑛セル一條ノ鑛脈ハ粘板岩ト同シク概シテ西方若クハ北西二十五度乃至四十五度ニ傾斜セル幅二三寸ノ黃鐵鑛ニシテ黃銅鑛、粘土ヲ伴ヒ時ニ石英ヲ雜ヘ、時ニ石英ト共ニ放射狀ヲナセル輝石ヲ見ル、此他約東西若クハ南北ニ走レル數多ノ粘土脈アリ、幅四五寸ニシテ主ニ褐鐵鑛ヨリ成ルモ尙黃鐵鑛、黃銅鑛ノ殘存セルモノアリ、但シ良好ナルトキハ鑛石ハ籠リ狀ヲナシテ存在スト云ヒ鑛床賦存ノ狀態明ナラス、此地方ニハ維新前島津家ニ於テ稼行セル舊坑數多アリテ嘗テ富良ナル鑛石ヲ産セルコトアリト云ヒ柘野ニハ「タンダステン」鑛ヲ産スト云フ

鹽屋銅山 大隅半島西海岸小根占村鹽屋ノ東方山腹ニ銅鑛ヲ稼行セ
 ル舊坑アリテ明治二十四五年頃ヨリ同三十年頃マテ採掘セラレ、爾後
 興廢常ナシ、而シテ其盛ナリシトキハ三十名ノ坑夫操業セルモ同三十
 四五年頃ヨリ僅ニ二三名トナリ現時ハ全ク休止ス、鑛脈ハ花崗岩ニ胚
 胎セル黃銅鑛ニシテ石英并ニ黃鐵鑛及其他ノ硫化鑛物ヲ雜ヘ、略東西
 ニ走リ北方ニ急斜若クハ直立ス、幅ハ薄ク二寸内外ナルモ時ニ一尺ニ
 膨大スト云フ

野間 川邊郡野間半島ノ北西ナル野間池ノ東方山ノ神ニ接スル山腹
 ニ銅鑛ヲ採掘シ山ノ神ニ於テ製鍊セルコトアリト云ヒ舊坑今尙存ス、
 現時坑内敗類シテ鑛床賦存ノ状態ハ之ヲ知ルニ難キモ鑛床ハ中生代
 砂岩、粘板岩ト石英斑岩トノ接觸部附近ニ胚胎セルモノ、如シ、鑛石ハ
 黃銅鑛ニシテ磁硫鐵鑛、閃亞鉛鑛、黃鐵鑛其他ノ硫化鑛物ヲ雜フ、鑛石ハ
 放射狀ヲナセル輝石及石英ヲ主ナルモノトス

三 錫 鑛

(一) 谿山錫山

谿山錫山ハ鹿兒島郡谿山町ヨリ西方約二里半ノ地ニアリ、維新前ニハ
 藩主島津家ニ於テ此附近ノ地ヲ一括シタリシモ維新後良好ナル區域
 ヲ撰擇シテ谿山錫山ノ鑛區トナセリ、爾來其附近ニ鑛區ヲ出願スルモ
 ノ多ク、現ニ附近ニ三四ノ坑夫ヲ使役シテ僅ニ鑛業ヲ營メルモノアリ、
 本山ニ關シテハ既ニ地質調査所報告第十號ニ之ヲ記述シタリ、茲ニハ
 其概要ヲ記スルニ止ム

本山ヨリ谿山町ニ至ル間ハ道路良好ナラスシテ運搬ハ主ニ牛馬ニ依
 リ、其賃金ハ百五六十斤乃至二百斤ニ對シ四拾錢ヲ要スト云フ
 本山ノ開坑ハ元錄年間ニシテ今ヲ距ル六七十年前ニ大盛ヲ致シ、明治
 維新ニ際シ一時政府ノ手ニ移リシモ直ニ島津家ノ有ニ復セリ、而シテ
 明治十九年ニハ元山本鑛最モ良好ニシテ近年ニ見サル盛況ヲ呈セリ
 ト云フ、最近五ヶ年間ノ採鑛高並ニ製錫高及價格左ノ如シ

製錫高

採鐵高

明治三十七年	二六、一六四	六七、五八一
同 三十八年	二七、四〇九	四二七、四〇〇
同 三十九年	二八、〇〇七	三六一、八六四
同 四十年	三六、一一六	三八八、七九三
同 四十一年	三三、六九〇	四三一、八三七

地質ハ主ニ中生代砂岩ニシテ粘板岩ト互層シ谿間ニハ灰石之ヲ被覆ス、鑛脈ハ主ニ砂岩中ニ胚胎シ概シテ東西ニ並走シ北方ニ傾斜スルヲ普通トス、其數ハ甚タ多ク古來ヨリ知ラレタルモノヲ北方ヨリ列記スレハ紋無鑛、南谷本鑛、御金鑛、肥後鑛、國分鑛、年行司鑛、大隅鑛、元山本鑛、三
 四郎鑛、葉色鑛等トス、元山本鑛ハ往々兩盤ニ粘土ヲ挟ミ石英ハ鑛石ト縞狀ヲナシ最モ良好ナル部分ハ幅一尺五寸内外ニシテ漸次縮迫シ遂ニ粘土若クハ石英脈ニ變ス、本鑛ハ昔テ最モ盛ニ稼行セラレ現時ニ於テモ本山鑛脈中最モ多量ノ鑛石ヲ産ス、國分鑛ハ東方ニハ肥後鑛、國分

鑛ニ分岐ス、疏水坑道地並ヨリ上方四十尺ノ中間坑道上部ニハ良好ナル鑛石ヲ産セシモ既ニ殆ント採掘シ盡セリ、下部ハ出水甚シク今ヤ疏水坑道ヨリ貫通シテ之カ採掘ヲ圖ラントス、南谷本鑛ノ上部ノ良好ナル部分ハ既ニ採掘シ盡サレ現今ハ疏水坑道並ニ其下底ニ向ヒ操業ス、走向ハ北五十五度乃至七十度西ニシテ北方ニ急斜若クハ殆ント直立ス、幅ハ一尺内外ナルモ肥大セル所ハ二尺内外ニ達シ内良好ナル部分三四寸アリ、紋無鑛ハ北七八十度東ニ走リ北方七十度ニ急斜若クハ直立ス、幅ハ普通一二尺ヨリ七八尺ノ間ニアルモ肥大セル所ハ品位概シテ劣等ニシテ普通脈幅一二尺ヲ良好トス
 疏水坑道ニ於テハ以上四脈ノ外數多ノ鑛脈ヲ切斷セルモ稼行ニ價スヘキ鑛脈ニ會セス、而シテ本坑道ニ見ル三四郎鑛、薄身鑛、御金鑛、肱金鑛等ハ上部ニ於テ稼行セラレタリト云フ
 鑛脈ハ普通縞狀ヲ呈シ上下盤ニ粘土ヲ隨伴スルコト多ク、良鑛ニアリテハ錫石帶厚ク又ハ石英中ニ錫石ヲ含有スルコト多シトス、母岩ハ屢

鑛脈中ニ碎塊狀ヲナシテ含有セラレ錫石ヲ以テ圍繞セラレ、又時ニ或ハ細脈ヲ通シ或ハ錫石ヲ散布スルコトアリ、鑛石ハ石英及母岩ニシテ錫石ヲ散布簇生シ其他ノ硫化鑛物ヲ散在ス、鑛石ハ錫石ニシテ多量ノ黃鐵鑛ヲ隨伴シ時ニハ其量錫石ト相等シク帶狀ヲナセルモノアリ、此外黃銅鑛、方鉛鑛、閃亞鉛鑛ヲ隨伴シ稀ニ「ウルフラム」鑛ヲ見ルコトアリ

(二) 西山坑及鑛塚坑

谿山錫山ノ北西ニ隣接セル西山坑ハ明治三十八年ニ開坑シ、北西ニ走レル中生代砂岩ヲ北東ニ向ヒ掘進シ十餘間ニシテ錫石ヨリ成レル二條ノ薄脈ニ會ス、此外石英及硫化鑛物ヨリ成レル細脈ヲ切斷セルモ未タ稼行ニ堪フヘキ鑛脈ヲ見ス、現時四名ノ坑夫探鑛ニ從事ス、此地附近ニハ往昔島津家ニ於テ稼行セル舊坑アリ
谿山錫山ノ東ニ隣接セル鑛塚鑛區ニハ數名ノ自稼人アリテ十數年前ヨリ時々探掘ニ從事シ一ヶ月四五十斤ノ錫ヲ產出ス、鑛脈ハ中生代砂岩ニ胚胎シ南西七八十度ニ傾斜ス、鑛石ハ良好ニシテ幅ハ五寸内外ナ

ルモ亦一寸未滿ニ縮迫ス、現時坑口ヨリ三十尺ノ下底ニ掘進シ良好ナル鑛石アリ、而シテ元山本鑛區ハ本鑛區ヲ通スヘキヲ以テ本山ニ於テハ之ニ向ヒ探鑛セルモ未タ本鑛ト思惟スヘキ鑛脈ニ會セス、此地ハ昔テ盛ニ稼行セラレタルコトアリト云フ

四 鐵

枕崎ノ東方岩戸山ノ西腹ニ褐鐵鑛ヲ產シ少シク試掘シタル跡アリ、地質ハ安山岩ノ變質シタル硅質岩ニシテ岩石中ニ含有セラレ、黃鐵鑛ハ水酸化鐵トナリ岩石ノ裂隙又ハ空隙ニ滲入シ若クハ岩石ノ表面ニ沈積シテ褐鐵鑛トナレルモノナリ、隨テ僅ニ表面ヲ被覆スルニ過キサレハ其量大ナラス、又知覽ノ北方約一里ニ鑛滓ノ堆積セルヲ見ル、蓋シ四五十年前母嶽ヨリ鐵鑛ヲ探掘シ此地ニ於テ製鍊セリト云フ
薩摩半島揖宿郡ノ東方殊ニ山川ヨリ川尻ニ至ル沿岸ニハ砂鐵ヲ產シ維新前ニハ薪材等ヲ得ルニ易キ對岸ナル小根占村、佐多、村ノ所々ニ於テ之ヲ製鍊シ今尙同地方ニ多量ノ鑛滓ノ堆積セルヲ見ル、又肝屬郡高

須附近沿岸ノ砂鐵ハ上名ノ南ナル金山ニ於テ製鍊シタリト云フ

五 石 墨

川邊郡野間半島ニ石墨ヲ産シ諸所ニ稼行セラレタル跡アルモ現今ハ只僅ニ椎ノ木ノ南西半里ノ地ニ一兩名ノ坑夫ノ操業セルヲ見ルノミ
西加世田村小濱ノ西ニアル高サ約八九十米ノ山腹ニ石英斑岩ヲ掘下セル一ノ堅坑アリ太郎木場ノ南ニモ石英斑岩中ニ掘進セル一ノ坑道アリ、共ニ石墨採掘ノ目的ナリシモ成功スルニ至ラスシテ中止シタリト云フ

西加世田村黒瀬ノ西方高サ約百四五十米ノ山腹ニハ明治三十九年マテ石墨ヲ採掘セリ、石墨ハ石英斑岩及中生層トノ接觸部ニ近ク石英斑岩中ニ脈狀ヲナシテ胚胎セルモノナルヘク其賦存ノ状態ハ之ヲ知ルヲ得ス

椎ノ木ノ南西約半里野間嶽ヨリ發源スル河流ノ南方ニアル椎ノ木嶺山ハ維新前ヨリ稼行セラル、モ興廢常ナク、現今ハ一兩名ノ坑夫一日

四十斤乃至八十斤ノ石墨ヲ採取スト云ヒ、巡回ノ當時ハ恰モ臨時休業ノ時ナリシヲ以テ能ク鑛床ノ状態ヲ詳ニスルヲ得サリシモ石墨ハ脈狀ヲナシテ中生層及石英斑岩ノ接觸部附近ニ胚胎ス、岩石ハ甚シク霽爛シ其性質明ナラサレトモ現ニ稼行スル一條ノ石墨脈ハ中生層ニ接シ石英斑岩ニ介在セルカ如ク幅厚キハ一尺ニ達スルモノアルモ幾何ナラスシテ薄條ニ縮迫シテ一寸未滿トナリ扁豆狀ヲナシ途ニ斷絶ス、走向ハ一定セスシテ東西乃至北東ノ間ニアリ、傾斜ハ南若クハ南東ニシテ斜角ハ緩ナルモ四五十度ニ達スルモノアリ

六 建築石材

本圖幅地ノ岩類中建築石材トシテ採取セラル、モノハ第三紀凝灰岩並ニ花崗岩及灰石トシ安山岩ハ未タ使用セラル、ニ至ラス、而シテ用途ノ最モ廣キヲ灰石ナリトス

凝灰岩 揖宿郡山川灣南方ノ第三紀凝灰岩ハ灰綠乃至綠色ニシテ質堅硬ナラス、隨テ採取甚タ容易ナリ、石切場ハ山川ノ南方丘陵ニ南北ニ

連リテ五六個所アリ、明治三十八年ノ產出額ハ四千六百八十才ニシテ其價額三百九十圓ナリト云フ

辨財天銀山ノ南方ニ採取セル凝灰岩ハ綠色ニシテ質柔軟ニ時ニ角蠻岩狀ヲナシ、其穎娃ニ通スル街道ニ採取スルモノハ帶綠色ノ凝灰質砂岩ニシテ甚タ堅硬ナラス、其產額共ニ多カラス

花崗岩 ハ堅硬ニシテ採取ニ容易ナラサルヲ以テ未タ廣ク使用セラ

ル、ニ至ラス、時ニ優等ノ石材ヲ要スル場合ニ大隅半島ノ西海岸大濱ノ南ニ於テ採取ス

灰石 ハ本圖幅地ニ於テ分布甚タ廣ク且ツ質柔軟ニシテ採取スルニ易ク、隨テ運搬ニ便ナル所ニアリテハ木材ヲ使用スルヨリ價廉ナルヲ以テ其用途最モ廣ク各町村殆ント之ヲ見サルナク、殊ニ石垣、障壁等ニ最モ多ク使用セラ

ル、故ニ灰石ノ分布セル地ニシテ村落アレハ大抵二三ノ石切場アリ、現時稍盛ニ採取スル石切場ハ加世田ノ西方ニ當リ加世田ヨリ唐人原ニ通スル街道ノ南字白龜山ノ石切場ニシテ一ケ年千

五百九十五圓ノ石材ヲ産シ、其北方ナル宮原ノ丘陵ノ石切場ハ同七百九十七圓ノ石材ヲ産シ、川邊ノ四近ニ産スル石材ハ其價千餘圓ニ達スト云フ、其他ノ石切場ヨリ産スル石材ハ僅ニ其地ノ需用ヲ充タスニ過キスシテ多クハ必用ニ應シテ村民ノ採取ニ任セリ、而シテ其數甚タ多ク悉ク圖上ニ示スヲ得ス、明治三十八年ニ於ケル石材ノ產出額ハ揖宿郡ハ五百六拾九圓、川邊郡ハ四千八百五拾七圓ニシテ同三十九年ニハ川邊郡ヨリ四千八百七拾五圓ヲ産セリト云フ

七 砥材

大谷金山附近ニ於ケル第三紀凝灰質頁岩ノ變質シタルモノハ砥材ニ適シ里人時ニ之ヲ採取スト云フ

八 粘土

古來ヨリ有名ナル薩摩燒原料ハ揖宿、川邊兩郡ニ産スル粘土ト霧島ニ産スル粘土トヲ混合シタルモノナリ

揖宿郡産粘土 鱧ヶ池附近及指宿村字道上村ノ南方十數町ノ溪間ニ

粘土ヲ産シ往昔ヨリ採取セラル、此外大山及上仙田ニモ亦同種ノ粘土ヲ産スト云フ、鰻ヶ池附近ニ産スル粘土ニ二種アリ、一ハ俗ニ「ネバ」、一ハ「バラ」ト稱シ共ニ純白ナルモ、「ネバ」ハ粘質強ク「バラ」ハ粘着力弱ク稍粗鬆ナリ、該粘土ハ獨リ薩摩燒ノ原料タルノミナラス京阪地方ニ輸送シテ粟田燒等ノ原料トナルモ其一年ノ産額ハ明治三十八年ニハ十五萬斤、價額五百二十五圓、同三十九年ニハ二十八萬斤、價額三百圓内外ナリト云フ、斯ノ如ク價廉ニ需要亦多カラサルヲ以テ注文ニ應シ採取スルノミニシテ常ニ此業ニ従事スル者ナシ、巡回ノ當時ハ恰モ休業中ニ屬シ良好ナル粘土ハ埋没シテ之ヲ檢スルヲ得ス、蓋シ「ネバ」ヲ産スル所ハ鰻温泉附近ニシテ數ヶ所ニ探掘跡アリ、上部ハ多クハ褐色ニ變シ不純ニシテ質良好ナラサルヲ以テ地下一丈餘ヲ掘下シ純白ニシテ良好ナル部分ヲ採取ス、「バラ」ハ鰻温泉ノ對岸即チ鰻ヶ池ノ南西隅ニ産ス、共ニ輝石安山岩ノ硫氣及熱泉ノ作用ヲ受ケ變質霉爛シテ柔軟トナルモノニシテ採取ニ際シ白煙ノ放散ニ會シ困難スルコト屢ナリ、又近時北方

ナル池底ニ「ネバ」ヲ發見シ之ヲ探掘セル跡アリ
 粘土ノ現産出區域ハ甚タ廣カラサルカ如ク其今後ニ於ケル産出量ハ之ヲ知ルニ難シト雖モ此附近一帶ノ地ハ火山作用ノ激甚ナリシ地方ニシテ殊ニ鰻温泉附近ハ今尙盛ニ硫氣及熱泉ヲ發散湧出スルヲ以テ探求宜シキヲ得ハ更ニ新産地ヲ發見スルコトアラン
 宮ヶ濱ノ南方一里餘池底ヲ經テ南方ニ通スル徑路ニ沿ヒ溪間ニ於テ嘗テ粘土ヲ採取セル跡アリ、地ハ指宿村字道上村ノ南方十數町ニアリテ輝石安山岩ヨリ成リ今尙盛ニ硫氣ヲ噴出ス、蓋シ鰻ヶ池附近ト同シク該岩石ノ變質セルモノナルヘシ、其區域廣カラス
 鰻温泉附近ニ産スル粘土ノ分析表ハ載セテ明治二十五年地質要報第一號ニ在リ左ニ之ヲ再録セン(百分中)

証	酸	礫	土	第二酸化鐵	石	灰	苦	土	加	里	曹	連	灼	熱	減	量
四一、六八	四〇、三六	〇、二八	〇、八五	〇、一一	〇、五一	〇、九五	一六、〇二	五七、五四	二七、五二	〇、三三	痕跡	〇、一六	〇、七五	一、二七	一一、八六	

川邊郡産粘土 西加世田村小浦ノ南十町字椎ノ木村落西方ノ丘陵ニ
露出セル中生代砂岩ハ鰻温泉附近ニ産スル粘土等ト混シテ陶器ノ原
料トナス、蓋シ該砂岩ハ主ニ石英粒ト陶土トヨリ成リ甚シク分解シテ
柔軟トナレリ、其白色殊ニ純白ナル部分ハ陶土ニ用キテ良好ナリ、其區
域ハ甚タ狭カラス、産額ハ注文ニ應シテ採取スルヲ以テ毎歲不同ニシ
テ明治三十九年ニハ纔ニ一俵七十斤入二百俵ヲ採取セルニ過キス、價
格ハ一俵二十錢内外ナリト云フ、又鹿兒島郡中ノ茶屋附近ニモ此種ノ
砂岩ヲ産シ磨砂又ハ陶土トシテ採取セルモ其量多カラス
勝目村本別府大久保ニハ緻密ナル石英斑岩ノ分解シテ粘土様トナレ
ルモノ及川邊、鹿兒島街道ニ當レル中小家ノ西ニ露出セル柔軟ナル中
生代白色砂岩ハ嘗テ陶器原料トシテ採取セラレタリト云フ
釉藥 川邊郡加世田村津貫ヨリ加世田ニ通スル舊街道ノ峙ノ西方ニ
露出スル石英斑岩ハ質緻密ニシテ殆ント白色ナリ、嘗テ釉藥トシテ採
取セルコトアリト云フ

髮洗土 揖宿郡山川灣ノ西方成川ノ東山腹ニ輝石安山岩ノ變質シテ
柔軟トナレルモノアリ、其色灰白又ハ帶綠色ニシテ水ニ浸セハ容易ニ
泥土様トナリ砂石ヲ雜ヘス、里人ノヲ採取シ髮洗ノ用ニ供ス
陶工場 川邊ノ北數町野間ニ陶工場アリ、明治三十六年八代ノ人移住
シテ陶器ノ製造ニ着手シ高田焼ト同種ノ陶器ヲ製造シ川邊焼ト稱ス、
現時ハ一年僅ニ千圓内外ノ陶器ヲ製出スルニ過キス、粘土ハ主ニ揖宿
産ノモノヲ用ヒ少量ノ川邊産ノモノヲ混用スト云フ

九 火山灰

圖幅地内ニ廣ク分布スル火山灰ハ現時ニ於テ之ヲ應用スルノ途ニ乏
シク厩肥ニ調合シテ使用スルノ外灰白ニシテ純良ナルモノ若クハ細
微ナルモノハ磨砂トシテ里人ノ之ヲ採取スルモノアリ、而シテ大野技
師「セメント」原料トシテ火山灰試驗ノ際揖宿郡宮ヶ濱、池田、小川附近ニ
産スルモノヲ分析セラレタルニ其結果左ノ如クニシテ甚タ良好ナラ
ス(百分中)

	不溶解	可溶性	鐵 (Fe ₂ O ₃)	礬	土	滿 (Mn ₂ O ₃)	石	灰	苦	土	灼熱減量
宮ケ濱	六七、六九	一八、七七	二、五四	三、二八		〇、五六	一、二〇	五、四一			
池田	七〇、五七	一九、〇八	一、一〇	三、五二	〇、一五	一、七七	〇、三四	二、三〇			
小川	五六、〇六	二二、六五	四、五四	一、四六	一、〇二	〇、六三	〇、九四	一、八三			

十 鑛泉

温泉ハ揖宿郡ノ南東部ニ其數多ク安山岩ノ裂罅若クハ火山灰中ヨリ湧出ス、中生層ヨリ湧出スルモノハ温度低ク若クハ冷泉ニ屬ス、共ニ地不便ナルヲ以テ山川村並ニ湯之浦温泉ヲ除ケハ僅ニ浴場ヲ設ケ若クハ現ニ浴場ヲ設ケサル所アリ、左ニ之ヲ列舉セン、但シ其泉質温度等ハ日本鑛泉誌ニ據レリ

鰻温泉ハ揖宿郡山川村鰻ヶ池畔ニ在リテ無色無臭透明ノ單純泉ニ屬ス、温度ハ百三十五度ニシテ「リートル」中固形分〇、一九四瓦ヲ含有シ弱亞爾加里性ノ反應ヲ呈ス

東道濱温泉ハ山川村濱兒ヶ水ノ海岸ニアリテ無色無臭無味ノ鹽類泉ニ屬ス、温度ハ百二十五度ニシテ「リートル」中固形分四、〇四瓦ヲ含有シ弱亞兒加里性ノ反應ヲ呈ス

清水谷温泉ハ東道濱温泉ヲ距ル數町岡兒水ニ在リテ微鹹アル無色無臭透明ノ鹽類泉ニ屬ス、温度ハ百十五度ニシテ「リートル」中固形分二、〇二六瓦ヲ含有シ亞兒加里性ノ反應ヲ呈ス

三十六ノ前温泉ハ揖宿村十二町港ノ東四五町ニアリテ鹹味アル無色透明無臭ノ鹽類泉ニ屬ス、温度ハ百四十四度ニシテ「リートル」中固形分四、六六五瓦ヲ含有シ弱亞兒加里性ノ反應ヲ呈ス

三節温泉ハ港ノ北西約三町ニアリテ鹹味アル無色透明無臭ノ鹽類泉ニ屬ス、温度ハ百十七度ニシテ「リートル」中固形分三、三五八瓦ヲ含有シ弱亞兒加里性ノ反應ヲ呈ス

摺ノ濱温泉ハ港ノ南摺ノ濱ニアリテ軟鹹アル無色透明無臭ノ鹽類泉ニ屬ス、温度ハ百七度ニシテ「リートル」中固形分二、三二二瓦ヲ含有シ

弱亞兒加里性ノ反應ヲ呈ス
 六反田温泉又ハ彌次ヶ湯ハ港ノ北東約十町ノ字十町六反田ニアリテ
 微鹹アル無色透明無臭ノ鹽類泉ニ屬ス、溫度ハ百三十二度ニシテ遊離
 炭酸〇、〇三二瓦ヲ含有シ「リートル」中固形分三、七五五瓦ヲ含有シ弱
 亞兒加里性ノ反應ヲ呈ス
 間水温泉ハ指宿村大字東方字間水ニアリテ鹹味アル無色透明無臭ノ
 鹽類泉ニ屬ス、溫度ハ百十五度ニシテ遊離炭酸〇、〇一三瓦ヲ含有シ「
 リートル」中固形分三、七五五瓦ヲ含有シ弱亞兒加里性ノ反應ヲ呈ス
 二月田温泉ハ間水温泉ノ東約四町ニアリテ無色透明無臭ノ鹽類泉ニ
 屬シ味甘鹹ヲ混シ鐵氣ヲ帶フ、溫度ハ百二十二度ニシテ遊離炭酸〇、一
 一七瓦ヲ含有シ「リートル」中固形分五、〇七九瓦ヲ含有シ酸性ノ反應
 ヲ呈ス
 芝立温泉ハ指宿村大字西方芝立ニアリテ微鹹アル無色透明無臭ノ鹽
 類泉ニ屬ス、溫度ハ百〇七度ニシテ遊離炭酸〇、四五七瓦ヲ含有シ「リ

「リートル」中固形分一、三九六瓦ヲ含有セリ、其反應ハ中性ナリト雖モ蒸發
 スレハ弱亞兒加里性ヲ呈ス
 山川港ノ西方沿岸ニ安山岩ノ裂罅ヨリ温泉湧出ス、鹽類泉ニ屬スルセ
 ノナラン、此他沿岸ノ火山灰中ヨリ温泉ノ湧出スル所アリ
 湯ノ浦温泉ハ日置郡伊作村湯ノ浦ニアリテ硫化水素臭アル無色透明
 ノ炭酸泉ニ屬ス、溫度ハ百五十二度ニシテ硫化水素〇、七三一瓦ヲ含有
 シ「リートル」中固形分〇、二六四瓦ヲ含有シ弱酸性ノ反應ヲ呈ス
 長瀬温泉ハ川邊郡坊村字長瀬ニアリテ稍酸味アル無色透明ノ酸性泉
 ニ屬ス、溫度六十七度ニシテ「リートル」中固形分〇、四一六瓦ヲ含有シ
 弱酸性ノ反應ヲ有ス
 犬牟田温泉ハ川邊郡鹿籠村字犬牟田ニアリテ無色透明無臭無味ノ鹽
 類泉ニ屬ス、溫度ハ六十六度ニシテ「リートル」中固形分〇、六九瓦ヲ含
 有シ弱亞兒加里性ノ反應ヲ有ス
 内野温泉ハ肝屬郡垂水村ニアリテ花崗岩中ヨリ湧出ス

浦之名冷泉ハ日置郡田布施ノ東方浦之名ニアリ、泉質明ナラス
 廣渡山冷泉ハ肝屬郡内ノ浦村大字岸良大原ニアリテ無色無臭無味ノ
 單純泉ニ屬ス、温度ハ四十八度ニシテ一リートル「中固形分〇、一一瓦ヲ
 含有シ亞兒加里性ノ反應ヲ呈ス
 太平冷泉ハ鹿屋村秋川太平ニアリテ無色無臭無味ノ單純泉ニ屬ス、温
 度ハ四十五度ニシテ一リートル「中固形分〇、一二五瓦ヲ含有シ弱酸性
 ノ反應ヲ呈ス
 湯ノ谷温泉ハ高山村湯ノ谷ニアリテ少シク帶色鹹味アル鹽類泉ニ屬
 ス、温度ハ七十二度ニシテ一リートル「中固形分〇、一瓦ヲ含有シ亞兒加
 里性ノ反應ヲ呈ス
 野崎冷泉ハ高山村野崎ノ南數町ニアリ、泉質明ナラス
 大隣冷泉ハ川邊郡知覽村大隣ニアリ、泉質明ナラス

明治四十三年八月十七日印刷
 明治四十三年八月二十日發行

著作權所有

農商務省

定價金八拾七錢

東京市神田區通新石町三番地

印刷者 田中市之助

東京市神田區通新石町三番地

印刷所 東陽堂支店

東京市神田區通新石町三番地

發賣所 東陽堂支店

地質調查所新刊圖書

同上說明書	日和佐圖幅地質圖	同上說明書	下縣圖幅地質圖	同上說明書	輪島圖幅地質圖	油田第九區(寺泊)地質及地形圖並說明書	油田第八區(米山、福津)地質及地形圖並說明書	金澤圖幅地形圖	松山圖幅地形圖	日和佐圖幅地形圖	延岡圖幅地形圖	下縣圖幅地形圖	上縣圖幅地形圖
定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價
金四拾錢	歐和各金四拾五錢	歐和各金貳拾八錢	歐和各金四拾五錢	歐和各金參拾七錢	歐和各金四拾五錢	金壹圓五拾五錢	金貳圓八拾四錢	歐和金參拾五錢	歐和金參拾五錢	歐和金參拾五錢	歐和金參拾五錢	歐和金參拾五錢	歐和金參拾五錢

發賣所
東陽堂

東京市神田區通新石町

地質調查所新刊圖書

地質調查所報告第十四號

樽前山噴火調查報告文 (附圖七葉)
 福島縣石城郡湯本温泉調查報告文 (附圖二葉)
 浙江省錢塘江上流視察報告文 (附圖二葉)

同

上第十五號

江濃地震調查概報 (附圖三葉)
 阿蘇火山新噴火口 (附圖二葉)
 樽前火山產灰石ノ化學成分 (附圖二葉)

同

上第十六號

九州金鑛製煉ニ關スル調査概報 (附圖一葉)
 越後油井内溫度調査 (附圖二葉)

同

上第十七號

明治四十二年十二月淺間山破裂 (附圖三葉)
 豐後九重山硫黃山 (附圖二葉)
 伊豫國宇摩郡土居村產雲母ノ分析報告

同

上第十八號

長崎縣四彼杵郡松島煤田地質概報文 (附圖三葉)
 相模國山北附近地質調査概報 (附圖二葉)

同

上第十九號

明治三十二年ニ於ケル木邦ノ石油業
 遠江國相良產石油試驗報告文
 越後國勝見產石油試驗報告文
 越後國新津產石油精製試驗

定價金九十五錢

佐藤技師

中村技師

定價金七拾五錢

中村技師

伊木技師

神津技師

定價金六拾錢

清水技師

河村技師

定價金四拾八錢

佐藤技師

佐藤技師

安田囃託員

定價金八拾五錢

大塚技師

加藤鐵之助

定價金六拾錢

伊木技師

河村技師

清水技師

發賣所

東陽堂

東京市神田區通新石町